

講義コード	U350100101	科目ナンバリング	035A101	単位	2
講義名	コミュニケーション演習(初級)1A				
副題	Das Leben (A1)				
英文科目名	German Communication (Basic Class) 1				
担当者名	BAUER, Lars				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	通年 水曜日 1時限 西1-201				

### 授業概要

テーマごとに基本的な語彙や表現を身につけ、文法知識を使えるものにします。ドイツ語の入門と基礎固めをしながら「話す」「聞く」「書く」「読む」能力をバランスよく習得することを目標とします。

### 到達目標

様々な場面(挨拶、喫茶店、街や家族の紹介など)やテーマ(職業、休暇、飲食、洋服、天気など)におけるドイツ語の表現をマスターします。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	挨拶表現;アルファベット
第2回	Lektion 1: 自己紹介の表現;疑問詞(wo, woher)と前置詞(in, aus)
第3回	Lektion 2: 住所と電話番号;数字
第4回	Lektion 2+3: 喫茶店での会話;動詞の人称変化
第5回	Lektion 3: 喫茶店での会話;定冠詞と不定冠詞
第6回	Lektion 4: レストラン表現;疑問文と前置詞(mit, ohne)
第7回	Lektion 4+5: 時間の表現;曜日や時間
第8回	Lektion 5: 時間の表現;分離動詞
第9回	Lektion 6: 街を散策する;名詞の複数形
第10回	Lektion 6+7: 場所の表現;3・4格支配の前置詞
第11回	Lektion 7: 場所の表現;建物の中の案内
第12回	Lektion 8: 趣味や休暇について語り合う;war と haben の過去形;話法の助動詞(können)
第13回	学期末試験
第14回	Lektion 9: 住居を紹介する;様々な形容詞表現
第15回	Lektion 9+10: 家族を紹介する;所有冠詞
第16回	Lektion 10: 家族を紹介する;現在完了形
第17回	Lektion 11: 体験談を語る;様々な職業に関する表現
第18回	Lektion 11+12: 料理;料理に関する表現
第19回	Lektion 12: 料理;話法の助動詞(müssen)
第20回	Lektion 13: スポーツ;命令形
第21回	Lektion 13+14: 衣服;衣服と色に関する表現
第22回	Lektion 14: 衣服;冠詞の代名詞化
第23回	Lektion 14+15: 季節と天気;天気予報、非人称表現(es)
第24回	Lektion 15: 季節と天気;形容詞の比較表現
第25回	Lektion 16: 旅行;休暇の計画を話す;話法の助動詞(wollen);
第26回	学年末試験

### 授業計画コメント

ドイツ語圏文化学科(1年次)のみを対象とした科目で、コミュニケーション演習(初級)1、2を同時履修することになっています。共通の教科書を用い、担当者間で内容や進度の確認をしながら進めていきます。

### 授業方法

授業は基本的に対面で行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

単語帳に挙がっている単語は毎回事前に目を通しておくこと。授業時に出た宿題を必ずやること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)		

#### **成績評価コメント**

教科書の2~3つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分は、あくまで目安です。

#### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

テスト返却時にコメントします。

#### **教科書**

Das Leben (A1.1): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

Das Leben (A1.2): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

#### **教科書コメント**

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

#### **その他**

原則として1年次に履修すること。

講義コード	U350100102	科目ナンバリング	035A101	単位	2
講義名	コミュニケーション演習(初級)1B				
副題	Das Leben (A1)				
英文科目名	German Communication (Basic Class) 1				
担当者名	BAUER, Lars				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	通年 水曜日 2時限 西1-201				

### 授業概要

テーマごとに基本的な語彙や表現を身につけ、文法知識を使えるものにします。ドイツ語の入門と基礎固めをしながら「話す」「聞く」「書く」「読む」能力をバランスよく習得することを目標とします。

### 到達目標

様々な場面(挨拶、喫茶店、街や家族の紹介など)やテーマ(職業、休暇、飲食、洋服、天気など)におけるドイツ語の表現をマスターします。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	挨拶表現;アルファベット
第2回	Lektion 1: 自己紹介の表現;疑問詞(wo, woher)と前置詞(in, aus)
第3回	Lektion 2: 住所と電話番号;数字
第4回	Lektion 2+3: 喫茶店での会話;動詞の人称変化
第5回	Lektion 3: 喫茶店での会話;定冠詞と不定冠詞
第6回	Lektion 4: レストラン表現;疑問文と前置詞(mit, ohne)
第7回	Lektion 4+5: 時間の表現;曜日や時間
第8回	Lektion 5: 時間の表現;分離動詞
第9回	Lektion 6: 街を散策する;名詞の複数形
第10回	Lektion 6+7: 場所の表現;3・4格支配の前置詞
第11回	Lektion 7: 場所の表現;建物の中の案内
第12回	Lektion 8: 趣味や休暇について語り合う;war と haben の過去形;話法の助動詞(können)
第13回	学期末試験
第14回	Lektion 9: 住居を紹介する;様々な形容詞表現
第15回	Lektion 9+10: 家族を紹介する;所有冠詞
第16回	Lektion 10: 家族を紹介する;現在完了形
第17回	Lektion 11: 体験談を語る;様々な職業に関する表現
第18回	Lektion 11+12: 料理;料理に関する表現
第19回	Lektion 12: 料理;話法の助動詞(müssen)
第20回	Lektion 13: スポーツ;命令形
第21回	Lektion 13+14: 衣服;衣服と色に関する表現
第22回	Lektion 14: 衣服;冠詞の代名詞化
第23回	Lektion 14+15: 季節と天気;天気予報、非人称表現(es)
第24回	Lektion 15: 季節と天気;形容詞の比較表現
第25回	Lektion 16: 旅行;休暇の計画を話す;話法の助動詞(wollen);
第26回	学年末試験

### 授業計画コメント

ドイツ語圏文化学科(1年次)のみを対象とした科目で、コミュニケーション演習(初級)1、2を同時履修することになっています。共通の教科書を用い、担当者間で内容や進度の確認をしながら進めていきます。

### 授業方法

授業は基本的に対面で行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

単語帳に挙がっている単語は毎回事前に目を通しておくこと。授業時に出た宿題を必ずやること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)		

#### **成績評価コメント**

教科書の2~3つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分は、あくまで目安です。

#### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

テスト返却時にコメントします。

#### **教科書**

Das Leben (A1.1): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

Das Leben (A1.2): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

#### **教科書コメント**

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

#### **その他**

原則として1年次に履修すること。

講義コード	U350101101	科目ナンバリング	035A102	単位	2
講義名	コミュニケーション演習(初級)2A				
副題	Das Leben (A1)				
英文科目名	German Communication (Basic Class) 2				
担当者名	KERN, Daniel				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	通年 金曜日 2時限 西2-305				

### 授業概要

テーマごとに基本的な語彙や表現を身につけ、文法知識を使えるものにします。ドイツ語の入門と基礎固めをしながら「話す」「聞く」「書く」「読む」能力をバランスよく習得することを目標とします。

### 到達目標

様々な場面(挨拶、喫茶店、街や家族の紹介など)やテーマ(職業、休暇、飲食、洋服、天気など)におけるドイツ語の表現をマスターします。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	挨拶表現;アルファベット
第2回	Lektion 1: 自己紹介の表現;疑問詞(wo, woher)と前置詞(in, aus)
第3回	Lektion 2: 住所と電話番号;数字
第4回	Lektion 2+3: 喫茶店での会話;動詞の人称変化
第5回	Lektion 3: 喫茶店での会話;定冠詞と不定冠詞
第6回	Lektion 4: レストラン表現;疑問文と前置詞(mit, ohne)
第7回	Lektion 4+5: 時間の表現;曜日や時間
第8回	Lektion 5: 時間の表現;分離動詞
第9回	Lektion 6: 街を散策する;名詞の複数形
第10回	Lektion 6+7: 場所の表現;3・4格支配の前置詞
第11回	Lektion 7: 場所の表現;建物の中の案内
第12回	Lektion 8: 趣味や休暇について語り合う;war と haben の過去形;話法の助動詞(können)
第13回	学期末試験
第14回	Lektion 9: 住居を紹介する;様々な形容詞表現
第15回	Lektion 9+10: 家族を紹介する;所有冠詞
第16回	Lektion 10: 家族を紹介する;現在完了形
第17回	Lektion 11: 体験談を語る;様々な職業に関する表現
第18回	Lektion 11+12: 料理;料理に関する表現
第19回	Lektion 12: 料理;話法の助動詞(müssen)
第20回	Lektion 13: スポーツ;命令形
第21回	Lektion 13+14: 衣服;衣服と色に関する表現
第22回	Lektion 14: 衣服;冠詞の代名詞化
第23回	Lektion 14+15: 季節と天気;天気予報、非人称表現(es)
第24回	Lektion 15: 季節と天気;形容詞の比較表現
第25回	Lektion 16: 旅行;休暇の計画を話す;話法の助動詞(wollen);
第26回	学年末試験

### 授業計画コメント

ドイツ語圏文化学科(1年次)のみを対象とした科目で、コミュニケーション演習(初級)1、2を同時履修することになっています。共通の教科書を用い、担当者間で内容や進度の確認をしながら進めていきます。

### 授業方法

授業は基本的に対面で行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

単語帳に挙がっている単語は毎回事前に目を通しておくこと。授業時に出た宿題を必ずやること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)		

#### 成績評価コメント

教科書の2~3つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分は、あくまで目安です。

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テスト返却時にコメントします。

#### 教科書

Das Leben (A1.1): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

Das Leben (A1.2): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

#### 教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

#### その他

原則として1年次に履修すること。

講義コード	U350101102	科目ナンバリング	035A102	単位	2
講義名	コミュニケーション演習(初級)2B				
副題	Das Leben (A1)				
英文科目名	German Communication (Basic Class) 2				
担当者名	KERN, Daniel				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	通年 金曜日 1時限 西2-305				

### 授業概要

テーマごとに基本的な語彙や表現を身につけ、文法知識を使えるものにします。ドイツ語の入門と基礎固めをしながら「話す」「聞く」「書く」「読む」能力をバランスよく習得することを目標とします。

### 到達目標

様々な場面(挨拶、喫茶店、街や家族の紹介など)やテーマ(職業、休暇、飲食、洋服、天気など)におけるドイツ語の表現をマスターします。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	挨拶表現;アルファベット
第2回	Lektion 1: 自己紹介の表現;疑問詞(wo, woher)と前置詞(in, aus)
第3回	Lektion 2: 住所と電話番号;数字
第4回	Lektion 2+3: 喫茶店での会話;動詞の人称変化
第5回	Lektion 3: 喫茶店での会話;定冠詞と不定冠詞
第6回	Lektion 4: レストラン表現;疑問文と前置詞(mit, ohne)
第7回	Lektion 4+5: 時間の表現;曜日や時間
第8回	Lektion 5: 時間の表現;分離動詞
第9回	Lektion 6: 街を散策する;名詞の複数形
第10回	Lektion 6+7: 場所の表現;3・4格支配の前置詞
第11回	Lektion 7: 場所の表現;建物の中の案内
第12回	Lektion 8: 趣味や休暇について語り合う;war と haben の過去形;話法の助動詞(können)
第13回	学期末試験
第14回	Lektion 9: 住居を紹介する;様々な形容詞表現
第15回	Lektion 9+10: 家族を紹介する;所有冠詞
第16回	Lektion 10: 家族を紹介する;現在完了形
第17回	Lektion 11: 体験談を語る;様々な職業に関する表現
第18回	Lektion 11+12: 料理;料理に関する表現
第19回	Lektion 12: 料理;話法の助動詞(müssen)
第20回	Lektion 13: スポーツ;命令形
第21回	Lektion 13+14: 衣服;衣服と色に関する表現
第22回	Lektion 14: 衣服;冠詞の代名詞化
第23回	Lektion 14+15: 季節と天気;天気予報、非人称表現(es)
第24回	Lektion 15: 季節と天気;形容詞の比較表現
第25回	Lektion 16: 旅行;休暇の計画を話す;話法の助動詞(wollen);
第26回	学年末試験

### 授業計画コメント

ドイツ語圏文化学科(1年次)のみを対象とした科目で、コミュニケーション演習(初級)1、2を同時履修することになっています。共通の教科書を用い、担当者間で内容や進度の確認をしながら進めていきます。

### 授業方法

授業は基本的に対面で行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

単語帳に挙がっている単語は毎回事前に目を通しておくこと。授業時に出た宿題を必ずやること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)		

#### 成績評価コメント

教科書の2~3つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分は、あくまで目安です。

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テスト返却時にコメントします。

#### 教科書

Das Leben (A1.1): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

Das Leben (A1.2): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

#### 教科書コメント

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。

#### その他

原則として1年次に履修すること。



講義コード	U350102101	科目ナンバリング	035A201	単位	2
講義名	コミュニケーション演習(中級)1A				
副題	Das Leben (A2)				
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 1				
担当者名	PEKAR, Thomas				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
時間割	通年 木曜日 1時限 中央-507				

### 授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

### 到達目標

様々な場面(イベント、家探し、仕事探し等)での様々なテーマ(メディア、環境、地域、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Lektion1 同窓会;招待状を書く
第2回	Lektion1+2 学校時代;再帰代名詞、従属接続詞dass
第3回	Lektion2 交通と移動;従属接続詞weil
第4回	Lektion3 ドイツで家を探す
第5回	Lektion3+4 住居について語る;動詞の名詞化
第6回	Lektion4 インターネットとメディア;間接疑問文ob
第7回	Lektion5 働き方
第8回	Lektion5+6 履歴書を書く;形容詞変化(1格・4格)
第9回	Lektion6 読書;規則動詞の過去形
第10回	Lektion7 動物と暮らす;形容詞変化(3格)
第11回	Lektion7+8 都市を紹介する
第12回	Lektion8 地域の料理と特産品;関係文
第13回	学期末試験
第14回	Lektion9 日常生活を語る
第15回	Lektion9+10 家事;話法の助動詞過去
第16回	Lektion10 フェスティバルと音楽
第17回	Lektion11 自然と環境
第18回	Lektion11+12 環境保護について語る;従属接続詞wenn
第19回	Lektion12 修理とDIY;受動態(現在形)
第20回	Lektion13 山を歩く;感情を表現する
第21回	Lektion13+14 友情を語る
第22回	Lektion14 統計の表現;2格
第23回	Lektion15 田舎の生活
第24回	Lektion15+16 過去と現在を比較する;受動態(過去形)
第25回	Lektion16 幸福と人生の夢;理由の表現(denn)
第26回	学年末試験

### 授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

### 授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所を目を通して頂くこと。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)		

#### **成績評価コメント**

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

#### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

返却時にコメントします。

#### **教科書**

Das Leben (A2.1): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

Das Leben (A2.2): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

#### **教科書コメント**

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。ドイツ語既修者で1年次にDas Leben (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。

#### **履修上の注意**

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350102102	科目ナンバリング	035A201	単位	2
講義名	コミュニケーション演習(中級)1B				
副題	Das Leben (A2)				
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 1				
担当者名	PEKAR, Thomas				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
時間割	通年 木曜日 2時限 中央-507				

### 授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

### 到達目標

様々な場面(イベント、家探し、仕事探し等)での様々なテーマ(メディア、環境、地域、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Lektion1 同窓会;招待状を書く
第2回	Lektion1+2 学校時代;再帰代名詞、従属接続詞dass
第3回	Lektion2 交通と移動;従属接続詞weil
第4回	Lektion3 ドイツで家を探す
第5回	Lektion3+4 住居について語る;動詞の名詞化
第6回	Lektion4 インターネットとメディア;間接疑問文ob
第7回	Lektion5 働き方
第8回	Lektion5+6 履歴書を書く;形容詞変化(1格・4格)
第9回	Lektion6 読書;規則動詞の過去形
第10回	Lektion7 動物と暮らす;形容詞変化(3格)
第11回	Lektion7+8 都市を紹介する
第12回	Lektion8 地域の料理と特産品;関係文
第13回	学期末試験
第14回	Lektion9 日常生活を語る
第15回	Lektion9+10 家事;話法の助動詞過去
第16回	Lektion10 フェスティバルと音楽
第17回	Lektion11 自然と環境
第18回	Lektion11+12 環境保護について語る;従属接続詞wenn
第19回	Lektion12 修理とDIY;受動態(現在形)
第20回	Lektion13 山を歩く;感情を表現する
第21回	Lektion13+14 友情を語る
第22回	Lektion14 統計の表現;2格
第23回	Lektion15 田舎の生活
第24回	Lektion15+16 過去と現在を比較する;受動態(過去形)
第25回	Lektion16 幸福と人生の夢;理由の表現(denn)
第26回	学年末試験

### 授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

### 授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所を目を通して頂くこと。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)		

#### **成績評価コメント**

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

#### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

返却時にコメントします。

#### **教科書**

Das Leben (A2.1): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

Das Leben (A2.2): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

#### **教科書コメント**

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。ドイツ語既修者で1年次にDas Leben (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。

#### **履修上の注意**

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350103101	科目ナンバリング	035A202	単位	2
講義名	コミュニケーション演習(中級)2A				
副題	Das Leben (A2)				
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 2				
担当者名	KERN, Daniel				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
時間割	通年 月曜日 2時限 西1-304				

### 授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

### 到達目標

様々な場面(イベント、家探し、仕事探し等)での様々なテーマ(メディア、環境、地域、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Lektion1 同窓会;招待状を書く
第2回	Lektion1+2 学校時代;再帰代名詞、従属接続詞dass
第3回	Lektion2 交通と移動;従属接続詞weil
第4回	Lektion3 ドイツで家を探す
第5回	Lektion3+4 住居について語る;動詞の名詞化
第6回	Lektion4 インターネットとメディア;間接疑問文ob
第7回	Lektion5 働き方
第8回	Lektion5+6 履歴書を書く;形容詞変化(1格・4格)
第9回	Lektion6 読書;規則動詞の過去形
第10回	Lektion7 動物と暮らす;形容詞変化(3格)
第11回	Lektion7+8 都市を紹介する
第12回	Lektion8 地域の料理と特産品;関係文
第13回	学期末試験
第14回	Lektion9 日常生活を語る
第15回	Lektion9+10 家事;話法の助動詞過去
第16回	Lektion10 フェスティバルと音楽
第17回	Lektion11 自然と環境
第18回	Lektion11+12 環境保護について語る;従属接続詞wenn
第19回	Lektion12 修理とDIY;受動態(現在形)
第20回	Lektion13 山を歩く;感情を表現する
第21回	Lektion13+14 友情を語る
第22回	Lektion14 統計の表現;2格
第23回	Lektion15 田舎の生活
第24回	Lektion15+16 過去と現在を比較する;受動態(過去形)
第25回	Lektion16 幸福と人生の夢;理由の表現(denn)
第26回	学年末試験

### 授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

### 授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所を目を通して頂くこと。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)		

#### **成績評価コメント**

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

#### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

返却時にコメントします。

#### **教科書**

Das Leben (A2.1): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

Das Leben (A2.2): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

#### **教科書コメント**

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。ドイツ語既修者で1年次にDas Leben (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。

#### **履修上の注意**

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350103102	科目ナンバリング	035A202	単位	2
講義名	コミュニケーション演習(中級)2B				
副題	Das Leben (A2)				
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 2				
担当者名	KERN, Daniel				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
時間割	通年 月曜日 1時限 西1-304				

### 授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

### 到達目標

様々な場面(イベント、家探し、仕事探し等)での様々なテーマ(メディア、環境、地域、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Lektion1 同窓会;招待状を書く
第2回	Lektion1+2 学校時代;再帰代名詞、従属接続詞dass
第3回	Lektion2 交通と移動;従属接続詞weil
第4回	Lektion3 ドイツで家を探す
第5回	Lektion3+4 住居について語る;動詞の名詞化
第6回	Lektion4 インターネットとメディア;間接疑問文ob
第7回	Lektion5 働き方
第8回	Lektion5+6 履歴書を書く;形容詞変化(1格・4格)
第9回	Lektion6 読書;規則動詞の過去形
第10回	Lektion7 動物と暮らす;形容詞変化(3格)
第11回	Lektion7+8 都市を紹介する
第12回	Lektion8 地域の料理と特産品;関係文
第13回	学期末試験
第14回	Lektion9 日常生活を語る
第15回	Lektion9+10 家事;話法の助動詞過去
第16回	Lektion10 フェスティバルと音楽
第17回	Lektion11 自然と環境
第18回	Lektion11+12 環境保護について語る;従属接続詞wenn
第19回	Lektion12 修理とDIY;受動態(現在形)
第20回	Lektion13 山を歩く;感情を表現する
第21回	Lektion13+14 友情を語る
第22回	Lektion14 統計の表現;2格
第23回	Lektion15 田舎の生活
第24回	Lektion15+16 過去と現在を比較する;受動態(過去形)
第25回	Lektion16 幸福と人生の夢;理由の表現(denn)
第26回	学年末試験

### 授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

### 授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所を目を通して頂くこと。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)		

#### **成績評価コメント**

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

#### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

返却時にコメントします。

#### **教科書**

Das Leben (A2.1): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

Das Leben (A2.2): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

#### **教科書コメント**

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。ドイツ語既修者で1年次にDas Leben (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。

#### **履修上の注意**

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。



講義コード	U350104101	科目ナンバリング	035A203	単位	2
講義名	コミュニケーション演習(中級)3A				
副題	Das Leben (A2)				
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 3				
担当者名	BEIER-TAGUCHI Diana				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
時間割	通年 火曜日 3時限 南1-106				

### 授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

### 到達目標

様々な場面(イベント、家探し、仕事探し等)での様々なテーマ(メディア、環境、地域、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Lektion1 同窓会;招待状を書く
第2回	Lektion1+2 学校時代;再帰代名詞、従属接続詞dass
第3回	Lektion2 交通と移動;従属接続詞weil
第4回	Lektion3 ドイツで家を探す
第5回	Lektion3+4 住居について語る;動詞の名詞化
第6回	Lektion4 インターネットとメディア;間接疑問文ob
第7回	Lektion5 働き方
第8回	Lektion5+6 履歴書を書く;形容詞変化(1格・4格)
第9回	Lektion6 読書;規則動詞の過去形
第10回	Lektion7 動物と暮らす;形容詞変化(3格)
第11回	Lektion7+8 都市を紹介する
第12回	Lektion8 地域の料理と特産品;関係文
第13回	学期末試験
第14回	Lektion9 日常生活を語る
第15回	Lektion9+10 家事;話法の助動詞過去
第16回	Lektion10 フェスティバルと音楽
第17回	Lektion11 自然と環境
第18回	Lektion11+12 環境保護について語る;従属接続詞wenn
第19回	Lektion12 修理とDIY;受動態(現在形)
第20回	Lektion13 山を歩く;感情を表現する
第21回	Lektion13+14 友情を語る
第22回	Lektion14 統計の表現;2格
第23回	Lektion15 田舎の生活
第24回	Lektion15+16 過去と現在を比較する;受動態(過去形)
第25回	Lektion16 幸福と人生の夢;理由の表現(denn)
第26回	学年末試験

### 授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

### 授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所を目を通して頂くこと。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)		

#### **成績評価コメント**

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

#### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

返却時にコメントします。

#### **教科書**

Das Leben (A2.1): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

Das Leben (A2.2): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

#### **教科書コメント**

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。ドイツ語既修者で1年次にDas Leben (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。

#### **履修上の注意**

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350104102	科目ナンバリング	035A203	単位	2
講義名	コミュニケーション演習(中級)3B				
副題	Das Leben (A2)				
英文科目名	German Communication (Intermediate Class) 3				
担当者名	BEIER-TAGUCHI Diana				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
時間割	通年 火曜日 4時限 南1-106				

### 授業概要

より総合的なドイツ語運用能力を身につけ、ヨーロッパ言語共通参照枠におけるA2レベルのドイツ語力の習得を目指します。コミュニケーション演習中級の1・2・3は、AとBのどのクラスにおいても、それぞれすべて履修することになっています。

### 到達目標

様々な場面(イベント、家探し、仕事探し等)での様々なテーマ(メディア、環境、地域、文化等)に関してドイツ語で自らの意見を述べるできるようになります。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Lektion1 同窓会;招待状を書く
第2回	Lektion1+2 学校時代;再帰代名詞、従属接続詞dass
第3回	Lektion2 交通と移動;従属接続詞weil
第4回	Lektion3 ドイツで家を探す
第5回	Lektion3+4 住居について語る;動詞の名詞化
第6回	Lektion4 インターネットとメディア;間接疑問文ob
第7回	Lektion5 働き方
第8回	Lektion5+6 履歴書を書く;形容詞変化(1格・4格)
第9回	Lektion6 読書;規則動詞の過去形
第10回	Lektion7 動物と暮らす;形容詞変化(3格)
第11回	Lektion7+8 都市を紹介する
第12回	Lektion8 地域の料理と特産品;関係文
第13回	学期末試験
第14回	Lektion9 日常生活を語る
第15回	Lektion9+10 家事;話法の助動詞過去
第16回	Lektion10 フェスティバルと音楽
第17回	Lektion11 自然と環境
第18回	Lektion11+12 環境保護について語る;従属接続詞wenn
第19回	Lektion12 修理とDIY;受動態(現在形)
第20回	Lektion13 山を歩く;感情を表現する
第21回	Lektion13+14 友情を語る
第22回	Lektion14 統計の表現;2格
第23回	Lektion15 田舎の生活
第24回	Lektion15+16 過去と現在を比較する;受動態(過去形)
第25回	Lektion16 幸福と人生の夢;理由の表現(denn)
第26回	学年末試験

### 授業計画コメント

コミュニケーション演習中級の1・2・3ともに、同じ教科書を使用し、担当教員間で内容や進度の確認をしつつ、連動して授業をすすめていきます。

### 授業方法

授業は基本的に対面で行います。遠隔授業に切り替える必要が生じたら、Zoomを利用した同時配信型の授業を行います。

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

事前に教科書と単語帳の該当箇所を目を通して頂くこと。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)		

#### **成績評価コメント**

教科書の2つの課が終わるごとに小テストを授業中に行います。また、学期末または学年末には口頭試験を行います。そのほか、出席、宿題、授業中の参加姿勢を重視します。評価配分はあくまで目安です。

#### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

返却時にコメントします。

#### **教科書**

Das Leben (A2.1): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

Das Leben (A2.2): Kurs- und Übungsbuch, Cornelsen

#### **教科書コメント**

以上のテキストはすべてそろえて必ず購入すること。購入方法は新学期ガイダンス時に指示します。ドイツ語既修者で1年次にDas Leben (A2)の履修を希望する学生は、かならず学科教務委員に事前に相談し、履修が決定した後で教科書を購入してください。

#### **履修上の注意**

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350105201	科目ナンバリング	035A133	単位	2
講義名	アカデミック・スキルズ入門A				
英文科目名	Introduction to Academic Skills				
担当者名	伊藤 白				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第1学期 木曜日 2時限 南2-200				

### 授業概要

アカデミック・スキルズ (academic skills) とは、学ぶためのさまざまな技法のことです。典型的には、情報を整理して取り込んだり、保持したり、評価する技法を指し、ほとんどすべての学問分野に応用がきき、比較的短時間に習得できるものとされています。本授業では、大学で学ぶための基礎となるアカデミック・スキルズを身につけることをめざします。具体的には、自分で疑問に思ったことを問題として取りあげ、関連した過去の研究を探して読み、自らの視点から新たな資料を見つけて分析するという一連の標準的な研究スタイルを理解し、実践できるようになることです。現代の大学生に求められるのは、コンピュータを使った情報収集と情報整理を効率的に行うことです。それに基づいて、プレゼンテーションを行い、レポートを書くことを学びます。

### 到達目標

- ・問題提起・過去の関連研究の検索と読解・新たな資料の発見と分析という標準的研究スタイルを理解し実践できるようになる。
- ・コンピュータを利用して情報収集・情報整理・情報評価ができるようになる。
- ・コンピュータを利用して、レポートを書いたり、プレゼンテーションを効果的にできるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入(授業の進め方、授業で使うツールの説明など)
第2回	標準的な研究スタイルの理解、発言の仕方、PCでドイツ語を使う方法
第3回	大学図書館ガイダンス(図書検索と情報入手のためのテクニック)
第4回	引用と参照、研究倫理
第5回	文献資料の検索と入手(1) 新聞記事データベース
第6回	文献資料の検索と入手(2) 論文検索データベース
第7回	クリティカルリーディング(健全な疑いを持つこと)
第8回	ディスカッション(1)(自分の意見をまとめる、反対意見を述べる)
第9回	ディスカッション(2)(他人の意見に同意する、議論を発展させる)
第10回	Excelの使い方:基本操作とグラフの作成
第11回	資料の入手と利用(テキストデータ、統計資料、音声資料、動画資料)
第12回	プレゼンテーションの仕方(PowerPoint の利用、ハンドアウトの作成)
第13回	レポートの作成(目標設定、構成作成、パラグラフ・ライティング、参考文献リスト作成)

### 授業方法

基本的には対面授業です。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

- ・毎回、必ず課題を出します(1時間程度)。次の授業はその課題を基に進めていきます。
- ・復習は、各自自分のペースで集中して行ってください。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	学期末レポート
小テスト	25 %	毎回の課題の提出
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	25 %	授業中の積極的な発言を評価します。
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭発表

### 成績評価コメント

- ・レポートは、1. テーマへの理解度、2. 文章の論理的展開、3. 日本語力、4. 引用・参照ルールの順守、5. 形式を採点基準とします。
- ・研究倫理の遵守は、成績評価の際の前提としています。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題は主にmoodleによって回収し、コメントします。

### 教科書

知って欲しい国ドイツ,新野守弘、飯田道子、梅田紅子,高文研,2017,978-4-87498-633-2

### 教科書コメント

教科書は、第2学期の『現代地域事情入門ゼミナール A/B』と共通で、一年間を通じて使用します。必ず購入し、第一回目の授業に持参してください。この授業では、前半のⅠ章とⅡ章を主に使用します。

### 参考文献コメント

必要に応じて、授業中にその都度指示します。

### 履修上の注意

ドイツ語圏文化学科の1年生の必修科目で、当学科の1年生は必ず履修しなければなりません。他学部・他学科の学生は履修できません。

### その他

・授業に関する連絡は、G-Portおよびmoodleを通じて行います。

講義コード	U350105202	科目ナンバリング	035A133	単位	2
講義名	アカデミック・スキルズ入門B				
英文科目名	Introduction to Academic Skills				
担当者名	犬飼 彩乃				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第1学期 木曜日 2時限 中央-505				

### 授業概要

アカデミック・スキルズ (academic skills) とは、学ぶためのさまざまな技法のことです。典型的には、情報を整理して取り込んだり、保持したり、評価する技法を指し、ほとんどすべての学問分野に応用がきき、比較的短時間に習得できるものとされています。本授業では、大学で学ぶための基礎となるアカデミック・スキルズを身につけることをめざします。具体的には、自分で疑問に思ったことを問題として取りあげ、関連した過去の研究を探して読み、自らの視点から新たな資料を見つけて分析するという一連の標準的な研究スタイルを理解し、実践できるようになることです。現代の大学生に求められるのは、コンピュータを使った情報収集と情報整理を効率的に行うことです。それに基づいて、プレゼンテーションを行い、レポートを書くことを学びます。

### 到達目標

- ・問題提起・過去の関連研究の検索と読解・新たな資料の発見と分析という標準的研究スタイルを理解し実践できるようになる。
- ・コンピュータを利用して情報収集・情報整理・情報評価ができるようになる。
- ・コンピュータを利用して、レポートを書いたり、プレゼンテーションを効果的にできるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入(授業の進め方、授業で使うツールの説明など)
第2回	標準的な研究スタイルの理解、発言の仕方、PCでドイツ語を使う方法
第3回	大学図書館ガイダンス(図書検索と情報入手のためのテクニック)
第4回	引用と参照、研究倫理
第5回	文献資料の検索と入手(1) 新聞記事データベース
第6回	文献資料の検索と入手(2) 論文検索データベース
第7回	クリティカルリーディング(健全な疑いを持つこと)
第8回	ディスカッション(1)(自分の意見をまとめる、反対意見を述べる)
第9回	ディスカッション(2)(他人の意見に同意する、議論を発展させる)
第10回	Excelの使い方:基本操作とグラフの作成
第11回	資料の入手と利用(テキストデータ、統計資料、音声資料、動画資料)
第12回	プレゼンテーションの仕方(PowerPoint の利用、ハンドアウトの作成)
第13回	レポートの作成(目標設定、構成作成、パラグラフ・ライティング、参考文献リスト作成)

### 授業方法

基本的には対面授業です。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

- ・毎回、必ず課題を出します(1時間程度)。次の授業はその課題を基に進めていきます。
- ・復習は、各自自分のペースで集中して行ってください。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	学期末レポート
小テスト	25 %	毎回の課題の提出
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	25 %	授業中の積極的な発言を評価します。
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭発表

### 成績評価コメント

- ・レポートは、1. テーマへの理解度、2. 文章の論理的展開、3. 日本語力、4. 引用・参照ルールの順守、5. 形式を採点基準とします。
- ・研究倫理の遵守は、成績評価の際の前提としています。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題は主にmoodleによって回収し、コメントします。

### 教科書

知って欲しい国ドイツ,新野守弘、飯田道子、梅田紅子,高文研,2017,978-4-87498-633-2

### 教科書コメント

教科書は、第2学期の『現代地域事情入門ゼミナール A/B』と共通で、一年間を通じて使用します。必ず購入し、第一回目の授業に持参してください。この授業では、前半のⅠ章とⅡ章を主に使用します。

### 参考文献コメント

必要に応じて、授業中にその都度指示します。

### 履修上の注意

ドイツ語圏文化学科の1年生の必修科目で、当学科の1年生は必ず履修しなければなりません。他学部・他学科の学生は履修できません。

### その他

・授業に関する連絡は、G-Portおよびmoodleを通じて行います。



講義コード	U350106201	科目ナンバリング	035A134	単位	2
講義名	現代地域事情 入門ゼミナールA				
英文科目名	Introduction to Contemporary Area Studies				
担当者名	伊藤 白				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第2学期 木曜日 2時限 西2-503				

### 授業概要

ドイツ語圏文化学科1年生の必修科目です。1学期のアカデミック・スキルズ入門で学んだ調査方法やプレゼンテーションの仕方・レポートの書き方等についての基礎的な理解を前提に、主にグループワークで戦後～現代ドイツの重要テーマを学びます。授業の最後には、それらのテーマをさらに深めて発表を行います。またその内容をまとめてレポートとして提出します。

### 到達目標

現代ドイツの地域事情について、基礎的な知識を身に着けること。  
自らテーマを選び、それについて調べてまとめ、表現する能力を身に着けること。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	東西分断時代のドイツ
第3回	ナチス
第4回	過去の克服
第5回	良心的兵役拒否と徴兵制
第6回	ドイツの憲法と基本法
第7回	移民・難民
第8回	脱原発と環境政策
第9回	EUの中のドイツ
第10回	発表①
第11回	発表②
第12回	発表③
第13回	総括

### 授業方法

演習形式で、グループワークを重視します。授業は基本的に対面で行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回、必ず課題をだします。次の授業はその課題を基に進めていきますので、必ずやってきてください。(2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	学期末レポート
小テスト	25 %	毎回の課題の提出
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	25 %	授業中の積極的な発言を重視します。
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭発表

### 成績評価コメント

・口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。  
・レポートは、1. テーマへの理解度、2. 文章の論理的展開、3. 日本語力、4. 引用・参照ルールの順守、5. 形式を採点基準とします。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題は適宜、授業時にコメントします。  
レポートはコメントを付けて返却します。

### 教科書

知ってほしい国ドイツ,新野守広、飯田道子、梅田紅子,高文研,2017,9784874986332

#### **教科書コメント**

1学期のアカデミック・スキルズ入門で使用した教科書をこの授業でも使用します。

#### **参考文献コメント**

授業時に指示します。

#### **履修上の注意**

履修者数制限あり。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

#### **その他**

G-PortあるいはLMS (moodle)を通じて連絡します。

講義コード	U350106202	科目ナンバリング	035A134	単位	2
講義名	現代地域事情 入門ゼミナールB				
英文科目名	Introduction to Contemporary Area Studies				
担当者名	犬飼 彩乃				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第2学期 木曜日 2時限 北1-406				

### 授業概要

ドイツ語圏文化学科1年生の必修科目です。1学期のアカデミック・スキルズ入門で学んだ調査方法やプレゼンテーションの仕方・レポートの書き方等についての基礎的な理解を前提に、主にグループワークで戦後～現代ドイツの重要テーマを学びます。授業の最後には、それらのテーマをさらに深めて発表を行います。またその内容をまとめてレポートとして提出します。

### 到達目標

現代ドイツの地域事情について、基礎的な知識を身に着けること。  
自らテーマを選び、それについて調べてまとめ、表現する能力を身に着けること。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	東西分断時代のドイツ
第3回	ナチス
第4回	過去の克服
第5回	良心的兵役拒否と徴兵制
第6回	ドイツの憲法と基本法
第7回	移民・難民
第8回	脱原発と環境政策
第9回	EUの中のドイツ
第10回	発表①
第11回	発表②
第12回	発表③
第13回	総括

### 授業方法

演習形式で、グループワークを重視します。授業は基本的に対面で行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回、必ず課題をだします。次の授業はその課題を基に進めていきますので、必ずやってきてください。(2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	学期末レポート
小テスト	25 %	毎回の課題の提出
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	25 %	授業中の積極的な発言を重視します。
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭発表

### 成績評価コメント

・口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。  
・レポートは、1. テーマへの理解度、2. 文章の論理的展開、3. 日本語力、4. 引用・参照ルールの順守、5. 形式を採点基準とします。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題は適宜、授業時にコメントします。  
レポートはコメントを付けて返却します。

### 教科書

知ってほしい国ドイツ,新野守広、飯田道子、梅田紅子,高文研,2017,9784874986332

#### **教科書コメント**

1学期のアカデミック・スキルズ入門で使用した教科書をこの授業でも使用します。

#### **参考文献コメント**

授業時に指示します。

#### **履修上の注意**

履修者数制限あり。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

#### **その他**

G-PortあるいはLMS (moodle)を通じて連絡します。

講義コード	U350107101	科目ナンバリング	035A211	単位	2
講義名	言語・情報 入門ゼミナールA				
英文科目名	Introduction to Linguistics and Information Studies				
担当者名	田中 雅敏				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
時間割	第1学期 金曜日 3時限 北1-301				

### 授業概要

- ・この入門ゼミでは、ドイツ語学の概論として、現代ドイツ語がどのような言語なのかを言語学的に見ます。現代ドイツ語の言語的特徴(語の形態や語順など)は、通時的变化を経たものであり、歴史的変遷を紐解くことで見えてきます。また、現代ドイツ語の共時的特徴を見ながら、言語学の知識(音声学、形態論、統語論、意味論、語彙研究、語用論など)の基礎を身につけます。
- ・ゼミでの口頭発表やレポートの作成のスキルを身につけます。

### 到達目標

- ・人間の言語についての基本的な知識・考え方を「言語学」という学問的枠組みを通して身につけることができる。
- ・言語学の知識をドイツ語の分析に応用することができるようになる。
- ・研究倫理(引用の仕方、参考文献の表記の仕方など)に基づいて学術的な発表・レポート執筆ができるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入(言語学は人間の言語を研究する学問であることを見る概論): 言語とは(言語は記号の体系であることについて考える)
第2回	文字と音:音声学・音韻論
第3回	語の形と文法:形態論
第4回	語と文の意味:意味論
第5回	文構造と意味:統語論
第6回	発話行為と情報伝達:語用論
第7回	世界の言語とドイツ語:類型論
第8回	ドイツ語の変遷:中期高地ドイツ語
第9回	ドイツ語の変遷:初期新高ドイツ語
第10回	発表題目の決定・発表準備
第11回	受講生による発表(1)
第12回	受講生による発表(2)
第13回	受講生による発表(3)・総括

### 授業方法

- 講義+演習方式。
- ・最初の9回は教員が各トピックについてレクチャーします。最後の3回で受講生による発表をします。
  - ・発表のテーマは、トピックごとに学んでいく中で、興味があることを絞り込んでください。
  - ・発表者は、事前に教員までレジユメを提出し、指導を受けてください(詳細は授業で指示します)。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回のトピックに関して事前に配信された資料を読んでくる。また、毎回、復習をして内容の理解・定着に努める。毎回の予習復習は90分程度必要。最終発表の準備に6時間程度要する。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	口頭発表

### 成績評価コメント

毎回の授業で積極的に発言をし、自分が選んだトピックに関して、独自の調査・研究ができることを評価の基準とする。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表・レポートには必ずコメントを返す。

### 教科書コメント

特定の教科書は使用しない。

### 参考文献コメント

授業内で指示する。

講義コード	U350107102	科目ナンバリング	035A211	単位	2
講義名	言語・情報 入門ゼミナールB				
英文科目名	Introduction to Linguistics and Information Studies				
担当者名	田中 雅敏				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
時間割	第2学期 金曜日 3時限 北1-301				

### 授業概要

- ・この入門ゼミでは、ドイツ語学の概論として、現代ドイツ語がどのような言語なのかを言語学的に見ます。現代ドイツ語の言語的特徴(語の形態や語順など)は、通時的変化を経たものであり、歴史的変遷を紐解くことで見えてきます。また、現代ドイツ語の共時的特徴を見ながら、言語学の知識(音声学、形態論、統語論、意味論、語彙研究、語用論など)の基礎を身につけます。
- ・ゼミでの口頭発表やレポートの作成のスキルを身につけます。

### 到達目標

- ・人間の言語についての基本的な知識・考え方を「言語学」という学問的枠組みを通して身につけることができる。
- ・言語学の知識をドイツ語の分析に応用することができるようになる。
- ・研究倫理(引用の仕方、参考文献の表記の仕方など)に基づいて学術的な発表・レポート執筆ができるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入(言語学は人間の言語を研究する学問であることを見る概論): 言語とは(言語は記号の体系であることについて考える)
第2回	文字と音:音声学・音韻論
第3回	語の形と文法:形態論
第4回	語と文の意味:意味論
第5回	文構造と意味:統語論
第6回	発話行為と情報伝達:語用論
第7回	世界の言語とドイツ語:類型論
第8回	ドイツ語の変遷:中期高地ドイツ語
第9回	ドイツ語の変遷:初期新高ドイツ語
第10回	発表題目の決定・発表準備
第11回	受講生による発表(1)
第12回	受講生による発表(2)
第13回	受講生による発表(3)・総括

### 授業方法

- 講義+演習方式。
- ・最初の9回は教員が各トピックについてレクチャーします。最後の3回で受講生による発表をします。
  - ・発表のテーマは、トピックごとに学んでいく中で、興味があることを絞り込んでください。
  - ・発表者は、事前に教員までレジユメを提出し、指導を受けてください(詳細は授業で指示します)。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回のトピックに関して事前に配信された資料を読んでくる。また、毎回、復習をして内容の理解・定着に努める。毎回の予習復習は90分程度必要。最終発表の準備に6時間程度要する。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	口頭発表

### 成績評価コメント

毎回の授業で積極的に発言をし、自分が選んだトピックに関して、独自の調査・研究ができることを評価の基準とする。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表・レポートには必ずコメントを返す。

### 教科書コメント

特定の教科書は使用しない。

### 参考文献コメント

授業内で指示する。



講義コード	U350108101	科目ナンバリング	035A221	単位	2
講義名	文学・文化 入門ゼミナールA				
副題	ドイツ文化史入門				
英文科目名	Introduction to Literature and Cultural Studies				
担当者名	小林 和貴子				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
時間割	第2学期 金曜日 3時限 南1-106				

### 授業概要

この授業では、まずドイツ語圏の地域の歴史的背景を学びます。そのうえで、それぞれの時代に特徴的な芸術作品(文学、絵画、音楽等)に触れ、ドイツ語圏の文化史の全体像をつかむことを目標とします。学生発表を中心に授業を進めますので、その過程で、文献検索の仕方や発表の仕方、レポート作成の基礎等、アカデミック・スキルの基本も学びます。

### 到達目標

- ・ドイツ語圏の(特に近代以降の)歴史の大きな流れをつかむ。
- ・問題を発見するための考え方を身につける。
- ・資料検索、資料作成、レポート作成等の、学習技術も身につける。
- ・他の人の発表にコメントできるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション、発表テーマ希望調査
第2回	教科書「中世から初期近代へ」、希望調査票の提出
第3回	教科書「ナポレオンの衝撃」、発表テーマおよび日程の決定
第4回	教科書「自由と統一をめざして」、文献リストの提出
第5回	教科書「ドイツ帝国」
第6回	教科書「第一次世界大戦」
第7回	教科書「ヴァイマル共和国」
第8回	教科書「ナチ・ドイツ」「ホロコースト」
第9回	教科書「冷戦と分断」、学生発表①
第10回	教科書「二つのドイツ」、学生発表②
第11回	教科書「東西ドイツの統一」、学生発表③
第12回	教科書「過去の克服」、学生発表④
第13回	教科書「統一ドイツとEU」／まとめ

### 授業計画コメント

一人1回、10分程度の口頭発表をしてもらいます。

### 授業方法

グループワークを中心に授業を進めます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

- ・毎回、教科書の指定箇所を事前に読んで、それについてまとめてください(1～2時間程度)。
- ・適宜、発表のための準備を進めてください(1時間程度)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	

### 成績評価コメント

成績には授業への参加態度(積極的発言、課題提出等)も含まれます。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・発表は皆でコメントしあいます。
- ・レポートはコメントをつけて返却します。

### **教科書**

図説 ドイツの歴史,石田勇治,河出書房新社 ,2007,9784309761053

### **参考文献コメント**

授業時に指示します。

### **履修上の注意**

履修者数制限あり。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350108102	科目ナンバリング	035A221	単位	2
講義名	文学・文化 入門ゼミナールB				
副題	ドイツ文化史入門				
英文科目名	Introduction to Literature and Cultural Studies				
担当者名	小林 和貴子				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
時間割	第1学期 金曜日 3時限 南1-106				

### 授業概要

この授業では、まずドイツ語圏の地域の歴史的背景を学びます。そのうえで、それぞれの時代に特徴的な芸術作品(文学、絵画、音楽等)に触れ、ドイツ語圏の文化史の全体像をつかむことを目標とします。学生発表を中心に授業を進めますので、その過程で、文献検索の仕方や発表の仕方、レポート作成の基礎等、アカデミック・スキルの基本も学びます。

### 到達目標

- ・ドイツ語圏の(特に近代以降の)歴史の大きな流れをつかむ。
- ・問題を発見するための考え方を身につける。
- ・資料検索、資料作成、レポート作成等の、学習技術も身につける。
- ・他の人の発表にコメントできるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション、発表テーマ希望調査
第2回	教科書「中世から初期近代へ」、希望調査票の提出
第3回	教科書「ナポレオンの衝撃」、発表テーマおよび日程の決定
第4回	教科書「自由と統一をめざして」、文献リストの提出
第5回	教科書「ドイツ帝国」
第6回	教科書「第一次世界大戦」
第7回	教科書「ヴァイマル共和国」
第8回	教科書「ナチ・ドイツ」「ホロコースト」
第9回	教科書「冷戦と分断」、学生発表①
第10回	教科書「二つのドイツ」、学生発表②
第11回	教科書「東西ドイツの統一」、学生発表③
第12回	教科書「過去の克服」、学生発表④
第13回	教科書「統一ドイツとEU」／まとめ

### 授業計画コメント

一人1回、10分程度の口頭発表をしてもらいます。

### 授業方法

グループワークを中心に授業を進めます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

- ・毎回、教科書の指定箇所を事前に読んで、それについてまとめてください(1～2時間程度)。
- ・適宜、発表のための準備を進めてください(1時間程度)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	

### 成績評価コメント

成績には授業への参加態度(積極的発言、課題提出等)も含まれます。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・発表は皆でコメントしあいます。
- ・レポートはコメントをつけて返却します。

### **教科書**

図説 ドイツの歴史,石田勇治,河出書房新社 ,2007,9784309761053

### **参考文献コメント**

授業時に指示します。

### **履修上の注意**

履修者数制限あり。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350109101	科目ナンバリング	035A311	単位	2
講義名	言語・情報コース ゼミナール(1)				
副題	社会言語学入門:ドイツ語の多様性				
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies				
担当者名	田中 雅敏				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 木曜日 4時限 北1-403				

### 授業概要

社会言語学(社会と言語の関係について研究する分野)のアプローチを用いて、ドイツ語の多様性について考えます。テーマに応じて日本語や英語についても見ます。

言語を用いて生活している社会の諸相、移り変わりなどについて考えます。

### 到達目標

言語を通じて歴史、社会、日常生活などを見つめ直し、また、特定の言語圏(ドイツ語文化圏や日本語文化圏)の言語的実情を自分で調べる(フィールド・ワーク)習慣を身につけることができる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入;授業の進め方
第2回	社会言語学の枠組み
第3回	言語類型論
第4回	言語と思考と文化:言語と文化/文化と言語
第5回	地域の変種:標準語・方言・言語政策
第6回	社会階層の変種
第7回	標言語接触と言語変種(1):クレオール・ピジン
第8回	言語接触と言語変種(2):Kiezdeutsch
第9回	言語とジェンダー:翻訳に見る言葉の性差と会話スタイル
第10回	言語と年齢:世代間変種
第11回	言語の選択:多言語社会・コードスイッチング
第12回	言語の適切さ:レジスター・スタイル
第13回	総括

### 授業方法

対面授業で演習方式で行う。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

トピックごとの内容を理解するために、事前に教科書や参考資料を読む予習が必要となる(60分程度)。報告を担当する場合にはその準備に6時間程度を要する。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	70 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

毎回のトピックについて理解し、自分の考えをもとに議論に参加できること、ドイツ語の多様性について自分なりに分析できることが評価のポイントになります。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業で扱ったトピック(のどれか1つ)についてのレポートを学期末に課す。提出されたレポートには必ずコメントを返す。

### 教科書

**参考文献コメント**

参考文献は授業中に指示する。

**履修上の注意**

ドイツ語圏文化学科言語・情報コース所属の学生のみが履修できます。履修者数制限があります。詳しくは学科からの通知を確認してください。第1回目の授業に必ず出席してください。言語・情報コース ゼミナール(2)を併せて履修すること。

講義コード	U350109102	科目ナンバリング	035A311	単位	2
講義名	言語・情報コース ゼミナール(2)				
副題	社会言語学入門:ドイツ語の多様性				
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies				
担当者名	田中 雅敏				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 木曜日 4時限 北1-403				

### 授業概要

社会言語学(社会と言語の関係について研究する分野)のアプローチを用いて、ドイツ語の多様性について考えます。テーマに応じて日本語や英語についても見ます。

言語を用いて生活している社会の諸相、移り変わりなどについて考えます。

### 到達目標

言語を通じて歴史、社会、日常生活などを見つめ直し、また、特定の言語圏(ドイツ語文化圏や日本語文化圏)の言語的実情を自分で調べる(フィールド・ワーク)習慣を身につけることができる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	1学期の復習
第2回	発話行為と会話の協調性の原理
第3回	ポライトネスと丁寧
第4回	語や文の意味・論理:多義や誤謬
第5回	社会言語学からの貢献:やさしい日本語・やさしいドイツ語・AI
第6回	特集:オーストリアドイツ語(1)
第7回	特集:オーストリアドイツ語(2)
第8回	特集:スイスドイツ語
第9回	参加者発表(1)
第10回	発表(1)に対する補足解説・発展的課題
第11回	参加者発表(2)
第12回	発表(2)に対する補足解説・発展的課題
第13回	総括

### 授業方法

対面授業で演習方式で行う。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

トピックごとの内容を理解するために、事前に教科書や参考資料を読む予習が必要となる(60分程度)。報告を担当する場合にはその準備に6時間程度を要する。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	70 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

毎回のトピックについて理解し、自分の考えをもとに議論に参加できること、ドイツ語の多様性について自分なりに分析できることが評価のポイントになります。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

ゼミナール(1)(2)で扱ったトピック(のどれか1つ)についての発表を課す。それぞれ、発表の翌回に補足解説、トピックの発展的課題について論じる。

## **教科書**

改訂版 社会言語学-基本からディスコース分析まで,岩田祐子・重光由加・村田泰美,ひつじ書房,2022,978-4823411434

## **参考文献コメント**

参考文献は授業中に指示する。

## **履修上の注意**

ドイツ語圏文化学科言語・情報コース所属の学生のみが履修できます。履修者数制限があります。詳しくは学科からの通知を確認してください。第1回目の授業に必ず出席してください。言語・情報コース ゼミナール(1)を併せて履修すること。



講義コード	U350109103	科目ナンバリング	035A311	単位	2
講義名	言語・情報コース ゼミナール(3)				
副題	ドイツ語コーパス言語学入門				
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies				
担当者名	清野 智昭				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 水曜日 5時限 西2-202				

### 授業概要

コーパスとは、実際に使用された言語データを研究目的で集積したもので、通常、電子的に使用できるようにしたものを指します。ドイツ語でもベルリン・ブランデンブルクアカデミーが提供するDWDSやドイツ語研究所(IDS)が提供するDeReKoなど大規模なコーパスが提供されています。この授業では、コーパスを扱うために必要な知識を基礎から学び、各自の興味にもとづいて、ドイツ語の現象を解明する客観的な方法を学びます。

### 到達目標

コーパスを用いた研究の意義やその限界を学び、コーパスを実際に扱うための具体的な技術や統計的処理の方法について理解し、実際に簡単な分析ができるようになることが目標です。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入;コーパス言語学とは何か、授業の進め方や一般的注意
第2回	(第3章)コーパスとはなにか
第3回	(第3章)さまざまなコーパス;ドイツ語のコーパス
第4回	(第3章)さまざまなコーパス;日本語のコーパス
第5回	(第4章)コーパスの作成;データの収集と電子化
第6回	(第4章)コーパスの作成;データのアノテーション
第7回	(第5章)コーパス検索の技術;Antconcの使用法
第8回	(第5章)コーパス検索の技術;Antconcを使ったメルヘン分析
第9回	(第5章)コーパス検索の技術;KH Coderの使用法
第10回	(第5章)コーパス頻度の処理;さまざま頻度
第11回	(第5章)コーパス頻度の処理;頻度差の検証
第12回	(第5章)コーパス頻度の処理;共起を測る指標
第13回	総括

### 授業計画コメント

パソコンを使って作業することが多くなります。PC教室を使用する予定ですが、自分でもノートパソコンを所有し、必要に応じて授業に持参することができるようにしておいてください。

### 授業方法

PC教室にて対面式の演習形態で行う。遠隔授業になる場合は、Zoomによる同時配信型の演習にする。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回扱う方法や技能を身につけるため、予習復習の他、練習問題に解答し、提出する必要があります。(90分)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	70 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

毎回扱う技能を確実に習得し、ドイツ語を独自に分析できるかが評価のポイントになります。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中の課題は随時、レポートに関しては個別にMoodleを通じてフィードバックします。

## **教科書**

ベーシックコーパス言語学 第2版,石川慎一郎,ひつじ書房,2,2021,978-4-8234-1093-2

## **参考文献コメント**

参考文献は授業中に指示します。

## **履修上の注意**

ドイツ語圏文化学科言語・情報コース所属の学生のみが履修できます。履修者数制限があります。詳しくは学科からの通知を確認してください。第1回目の授業に必ず出席してください。言語・情報コース ゼミナール(4)を併せて履修すること。

講義コード	U350109104	科目ナンバリング	035A311	単位	2
講義名	言語・情報コース ゼミナール(4)				
副題	ドイツ語コーパス言語学発展				
英文科目名	Seminar in Linguistics and Information Studies				
担当者名	清野 智昭				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 水曜日 5時限 西2-202				

### 授業概要

コーパスとは、実際に使用された言語データを研究目的で集積したもので、通常、電子的に使用できるようにしたものを指します。ドイツ語でもベルリン・ブランデンブルクアカデミーが提供するDWDSやドイツ語研究所(IDS)が提供するDeReKoなど大規模なコーパスが提供されています。この授業では、コーパスを扱うために必要な知識を基礎から学び、各自の興味にもとづいて、ドイツ語の現象を解明する客観的な方法を学びます。

### 到達目標

第1学期に引き続き、コーパスを用いた研究の意義やその限界を学び、コーパスを実際に扱うための具体的な技術や統計的処理の方法について理解し、実際に言語学的な研究ができるようになるのが目標です。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	一学期の復習、授業の進め方や一般的注意
第2回	(第7章)コーパスと語彙;ドイツ語の「語」の認定の問題
第3回	(第7章)コーパスと語彙;語彙密度
第4回	(第8章)コーパスと語法;類語分析
第5回	(第8章)コーパスと語法;共起語分析
第6回	(第9章)コーパスと文法;心理動詞の分析
第7回	(第9章)コーパスと文法;話法の分析
第8回	(第9章)コーパスと文法;歴史的変化
第9回	(第10章)コーパスと学習者;ドイツ語の学習者コーパス
第10回	(第10章)コーパスと学習者;;ドイツ語の幼児言語コーパス
第11回	参加者発表(1)
第12回	参加者発表(2)
第13回	総括

### 授業計画コメント

パソコンを使って作業することが多くなります。PC教室を使用する予定ですが、自分でもノートパソコンを所有し、必要に応じて授業に持参することができるようにしておいてください。

### 授業方法

PC教室にて対面式の演習形態で行う。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回扱う方法や技能を身につけるため、予習復習の他、練習問題に解答し、提出する必要があります。(90分)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	70 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

毎回扱う技能を確実に習得し、ドイツ語を独自に分析できるかが評価のポイントになります。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中の課題は随時、レポートに関しては個別にMoodleを通じてフィードバックします。

## **教科書**

ベーシックコーパス言語学 第2版,石川慎一郎,ひつじ書房,2,2021,978-4-8234-1093-2

## **参考文献コメント**

参考文献は授業中に指示します。

## **履修上の注意**

ドイツ語圏文化学科言語・情報コース所属の学生のみが履修できます。履修者数制限があります。詳しくは学科からの通知を確認してください。第1回目の授業に必ず出席してください。言語・情報コース ゼミナール(3)を併せて履修すること。

講義コード	U350110101	科目ナンバリング	035A321	単位	2
講義名	文学・文化コース ゼミナール(1)				
副題	翻訳を読むということ(1)				
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies				
担当者名	犬飼 彩乃				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 火曜日 1時限 北1-301				

### 授業概要

ドイツ語圏の文化・思想は、主に明治以降に大量の翻訳によって日本へと輸入されてきました。これからドイツ語圏の文化を勉強しようとしている私たちにとって、偉大なる先人たちが残してくれたたくさんの翻訳を利用できることは、大きな財産です。その翻訳作品を読むとすると、どのように利用していますか。もちろん翻訳によって必要な情報が入手できればそれでよいのですが、必要な情報とはいったい何でしょう。複数の訳書が見つかったら、どれを選びますか。それともやっぱり、時間がかかってもがんばって原文を読んだ方がいいのでしょうか。オリジナルのテキスト、翻訳されたテキストそれぞれの成立背景を調べ、読み比べることで、二つの言語文化が衝突しあう過程を一緒に観察しましょう。前期はまず散文の文芸作品から翻訳の基本的な問題について考えます。

### 到達目標

- ・翻訳研究の領域を知り、その基礎的な知見を学ぶ。
- ・翻訳、特に独日翻訳の構造的問題を知る。
- ・ドイツ語圏文学の有名な作品に慣れ親しみ、自分で使用目的にあった翻訳もしくはオリジナルのテキストを選ぶことができる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入 翻訳研究とは
第2回	翻訳の構造と問題
第3回	翻訳観の変遷:ドイツ語圏編
第4回	翻訳の等価性とは
第5回	翻訳観の変遷:日本語圏編
第6回	グリム兄弟『子どもと家庭のメルヒェン集』
第7回	グリム兄弟『子どもと家庭のメルヒェン集』
第8回	グリム兄弟『子どもと家庭のメルヒェン集』
第9回	トーマス・マン『ブデンプロック家の人々』
第10回	トーマス・マン『ブデンプロック家の人々』
第11回	フランツ・カフカ『城』
第12回	フランツ・カフカ『城』
第13回	まとめ

### 授業計画コメント

受講者の興味や関心にあわせて、取り上げるテキストや内容は変更することがあります。

### 授業方法

グループワークを中心とした演習形式を予定しています。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回あらかじめ配布されたテキスト(ドイツ語・日本語)を読んで、自分なりの意見をまとめてきてください。(2時間程度)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	授業内での発言、コメントペーパー
その他(備考欄を参照)	30 %	授業内での口頭発表

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートはコメントをつけてお返しします。

### 教科書コメント

コピーを配布します。

### 参考文献コメント

授業内で適宜指示します。

### 履修上の注意

第一回目の授業に必ず出席してください。  
文学・文化コース ゼミナール(2)も合わせて受講することが望ましいです。

### その他

出席できない場合には、事前に授業担当者へメールで連絡してください。

講義コード	U350110102	科目ナンバリング	035A321	単位	2
講義名	文学・文化コース ゼミナール(2)				
副題	翻訳を読むということ(2)				
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies				
担当者名	犬飼 彩乃				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 火曜日 1時限 北1-301				

### 授業概要

ドイツ語圏の文化・思想は、主に明治以降に大量の翻訳によって日本へと輸入されてきました。これからドイツ語圏の文化を勉強しようとしている私たちにとって、偉大なる先人たちが残してくれたたくさんの翻訳を利用できることは、大きな財産です。その翻訳作品を読むとすると、どのように利用していますか。もちろん翻訳によって必要な情報が入手できればそれでよいのですが、必要な情報とはいったい何でしょう。複数の訳書が見つかったら、どれを選びますか。それともやっぱり、時間がかかってもがんばって原文を読んだ方がいいのでしょうか。オリジナルのテキスト、翻訳されたテキストそれぞれの成立背景を調べ、読み比べることで、二つの言語文化が衝突しあう過程と一緒に観察しましょう。後期は、韻文やちょっと変わった作品も取り上げ、翻訳の限界とその可能性について考えます。

### 到達目標

- ・翻訳研究の領域を知り、その基礎的な知見を学ぶ。
- ・翻訳、特に独日翻訳の構造的問題を知る。
- ・ドイツ語圏文学の有名な作品に慣れ親しみ、自分で使用目的にあった翻訳もしくはオリジナルのテキストを選ぶことができる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入:さまざまな翻訳と翻訳理論
第2回	翻訳の等価性と翻訳の「ずれ」
第3回	韻文① ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ『ファウスト』
第4回	韻文① ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ
第5回	韻文① ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ
第6回	韻文② その他の詩
第7回	韻文② その他の詩
第8回	韻文③ 歌詞の翻訳
第9回	言語実験の翻訳
第10回	創作における翻訳① 多和田葉子『Überseezungen』『文字移植』
第11回	創作における翻訳② クレメンス・J・ゼッツ「迷惑メール」
第12回	個別発表
第13回	まとめ

### 授業計画コメント

受講者の興味や関心にあわせて、取り上げるテキストや内容は変更することがあります。

### 授業方法

グループワークを中心とした演習形式を予定しています。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回あらかじめ配布されたテキスト(ドイツ語・日本語)を読んで、自分なりの意見をまとめてきてください。(2時間程度)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	授業内での発言、コメントペーパー
その他(備考欄を参照)	30 %	授業内での口頭発表

### 成績評価コメント

翻訳研究の基礎的概念を踏まえた上で、起点テキスト・目標テキスト双方を理解し分析できているかを評価の対象とします。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートはコメントをつけてお返しします。

### 教科書コメント

コピーを配布します。

### 参考文献コメント

授業内で適宜指示します。

### 履修上の注意

第一回目の授業に必ず出席してください。  
文学・文化コース ゼミナール(1)も合わせて受講することが望ましいです。

### その他

出席できない場合には、事前に授業担当者へメールで連絡してください。



講義コード	U350110103	科目ナンバリング	035A321	単位	2
講義名	文学・文化コース ゼミナール(3)				
副題	非母語者によるドイツ語文学				
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies				
担当者名	田丸 理砂				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 水曜日 3時限 西5-301				

### 授業概要

現在ドイツ語圏では、多和田葉子をはじめとした、ドイツ語を母語としない作家によってドイツ語文学が数多く書かれています。この授業では、これらの作家たちの作品をとりあげ、作品の内容だけでなく、ことばや表現に注目して考察していきます。

### 到達目標

ドイツ文学の広がりを知るとともに、文学テキストを解釈し、作品を深く理解する力を身につけることができる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	非母語者によるドイツ語文学について
第3回	シャミッソー『影をなくした男』
第4回	多和田葉子『エクソフォニー』①
第5回	多和田葉子『エクソフォニー』②
第6回	多和田葉子『エクソフォニー』③
第7回	非母語者によるドイツ語文学作品①
第8回	非母語者によるドイツ語文学作品②
第9回	非母語者によるドイツ語文学作品③
第10回	個人発表①
第11回	個人発表②
第12回	個人発表③
第13回	個人発表④／まとめ

### 授業計画コメント

論文やレポート作成の際に知っておくべき研究倫理も学びます。

### 授業方法

グループ学習と学生による研究発表が中心の演習形式の授業です。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

予め与えられた課題にそってテキストの内容をまとめ、各グループ内で発表できるように準備しておくこと(90分)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	授業への参加度20%、発表内容30%
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

毎回の授業ではグループワークや課題に積極的に取り組んでいること、またレポートでは授業内容を理解し、自分なりに資料を収集し分析することができること。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

個人発表については授業内でコメントします。学期末レポートはコメントを付して2学期初回授業で返却します。

### 教科書

影をなくした男, シャミッソー (著), 池内紀 (翻訳), 岩波書店, 1985, 4003241711

エクソフォニー,多和田葉子,岩波書店,2012,4006022115

#### **教科書コメント**

『影のない男』、『エクソフォニー』は必ず準備してください。それ以外のテキストは著作権に留意して配布します。

#### **参考文献コメント**

参考文献は授業中に適宜指示します。

#### **履修上の注意**

第一回目の授業に出席すること。  
文学・文化コースゼミナール(4)もあわせて履修すること。

#### **その他**

欠席する場合には、連絡をしてください。また欠席した場合には、翌週課題を提出してください。

講義コード	U350110104	科目ナンバリング	035A321	単位	2
講義名	文学・文化コース セミナール(4)				
副題	視線のポリティクス				
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies				
担当者名	田丸 理砂				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 水曜日 3時限 北1-302				

### 授業概要

ドイツ語圏およびヨーロッパの文学文化について、ジェンダー、階層、エスニシティなどに注目して、どのような視点から描かれているのかを考えていきます。

### 到達目標

芸術作品をインターセクショナルな視点からとらえる力を身につけることができる

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション／ポジショナリティ
第2回	女らしさ／男らしさについて考える
第3回	ジェンダーとグローバルヒストリー
第4回	ハインリヒ・フォン・クライスト『聖ドミンゴ島の婚約』①
第5回	ハインリヒ・フォン・クライスト『聖ドミンゴ島の婚約』②
第6回	文化とジェンダー①
第7回	文化とジェンダー②
第8回	文化と階層①
第9回	文化と階層②
第10回	個人発表①
第11回	個人発表②
第12回	個人発表③
第13回	個人発表④／まとめ

### 授業計画コメント

論文やレポート作成の際に知っておくべき研究倫理も学びます。

### 授業方法

グループ学習と学生による研究発表が中心の演習形式の授業です。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

予め与えられた課題にそってテキストの内容をまとめ、各グループ内で発表できるように準備しておくこと(90分)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	授業への参加度20%、発表内容30%
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

毎回の授業ではグループワークで積極的に発言していること、またレポートでは授業内容を理解し、自分なりに資料を収集し分析することができること。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

個人発表については授業内でコメントし、学期末レポートは希望者にはコメントを付して返却します。

### 教科書コメント

テキストは著作権に留意して配布します。

### 参考文献コメント

参考文献は授業中に適宜指示します。

### 履修上の注意

第一回目の授業に出席すること。

### その他

欠席する場合には、連絡をしてください。また欠席した場合には、翌週に課題を提出してください。

講義コード	U350110105	科目ナンバリング	035A321	単位	2
講義名	文学・文化コース ゼミナール(5)				
副題	ナチスとドイツ文学				
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies				
担当者名	伊藤 白				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 金曜日 2時限 中央-508				

### 授業概要

ナチスを切り口に、幅広くドイツの文学・音楽・美術・映画等を扱います。文学作品としては、特にエーリヒ・ケストナーとギュンター・グラスを事例として、文学作品の読み方を学びます。そうした文学を通し、ナチスが生まれた文化的背景、ナチス時代を人々はどのように生きたのか、そしてナチス時代を生きた作家や戦後の作家はナチス時代をどのように描いたのか、理解を深めます。事前に作品を通読したうえで、授業では時代背景を探りながらグループワークで精読します。

### 到達目標

- ・ナチス時代の文学やナチスを描いた文学についての一定の理解を得ること。
- ・研究の方法および倫理を学ぶこと。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション: 文学・文化の研究って何?
第2回	ナチスとは何か
第3回	ナチスの文学
第4回	ナチス時代の音楽・美術
第5回	ナチス時代を生きた作家 ケストナーの児童文学を読む
第6回	ケストナー『終戦日記』
第7回	ケストナーについて調べる
第8回	ユダヤ人とは何か
第9回	ホロコーストとは何か、ホロコーストを語ることは可能か
第10回	戦後にナチスを語る ギュンター・グラス『ブリキの太鼓』
第11回	ギュンター・グラス『蟹の横歩き』を読む
第12回	ギュンター・グラスについて調べる
第13回	総括

### 授業方法

グループワークを中心とした演習形式で行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回課題を出します(2時間程度)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	授業中の積極的な発言を評価します。
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートにはコメントを付けて返却します。

### 参考文献コメント

授業中に指示します。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。  
文学・文化コース ゼミナール(6)と併せて履修すること。

講義コード	U350110106	科目ナンバリング	035A321	単位	2
講義名	文学・文化コース ゼミナール(6)				
副題	ナチスとドイツ文学(2)				
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies				
担当者名	伊藤 白				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 金曜日 2時限 中央-508				

### 授業概要

1学期に得た「ナチスとドイツ文学」に関する知識を前提に、発表とディスカッションを行います。  
 テーマは、ナチスと関連しているドイツの文学・音楽・美術・映画等であれば自由です。19世紀ナショナリズム、ユダヤ人の文学、ユダヤ人を描いた文学、ナチスの文学・文化、ナチス時代の文学、ナチス時代を描いた文学・映画等から、関心のあるテーマを選んで発表し、全体で議論を行います。  
 また、提示されたテーマのもとグループワークで議論をし、学期の最後にグループ発表を行います。

### 到達目標

- ・「ナチスとドイツ文学」についての基礎的知識を前提に、自ら問いを立て、それに論理的に答えることができるようになること。
- ・このテーマについて自分の意見を適切に表現できるようになること。
- ・論文作成等を行う上で知っておくべき方法と研究倫理を学ぶこと。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	1学期の復習
第3回	学生発表①ナショナリズム
第4回	学生発表②ユダヤ人の文学
第5回	学生発表③ユダヤ人を描いた文学・絵画
第6回	学生発表④ナチスの文学・絵画・音楽
第7回	学生発表⑤ナチス時代の文学
第8回	学生発表⑥亡命文学
第9回	学生発表⑦ホロコーストを描いた文学・映画
第10回	学生発表⑧ナチスを描いた文学
第11回	学生発表⑨ナチスを描いた映画
第12回	グループワーク発表会
第13回	総括

### 授業計画コメント

学生の関心により内容が変更になる可能性があります。

### 授業方法

発表を中心とした演習形式で行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

発表者には、事前に発表テーマに関する資料を指定してもらいます。それを発表しない受講者に要約してきてもらいます。(2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	70 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

発表内容のみならず、他の発表者への質問等、授業中の積極的な発言を評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表の評価を返却します。それをベースに期末レポートを執筆してもらいます。

#### **教科書コメント**

授業中に指示します。

#### **参考文献コメント**

授業中に指示します。

#### **履修上の注意**

第1回目の授業に必ず出席のこと。  
文学・文化コース ゼミナール(5)と併せて履修すること。



講義コード	U350110107	科目ナンバリング	035A321	単位	2
講義名	文学・文化コース ゼミナール(7)				
副題	Wien um 1900				
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies				
担当者名	PEKAR, Thomas				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 火曜日 2時限 北1-405				

### 授業概要

Thema des Seminars ist: Wien um 1900 in Stefan Zweigs Erinnerungen "Die Welt von Gestern". Der österreichische Schriftsteller Stefan Zweig erinnert sich in seinem autobiografischen Werk an seine Jugendzeit in Wien Anfang des 20. Jahrhunderts, an die Zeit vor den beiden Weltkriegen. Diese Erinnerungen werden wir in Auszügen im Seminar lesen und so diese für die Literatur- und Kulturentwicklung so wichtige Epoche kennenlernen.

### 到達目標

Die Studierenden lernen anhand eines literarischen Textes eine wichtige Epoche der deutschsprachigen Literaturgeschichte kennen. Sie werden methodisch an die Lektüre und Analyse eines umfangreichen Werkes herangeführt und lernen, dieses zu verstehen und zu interpretieren.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung ins Thema: Wer war Stefan Zweig? Was ist die Welt von Gestern?
第2回	Kapitel 1: Die Welt der Sicherheit
第3回	Kapitel 1: Fortsetzung
第4回	Kapitel 2: Die Schulzeit
第5回	Kapitel 2: Fortsetzung
第6回	Kapitel 3: Die Studienzeit
第7回	Kapitel 3: Fortsetzung
第8回	Kapitel 4: Reisen und Rückkehr
第9回	Kapitel 4: Fortsetzung
第10回	Kapitel 5: Letzte Jugendjahre vor dem Krieg
第11回	Kapitel 5: Fortsetzung
第12回	Test
第13回	Testrückgabe und Abschlussdiskussion

### 授業方法

Gemeinsame Textlektüre, Gruppendiskussionen, Einzelvorträge

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

Lektüre/Lesen der Texte zu Hause; Vorbereitung für die Seminarpräsentation

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果		
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

Die Teilnehmer:innen sollen einen Vortrag (eine Präsentation) halten (ca. 10-15 Minuten), regelmäßig zum Unterricht kommen und sich an den Diskussionen im Unterricht beteiligen. Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben.

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter/Professor bespricht die Vorträge intensiv mit den Studierenden vor und nach der Präsentation. Über andere

Fragen des Seminars (z.B. Verständnisprobleme etc.) kann jederzeit mit dem Seminarleiter gesprochen werden, z.B. nach dem Unterricht oder in den Sprechstunden.

#### 教科書コメント

Alle Texte werden als Kopien ausgegeben.

#### 参考文献コメント

Alle Texte werden als Kopien ausgegeben.

講義コード	U350110108	科目ナンバリング	035A321	単位	2
講義名	文学・文化コース ゼミナール(8)				
副題	Wien um 1900				
英文科目名	Seminar in Literature and Cultural Studies				
担当者名	PEKAR, Thomas				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 火曜日 2時限 北1-405				

### 授業概要

Thema des Seminars ist: Wien um 1900 in Stefan Zweigs Erinnerungen "Die Welt von Gestern". Der österreichische Schriftsteller Stefan Zweig erinnert sich in seinem autobiografischen Werk an seine Jugendzeit in Wien Anfang des 20. Jahrhunderts, an die Zeit vor den beiden Weltkriegen. Diese Erinnerungen werden wir in Auszügen im Seminar lesen und so diese für die Literatur- und Kulturentwicklung so wichtige Epoche kennenlernen.

### 到達目標

Die Studierenden lernen anhand eines literarischen Textes eine wichtige Epoche der deutschsprachigen Literaturgeschichte kennen. Sie werden methodisch an die Lektüre und Analyse eines umfangreichen Werkes herangeführt und lernen, dieses zu verstehen und zu interpretieren.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Zusammenfassung der Ergebnisse des letzten Semesters; Ausblick
第2回	Kapitel 6: Der Erste Weltkrieg
第3回	Kapitel 6: Fortsetzung
第4回	Kapitel 7: Nach dem Krieg
第5回	Kapitel 7: Fortsetzung
第6回	Kapitel 8: 1924-1933
第7回	Kapitel 8: Fortsetzung
第8回	Kapitel 9: Im Exil in London
第9回	Kapitel 9: Fortsetzung
第10回	Der Habsburgische Mythos
第11回	Fortsetzung: Der Habsburgische Mythos
第12回	Test
第13回	Testrückgabe und Abschlussdiskussion

### 授業方法

Gemeinsame Textlektüre, Gruppendiskussionen, Einzelvorträge

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

Lektüre/Lesen der Texte zu Hause; Vorbereitung für die Seminarpräsentation

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果		
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

Die Teilnehmer:innen sollen einen Vortrag (eine Präsentation) halten (ca. 10-15 Minuten), regelmäßig zum Unterricht kommen und sich an den Diskussionen im Unterricht beteiligen. Am Ende des Semesters wird ein Test geschrieben.

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter/Professor bespricht die Vorträge intensiv mit den Studierenden vor und nach der Präsentation. Über andere

Fragen des Seminars (z.B. Verständnisprobleme etc.) kann jederzeit mit dem Seminarleiter gesprochen werden, z.B. nach dem Unterricht oder in den Sprechstunden.

#### 教科書コメント

Alle Texte werden als Kopien ausgegeben.

#### 参考文献コメント

Alle Texte werden als Kopien ausgegeben.

講義コード	U350111101	科目ナンバリング	035A331	単位	2
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(1)				
副題	21世紀におけるドイツの右傾化とその背景				
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies				
担当者名	小林 和貴子				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 火曜日 2時限 西2-506				

### 授業概要

ナチス・ドイツへの反省の元に生まれたドイツ連邦共和国では、ナショナリズムやドイツへの愛を語る事が戦後ながらくタブーでしたが、21世紀に入り、この状況が少しずつ変化しています。近年、右翼政党のAfD(ドイツのための選択)が支持を集めていることが日本でも憂慮を持って報じられていますが、少しずつ、愛国主義を主張する人々がドイツに現れているのです。この現象の背景には、どんな事情があるのでしょうか？

この授業では、AfDをめぐる現象を手掛かりにしながら、近年のドイツの右傾化の現状とその背景を分析していきます。

### 到達目標

- ・第二次世界大戦後のドイツがナショナリズムとどう向き合ってきたのかを理解する。
- ・近年、ドイツで支持を広めている右翼思想について、その内容と問題点を、背景とともに理解する。
- ・読んだテキストについて、あるいは他の人の意見や発表に対して、自らの意見が言えるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	テーマへの導入
第2回	第1章 台頭する右翼政党AfD ①
第3回	第1章 台頭する右翼政党AfD ②
第4回	第1章 台頭する右翼政党AfD ③
第5回	第2章 メルケルのドイツ ①
第6回	第2章 メルケルのドイツ ②
第7回	第2章 メルケルのドイツ ③
第8回	第3章 ポストメルケルの時代 ①
第9回	第3章 ポストメルケルの時代 ②
第10回	第3章 ポストメルケルの時代 ③
第11回	第4章 難民たちはいま ①
第12回	第4章 難民たちはいま ②
第13回	総括

### 授業計画コメント

- ・ひとり1回、10分程度の口頭発表を行ってもらう予定です。発表テーマとして、1968年世代／歴史修正主義／主導文化をめぐる議論／ザラチン論争／21世紀の難民危機／統一後の東ドイツといったテーマを考えています。
- ・授業を通して、口頭発表・レポート執筆の際に知っておくべき研究倫理を学びます。

### 授業方法

対面の授業で、グループワークを主体に行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

- ・毎回、事前に読んでくる共通文献(20～30頁程度)があります。それを読んで、要約をしてもらいます。(1時間～1時間半程度)
- ・適宜、発表準備を進めていただきます(1時間程度)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	35 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	30 %	
その他(備考欄を参照)	35 %	口頭発表

### 成績評価コメント

- ・口頭発表では、準備過程も評価します。

#### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

- ・口頭発表は、受講者同士でコメントを交わします。
- ・レポートは、コメントをして返却します。

#### **教科書**

愛国とナチの間 メルケルのドイツはなぜ躓いたのか,高野 弦,朝日新聞出版,2020,978-4-02-251723-4

#### **教科書コメント**

- ・第二回目の授業までに購入しておいてください。

#### **履修上の注意**

- ・第一回目の授業に出席すること
- ・現代地域事情コース セミナール(2)もあわせて履修すること

講義コード	U350111102	科目ナンバリング	035A331	単位	2
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(2)				
副題	外国人を迎える、外国人と暮らす				
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies				
担当者名	小林 和貴子				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 火曜日 2時限 西2-506				

### 授業概要

2019年、出入国管理及び難民認定法(入管法)が改正され、日本もいまや人手不足の産業分野に、外国から労働者を積極的に呼び寄せることになりました。私たちの身の回りに、日本で滞在し、働く外国人が増えていることを、皆さんも実感していると思います。

「我々は労働力を呼んだが、やってきたのは人間だった」という表現を聞いたことがあるでしょうか？ スイスの作家マックス・フリッシュによる、外国人労働者をめぐる問題の核心をついた一文ですが、まさに60年前のドイツも、人手不足の分野に外国人労働者を積極的に呼び寄せました。そして、労働者が、労働者である以前に人間であることを知り、試行錯誤しながら、異文化を持つ人々と共生する道を探ってきました。

この授業では、戦後ドイツの外国人(移民)政策を辿りながら、私たちが今後、外国人と共生していくためにはどのような思考や実践が必要かを考えていきます。

### 到達目標

- ・第二次世界大戦後のドイツの外国人(移民)政策を理解する。
- ・ドイツの歴史を参照しながら、近年、日本で進んでいる外国人政策の持つ意味を理解する。
- ・読んだテキストについて、あるいは他の人の意見や発表に対して、自らの意見が言えるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	テーマへの導入
第2回	外国人労働者とは ①
第3回	外国人労働者とは ②
第4回	難民とは
第5回	移民と難民の違い
第6回	日本の外国人労働者受け入れの現状
第7回	ドイツの外国人労働者(移民)問題 ①
第8回	ドイツの外国人労働者(移民)問題 ②
第9回	ヨーロッパに向かう難民 ①
第10回	ヨーロッパに向かう難民 ②
第11回	日本の難民受け入れの現状
第12回	外国人との共生を目指して
第13回	総括

### 授業計画コメント

- ・ひとり1回、10分程度の口頭発表を行ってもらう予定です。発表テーマとして、ガストアルバイター／ユーバージードラー／アウズジードラー／バルカン半島・中東・アフリカからの難民／統合コース／帰化テストといったテーマを考えています。
- ・授業を通して、口頭発表・レポート執筆の際に知っておくべき研究倫理を学びます。

### 授業方法

対面の授業で、グループワークを主体に行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

- ・毎回、事前に読んでくる共通文献(20～30頁程度)があります。それを読んで、要約をしてもらいます。(1時間～1時間半程度)
- ・適宜、発表準備を進めていただきます(1時間程度)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	35 %	
小テスト		

## 小テスト

授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	30 %	
その他(備考欄を参照)	35 %	口頭発表

### 成績評価コメント

- ・口頭発表では、準備過程も評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・口頭発表は、受講者同士でコメントを交わします。
- ・レポートは、コメントをして返却します。

### 教科書

外国人労働者・移民・難民ってだれのこと?,内藤正典,集英社,2019,978-4-08-781672-3 C0036

### 教科書コメント

- ・第二回目の授業までに購入しておいてください。

### 履修上の注意

- ・第一回目の授業に出席すること
- ・現代地域事情コース ゼミナール(1)もあわせて履修すること



講義コード	U350111103	科目ナンバリング	035A331	単位	2
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(3)				
副題	新しい社会のあり方を求めて——東ドイツについて考える				
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies				
担当者名	田丸 理砂				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 金曜日 2時限 南1-106				

### 授業概要

第二次世界大戦後に誕生した東ドイツの歴史や人々の暮らしを学び、どのような社会のあり方を求め、なぜ破綻に至ったのかを考察する。

### 到達目標

- ・東ドイツという国の成り立ちや政策について学び、その理想と挫折の過程を理解すること
- ・東ドイツの人びとに対する、抑圧された「かわいそうな」人たちという上から目線の見方を改めること
- ・統一のインパクトについて理解すること

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	新しいドイツの模索(1945-1949)
第3回	冷戦の過去と重荷を背負って(1949-1961)
第4回	ウルブリヒトと「奇跡の経済」(1961-1972)
第5回	ホーネッカーの「後見社会国家」(1971-1980)
第6回	労働者と農民の国の終焉(1981-1990)
第7回	東ドイツまたはドイツ統一について描いた映画について
第8回	発表(1) ベルリンの壁建設前夜
第9回	発表(2) 監視国家
第10回	発表(3) 人々の暮らし①
第11回	発表(4) 人々の暮らし②
第12回	発表(5) 女性およびジェンダーについて
第13回	発表(6) 描かれた東ドイツ

### 授業計画コメント

履修学生の数や関心によって、授業計画は変更することがあります。

### 授業方法

グループワークや個人発表を中心とした演習形式の授業です。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

予め与えられた課題にそってテキストの内容をまとめ、各グループ内で発表できるように準備しておくこと(90分)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	授業への参加度20%、発表内容30%
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは2学期最初の授業の際にコメントを付して返却します。

### 教科書

物語 東ドイツの歴史 分断国家の挑戦と挫折,河合信晴,中央公論新社,2020,978-4-12-102615-6

### 教科書コメント

初回授業までに教科書は必ず準備してください。

#### **参考文献コメント**

参考文献は授業中に紹介します。

#### **履修上の注意**

履修者数制限あり。現代地域事情コース ゼミナール(4)と併せて履修してください。

#### **その他**

欠席の場合は当日12時までにメールで連絡してください。また出欠の管理は各自行ってください。

講義コード	U350111104	科目ナンバリング	035A331	単位	2
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(4)				
副題	新しい社会のあり方を求めて——これからの社会について考える				
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies				
担当者名	田丸 理砂				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 金曜日 2時限 南1-106				

### 授業概要

斎藤幸平著『人新世の「資本論」』は、2023年にドイツでも出版され、非常に話題になりました。この授業では、1学期のゼミで取り組んだ内容を踏まえ、『人新世の「資本論」』やドイツ語訳出版後の議論を手掛かりに、わたしたちの今後の生き方について考えていきます。

### 到達目標

- ・テキストを読み現代社会の抱える諸問題を整理し、みずからも今後取り組むべき課題を発見することができる
- ・国にとらわれないグローバルな考え方を身につける

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	気候変動と帝國的な生活様式／気候ケインズ主義の限界
第3回	資本主義システムでの脱成長を撃つ
第4回	「人新世」のマルクス
第5回	加速主義という現実逃避／欠乏の資本主義、潤沢なコミュニズム
第6回	脱成長コミュニズムが世界を救う／気候正義という「梃子」
第7回	ドイツでの議論および問題点の整理
第8回	フェミニズムの視点からとらえた社会システム——マリア・ミースらの議論から①
第9回	フェミニズムの視点からとらえた社会システム——マリア・ミースらの議論から②
第10回	発表(1)
第11回	発表(2)
第12回	発表(3)
第13回	発表(4)

### 授業計画コメント

履修学生の人数や関心によって、授業計画は変更することがあります。

### 授業方法

グループワークや個人発表を中心とした演習形式の授業です。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

予め与えられた課題にそってテキストの内容をまとめ、各グループ内で発表できるように準備しておくこと(90分)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	授業への参加度20%、発表内容30%
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

口頭発表後に授業内でコメントします。またレポートについては希望者にはコメントを付して返却します。

### 教科書

人新世の「資本論」, 斎藤幸平, 集英社, 2020, 978-4-08-721135-1

### 教科書コメント

初回授業までに教科書は必ず準備してください。

#### **参考文献コメント**

参考文献は授業中に紹介します。

#### **履修上の注意**

履修者数制限あり。現代地域事情コース ゼミナール(4)と併せて履修してください。

#### **その他**

欠席の場合は当日12時までにメールで連絡してください。また出欠の管理は各自行ってください。

講義コード	U350111105	科目ナンバリング	035A331	単位	2
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(5)				
副題	日独比較論を読む				
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies				
担当者名	伊藤 白				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 金曜日 3時限 中央-508				

### 授業概要

第二次世界大戦の敗戦と戦後の奇跡の経済復興、そして世界第3位と4位の経済大国と大いに似たところがありながら、移民政策、エネルギー政策、歴史との向き合い方などにおいて大いに違うところがある日本とドイツ。実際、日本とドイツを比較した本が毎年のように何冊も書かれています。しかも、それはドイツの良いところを並べたドイツ理想論から、ドイツのすべてを悪く言うようなドイツ否定論まで両極端です。日独比較論は、なぜここまで違うのでしょうか。理想論や否定論は、それぞれ何を目的として書かれるのでしょうか。そして、真実はどこにあるのでしょうか。このゼミでは、複数の日独比較論を読み比べながら、それらを客観的に判断できるようになることを目指します。

### 到達目標

- ・数多く書かれている日独比較論を、その意図や目的を考えながら客観的に読むことができるようになること。
- ・研究の方法および倫理を学ぶこと。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション: 日独比較とは何か
第2回	ドイツのエネルギー政策理想論
第3回	ドイツのエネルギー政策否定論
第4回	ドイツの移民・難民政策理想論
第5回	ドイツの移民・難民政策否定論
第6回	ドイツのジェンダー・家族政策理想論
第7回	ドイツのジェンダー・家族政策否定論
第8回	ドイツの働き方理想論
第9回	ドイツの働き方否定論
第10回	ドイツの社会保障理想論
第11回	ドイツの社会保障否定論
第12回	ドイツの「過去の克服」理想論
第13回	ドイツの「過去の克服」否定論・総括

### 授業方法

グループワークを中心とした演習形式で行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回課題を出します(2時間程度)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	授業中の積極的な発言を評価します。
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートにはコメントを付けて返却します。

### 参考文献コメント

授業中に指示します。

## 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。  
現代地域事情コース セミナール(6)と併せて履修すること。

講義コード	U350111106	科目ナンバリング	035A331	単位	2
講義名	現代地域事情コース ゼミナール(6)				
副題	日独を比較する				
英文科目名	Seminar in Contemporary Area Studies				
担当者名	伊藤 白				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 金曜日 3時限 中央-508				

### 授業概要

1学期に得た「日独比較」に関する知識を前提に、自らテーマを選び、そのテーマについて日独を比較する発表をします。それとともに、全体でディスカッションを行います。同時並行して、グループで一定のテーマのもと議論をし、学期末にグループ発表を行います。

### 到達目標

- ・日独比較についての基礎的知識を前提に、自らテーマを選び、エビデンスを用いて適切に日独比較できるようになること。
- ・このテーマについて自分の意見を適切に表現できるようになること。
- ・論文作成等を行う上で知っておくべき方法と研究倫理を学ぶこと。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	1学期の復習
第3回	学生発表①エネルギー・環境政策
第4回	学生発表②移民・難民政策
第5回	学生発表③ジェンダー・家族政策
第6回	学生発表④働き方
第7回	学生発表⑤社会保障
第8回	学生発表⑥「過去の克服」「想起の文化」
第9回	学生発表⑦教育
第10回	学生発表⑧スポーツ
第11回	学生発表⑨街づくり
第12回	グループ発表
第13回	総括

### 授業計画コメント

学生の関心により内容が変更になる可能性があります。

### 授業方法

発表を中心とした演習形式で行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

発表者には、事前に発表テーマに関する資料を指定してもらいます。それを発表しない受講者に要約してきてもらいます。(1時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	70 %	
その他(備考欄を参照)		口頭発表

### 成績評価コメント

発表内容のみならず、他の発表者への質問等、授業中の積極的な発言を評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表の評価を返却します。それをベースに期末レポートを執筆してもらいます。

### 教科書コメント

授業中に指示します。

### 参考文献コメント

授業中に指示します。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。  
現代地域事情コース ゼミナール(5)と併せて履修すること。



講義コード	U350200101	科目ナンバリング	035A511	単位	2
講義名	言語・情報 講義(1)				
副題	言語コミュニケーション論				
英文科目名	Lecture on Linguistics and Information Studies				
担当者名	白井 宏美				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第1学期 火曜日 3時限 中央-507				

### 授業概要

言語コミュニケーションに関して、談話分析、会話分析、語用論、社会言語学などからアプローチする研究を提示します。その際、日独比較(日本語とドイツ語、日本文化とドイツ文化)の観点が入っているのが特徴です。観察・分析対象は、対面会話、チャット、戯曲、映画、マンガ、漫才などから人とロボットのコミュニケーションに至るまで広範囲に及びます。

### 到達目標

談話分析、語用論の研究領域における基本概念を習得し、言語・非言語行動について分析、考察する能力を身につける。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入:言語コミュニケーションとは
第2回	対面コミュニケーション(1)「あいづち」の日独比較
第3回	対面コミュニケーション(2)「雑談」の日独比較
第4回	分析練習「ことば遊び」(グループワーク)
第5回	分析結果の発表とディスカッション
第6回	チャット・コミュニケーション(1) チャットルームにおける「会話」の交わり方ー日独比較研究ー
第7回	チャット・コミュニケーション(2) 日独のチャットにおける挨拶場面の特徴
第8回	分析練習「若者ことば」(グループワーク)
第9回	分析結果の発表とディスカッション
第10回	文学作品におけるコミュニケーション(1) かけひきとしての「スタイルシフト」
第11回	文学作品におけるコミュニケーション(2) 「選好」されない返答
第12回	分析練習「話しことばと書きことば」(グループワーク)
第13回	分析結果の発表とディスカッション

### 授業方法

講義ではありますが、演習的要素も入っています。聞いているだけでなく、意見を述べたり議論や発表したりする積極的参加が求められます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業中に学んだ概念や分析手法を復習し、疑問点をまとめておくこと(計1～2時間)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	分析結果の発表(プレゼン)

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートや分析結果の発表などについて、授業中にフィードバックします。

### 教科書

日本語を分析するレッスン,野田尚史・野田春美,大修館書店,初,2017,978-4-469-21362-1

### その他

ドイツ語の知識が全くなくても受講できます。

講義コード	U350200102	科目ナンバリング	035A511	単位	2
講義名	言語・情報 講義(2)				
副題	言語コミュニケーション論				
英文科目名	Lecture on Linguistics and Information Studies				
担当者名	白井 宏美				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第2学期 火曜日 3時限 中央-507				

### 授業概要

言語コミュニケーションに関して、談話分析、会話分析、語用論、社会言語学などからアプローチする研究を提示します。その際、日独比較(日本語とドイツ語、日本文化とドイツ文化)の観点が入っているのが特徴です。観察・分析対象は、対面会話、チャット、戯曲、映画、マンガ、漫才などから人とロボットのコミュニケーションに至るまで広範囲に及びます。

### 到達目標

談話分析、語用論の研究領域における基本概念を習得し、言語・非言語行動について分析する能力・知識を身につける。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	映画におけるコミュニケーション(1) 会話の構造
第2回	映画におけるコミュニケーション(2) 登場人物の性格づけ
第3回	分析練習「マンガのことば」(グループワーク)
第4回	分析結果の発表とディスカッション
第5回	マルチモーダル・コミュニケーション(1) 「わからない」の可視化
第6回	マルチモーダル・コミュニケーション(2) 視線はずし
第7回	分析練習「会話の失敗」(グループワーク)
第8回	分析結果の発表とディスカッション
第9回	人とロボットのコミュニケーション(1) 人とロボットの漫才
第10回	分析練習「漫才のことば」
第11回	分析結果の発表とディスカッション
第12回	人とロボットのコミュニケーション(2) 家族とロボットの関係性構築
第13回	分析練習「外国の人の日本語」

### 授業方法

講義ではありますが、演習的要素も入っています。聞いているだけではなく、意見を述べたり議論や発表したりする積極的参加が求められます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業中に学んだ概念や分析手法を復習し、疑問点をまとめておくこと(計1～2時間)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	分析結果の発表(プレゼン)

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートや分析結果の発表などについて、授業中にフィードバックします。

### 教科書

日本語を分析するレッスン,野田尚史・野田春美,大修館書店,初,2017,978-4-469-21362-1

### その他

ドイツ語の知識が全くなくても受講できます。

講義コード	U350200103	科目ナンバリング	035A511	単位	2
講義名	言語・情報 講義(3)				
副題	論理学入門				
英文科目名	Lecture on Linguistics and Information Studies				
担当者名	田中 雅敏				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第1学期 金曜日 5時限 中央-401				

### 授業概要

「コーヒーを飲むと眠れない」という人に対して、「じゃあ、コーヒーを飲まなければ寝れるじゃないか」と助言することは論理的に正しいだろうか。

このように、日常的に、あることを主張したり、反論したり、助言したりするときに、論理的に正しい道筋を立てないと、議論や対話はかみ合わない。社会を規律している法律の条文も、その多くが「pならばqである」という形式をしている。

この授業では、論理学の基礎について学び、最終的には日常の中の論理について考えてみる。

### 到達目標

- ・論理学の最初歩を理解できるようになる。
- ・日常の社会規範を論理的に捉えなおすことができるようになる。
- ・論理的な主張(ロジカルシンキング、ロジカルライティング)の技法を身につけることができる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入;授業の進め方
第2回	思考の三原則と概念・判断・推理
第3回	命題
第4回	推理(1):演繹推理(直接推理)
第5回	推理(2):演繹推理(間接推理):定言三段論法
第6回	推理(3):演繹推理(間接推理):仮言三段論法
第7回	推理(4):演繹推理(間接推理):選言三段論法
第8回	両刀論法(ディレンマ)
第9回	命題論理(1)
第10回	命題論理(2)
第11回	述語論理
第12回	ロジカルシンキング
第13回	総括

### 授業方法

対面授業(講義)

参考資料を配付し、事前に予習してもらい、授業に臨んでもらう形を基本とする。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

事前学習:配付された資料を読んで予習(60~90分)

事後学習:確認課題に挑戦する(60~90分)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	理解度を確認する課題を課す
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	練習問題等の毎回の課題への取り組み
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

主な評価のポイントは次の通り:

- ・論理学の基礎を理解し、日常生活に論理学を応用できる思考を身につけているか
- ・論理学の技法を用いて、自分の主張をロジカルに展開できるか

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポート課題や宿題などは、回収し、評価に反映するとともに、必ずコメントを添えて返却する。

### 教科書コメント

資料は適宜配付する。

### 参考文献コメント

参考文献・参考書籍は授業内で紹介します。

### 履修上の注意

ドイツ語の知識がなくても履修できます。日本語や英語の例を扱います。

講義コード	U350200104	科目ナンバリング	035A511	単位	2
講義名	言語・情報 講義(4)				
副題	文法理論入門				
英文科目名	Lecture on Linguistics and Information Studies				
担当者名	田中 雅敏				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第2学期 金曜日 5時限 中央-401				

### 授業概要

私たちが頭の中に持っていることばの規則(文法)は、いわば、一種のコンピュータープログラムのようなものである。言語を出力するためには、入力に相当するもの(言いたいことを伝えるために必要な語彙)があつて、それが一定の規則に従って並べ、変換され、音声として発せられる(手話であれば、それが音声ではなく身振りや非手指動作で表出される)。

この授業では、文法が出力する「ことば」を観察し、入力される語彙項目がどのように配置され、必要に応じて変形されて、そして出力されるのかについて見る。音声言語だけでなく、手話言語についても見る。

### 到達目標

- ・人間に共通する言語能力の解明をめざす生成文法の基礎を知る。
- ・さまざまな文法現象や文法規則を「覚えるだけの公式」とするのではなく、そこに理論的な説明を与える。
- ・人間の精神活動の根幹を成す言語について知識を深め、言語研究への基礎を固める。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入;授業の進め方
第2回	語彙範疇と機能範疇("I love-d him.")
第3回	主要部パラメータ("Postpositions are placed after the nouns.")
第4回	Xバー構造("That one with the blue mark is of mine.")
第5回	名詞の意味役割("You belong to me.")
第6回	主語の基底位置("Spring is come!")
第7回	受動化("German is spoken in Austria.")
第8回	主要部移動("You can do it!")
第9回	演算子("What do you like?")
第10回	数量詞とその作用域("Everyone can speak a foreign language.")
第11回	代名詞と束縛("Mary heard that Susie said that a book of hers sold two thousand copies.")
第12回	手話言語の統語構造
第13回	総括

### 授業方法

対面授業(講義)

参考資料を配付し、事前に予習してもらい、授業に臨んでもらう形を基本とする。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

事前学習:配付された資料を読んで予習(60~90分)

事後学習:確認課題に挑戦する(60~90分)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	理解度を確認する課題を課す
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	練習問題等の毎回の課題への取り組み
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

主な評価のポイントは次の通り:

- ・専門用語を理解しているか
- ・文をXバー構造で書けるか
- ・ある文が文法的に誤りである場合、その理由を理論的に説明できるか
- ・文法現象に記述的な説明を与えることができるか

#### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

レポート課題や宿題などは、回収し、評価に反映するとともに、必ずコメントを添えて返却する。

#### **教科書コメント**

資料は適宜配付する。

#### **参考文献コメント**

参考文献・参考書籍は授業内で紹介します。

#### **履修上の注意**

ドイツ語の知識がなくても履修できます。ドイツ語の例も示しますが、解説します。基本的には日本語や英語の例を扱います。

講義コード	U350201102	科目ナンバリング	035A521	単位	2
講義名	文学・文化 講義(2)				
副題	ワーグナーとドイツ近代ローマン的歌劇三部作				
英文科目名	Lecture on Literature and Cultural Studies				
担当者名	山崎 太郎				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第2学期 月曜日 5時限 西1-101				

### 授業概要

ドイツ・オペラを代表する作曲家ワーグナーは自ら台本を書いたばかりか、同時代の社会や芸術について多くの論考を著し、さらには自ら革命に参加して祖国を追われるに至った行動の人でもありました。本講義ではワーグナーが独自の作風を確立してゆく前期の三つの作品《さまよえるオランダ人》《タンホイザー》《ローエングリン》を取り上げます。これら三作はいずれもメルヘンや伝説を題材に人間と異界の遭遇を描く「ロマン的歌劇」というジャンルに括られますが、その一方で、貧困生活～芸術家としての成功～革命への参加・亡命に至るワーグナーの人生の軌跡が投影され、同時代の社会への批判と問題意識が寓意的に描かれてもいます。このように多面的・多義的なワーグナー作品の魅力を、文学と音楽の両面から読み解いていきます。

### 到達目標

1. 音楽を含めて、ワーグナーの楽劇に慣れ親しむ。
2. 作品を通して、19世紀ヨーロッパの文化と社会が孕むさまざまな問題を考える。
3. ワーグナーのドイツ語台本に触れながら、音と言葉の問題を考える。
4. さまざまな演出を比較鑑賞することで、作品に現代社会の諸問題がどう投影されているかを考え、オペラというジャンルが持つ可能性について視野を広げる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス(ワーグナーの生涯と19世紀、音楽へのアプローチ)
第2回	《さまよえるオランダ人》(1) 台本・音楽・ドラマ
第3回	《さまよえるオランダ人》(2) 台本・音楽・ドラマ
第4回	《さまよえるオランダ人》(3) 台本・音楽・ドラマ
第5回	《タンホイザー》(1) 台本・音楽・ドラマ
第6回	《タンホイザー》(2) 台本・音楽・ドラマ
第7回	《タンホイザー》(3) 台本・音楽・ドラマ
第8回	《タンホイザー》(4) 台本・音楽・ドラマ
第9回	《ローエングリン》(1) 台本・音楽・ドラマ
第10回	《ローエングリン》(2) 台本・音楽・ドラマ
第11回	《ローエングリン》(3) 台本・音楽・ドラマ
第12回	《ローエングリン》(4) 台本・音楽・ドラマ
第13回	《ローエングリン》(5) 台本・音楽・ドラマ

### 授業方法

講義形式 台本については日本語の訳・解説を加えます。原文のドイツ語を紹介することもあるので、ドイツ語の基礎知識があると、よりよく理解できると思いますが、語学力は必須ではありません。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業中は時間のかぎりもあり、舞台映像は一部しか見せられないので、授業で紹介された(youtubeほかの)映像を自分で鑑賞する時間を確保することが求められる。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点では毎回の授業の振り返りシート(授業中に出したテーマに応じて、400～600字目安のものを各授業終了の3日後に提出)の内容を重視します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生からの振り返りシートの内容をもとに、授業で回答したり、資料、説明を工夫する。振り返りシートを編集し、匿名・抜粋で受講生と共有する場合もある。

### その他

必ずしも音楽・オペラについての予備知識はかならずしも必要ではありませんが、新たな体験への開かれた姿勢と興味、そしてドイツの文化と社会に広い関心と知識欲を持つ受講生を歓迎します。



講義コード	U350201103	科目ナンバリング	035A521	単位	2
講義名	文学・文化 講義(3)				
副題	オーストリアの歴史と文化				
英文科目名	Lecture on Literature and Cultural Studies				
担当者名	関根 裕子				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第1学期 木曜日 4時限 中央-404				

### 授業概要

「いかにしてウィーンは〈音楽の都〉となったのか!？」音楽の都と呼ばれるウィーンを首都としたオーストリアは20世紀初頭までハプスブルク家によって600年以上も統治され、10以上の民族を支配下多民族国家を形成していました。本講義では、標題に揚げた疑問を出発点として、歴史・社会と結びついた豊かな芸術・文化を紹介していきます。

### 到達目標

ウィーンを中心としたオーストリアの歴史を学びながら、それぞれの時代と社会と結びついた芸術文化の諸相についての知識を深める。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション オーストリア、ウィーンについて、今後の講義の進め方
第2回	マクシミリアンI世の婚姻政策とハプスブルク帝国の拡大 ウィーン少年合唱団の歴史
第3回	カールI世 スペインハプスブルク家、宗教改革と反宗教改革のバロック音楽
第4回	レオポルトI世の時代のオペラ、ペストと音楽、アウグスティンの生き方
第5回	オスマン帝国の脅威と影響 カフェ文化、カール六世、啓蒙主義 『後宮からの逃走』
第6回	マリア・テレジアの時代、マリー・アントワネットの悲劇、フランス革命の影響
第7回	ヨーゼフII世のモーツァルト オペラ、フリーメイソンの関係『魔笛』
第8回	ベートーヴェンとフランス革命 ナポレオン戦争の影響
第9回	ウィーン会議とウィンナワルツ、シューベルト ビーデーマイヤーの時代
第10回	ヨハン・シュトラウス親子と1848革命
第11回	フランツ・ヨーゼフ皇帝の治世
第12回	ミュージカル『エリーザベト』(1)
第13回	ミュージカル『エリーザベト』(2)

### 授業方法

講義

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

指定された教科書を読む予習、前回配布された資料での復習を120分程度行うこと。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

講義を理解し、正確な知識を持ち、個々の事象について、論理的に説明できるかどうか。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の授業でのリアクションペーパーについて、解説する。理解が足りないと思われる部分には、補足説明する。

### 教科書

図説 ハプスブルク帝国: ふくろうの本, 加藤雅彦, 河出書房新社, 2018

## 参考文献

ウィーンの歴史:ふくろうの本,増谷秀樹,河出書房新社,2018,9784309762458

図説オーストリアの歴史,増谷秀樹・古田善文,河出書房新社,2011,9784309761756

世紀末ウィーン,カール・E・ショースキー/安井琢磨訳,岩波書店,1983,40000001160X

オーストリア文学とハプスブルク神話,クラウディオ・マグリス著鈴木隆訳,水声社,1990,4891762373

## 履修上の注意

ドイツ語が未修でも履修可能です。オーストリアや文化に対する関心の高い学生を歓迎します。

講義コード	U350201104	科目ナンバリング	035A521	単位	2
講義名	文学・文化 講義(4)				
副題	オーストリア 音楽の都ウィーンの歴史と文化				
英文科目名	Lecture on Literature and Cultural Studies				
担当者名	関根 裕子				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第2学期 木曜日 4時限 西5-303				

### 授業概要

第1学期では19世紀後半までのハプスブルク帝国の歴史をたどりながら、各時代、社会を反映した芸術(文学、音楽、建築)などを紹介してきました。第2学期では、700年間続いたハプスブルク帝国が崩壊に向かう19世紀末から20世紀初頭に華開いたいわゆる「ウィーン世紀末」や第一次世界大戦後の継承国オーストリアが辿った20世紀の歴史、文化アイデンティティを考察します。キーワードは「ハプスブルク神話」です。授業では、たくさんの視聴覚資料を紹介します。

### 到達目標

多民族国家ハプスブルク帝国の末期の社会、文化状況、および崩壊後から現代までの政治、社会、文化状況を学ぶことによって、対照的な様相の日本と比較考察できるようになる。

### 授業内容

#### 実施回 内容

- |      |   |
|------|---|
| 第1回  | ハプスブルク神話とは？ フランツ・ヨーゼフ皇帝の治世、ツヴァイク『ラデツキー行進曲』  |
| 第2回  | 世紀末美術の諸相:分離派とジャポニスム グスタフ・クリムトにおける愛と死        |
| 第3回  | 世紀末美術の諸相(2) ヨーゼフ・ホフマンとウィーン工房                |
| 第4回  | オペラの中の「ハプスブルク神話」ホフマンスタール/R. シュトラウス『ばらの騎士』   |
| 第5回  | 明治大正の日本とホフマンスタール 『エレクトラ』日本公演をめぐる(森鷗外との交流)   |
| 第6回  | 反ユダヤ主義に「翻弄される芸術家たち(1)フロイト、グスタフ・マーラー、シェーンベルク |
| 第7回  | オペレッタの黄金時代『こうもり』の風刺                         |
| 第8回  | オペレッタの白銀時代『メリーウィドウ』『チャルダッシュの歌姫』に反映された社会     |
| 第9回  | 両大戦間のオーストリア『サウンドオブミュージック』の虚実、ザルツブルク音楽祭      |
| 第10回 | ヒトラーとウィーン                                   |
| 第11回 | 第二次世界大戦後のオーストリア(1)カラヤン                      |
| 第12回 | 第二次世界大戦後のオーストリア(2)フンデルト・ヴァッサー               |
| 第13回 | 現在のオーストリアの文化                                |

### 授業計画コメント

毎回、講義内容について質問、意見、感想または個別の課題を書いて提出していただき、平常点に反映させます。

### 授業方法

講義

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当部分を読むか、関連書やネットを利用して、予習することが望ましい。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

毎回の課題の内容で、授業への積極的な参画を評価する。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題の内容(質問、意見、感想)をもとに、講義や配布資料に反映する。

## 教科書

図説 ハプスブルク帝国,加藤雅彦,河出書房新社,1995,4309724957

## 参考文献

ハプスブルク家,江村洋,講談社,1990

図説ウィーンの歴史:ふくろうの本,増谷秀樹,河出書房新社,2016,9784309762456

ハプスブルク家:図解雑学,菊池良生,ナツメ社,2008,9784816344749

世紀末ウィーン,カール・ショースキー,岩波書店,1983

ウィーン精神,W.M.ジョンストン,みすず書房,1986

## 参考文献コメント

その他、洋書、個別テーマに関する参考文献については授業時に指示します。

## その他

オーストリアや音楽に高い関心を持っている学生を歓迎します。ただしドイツ語や音楽の特別な知識は必要としません。毎回のリアクションペーパーの内容を重視します。

講義コード	U350202102	科目ナンバリング	035A531	単位	2
講義名	現代地域事情 講義(2)				
副題	スイスと「アイデンティティ」				
英文科目名	Lecture on Contemporary Area Studies				
担当者名	松鶴 功記				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第2学期 金曜日 4時限 南1-205				

### 授業概要

スイスにとって言語・文化の多様性が重要な基盤であることを、連邦国家成立の道のりをたどりながら解説する。その上で20世紀、ふたつの大戦においてスイスが国際的に取った武装中立の立場と、国内での文化政策「精神的国土防衛」の成り立ちについて解説し、それらが戦後スイス社会に及ぼした影響を考察していく。

### 到達目標

スイス連邦国家の成立事情、20世紀スイス社会の特徴を理解し、第二次世界大戦でのドイツとの関係、その際のスイスの複雑な立場、戦後の歴史認識等の問題について考察を深める。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	スイスの基礎知識 ガイダンス:スイスの基礎知識
第2回	スイス連邦成立1:永久同盟から13世紀同盟時代
第3回	連邦成立2:傭兵制と中立～宗教戦争
第4回	スイス連邦成立3:ヘルヴェチア共和国～連邦成立
第5回	直接民主制:連邦議会とカントン(地方自治)
第6回	多言語国家スイス
第7回	言語間の相互理解
第8回	ふたつの対戦と文化政策「精神的国土防衛」
第9回	1939年スイス博覧会とスイスのナショナル・アイデンティティ
第10回	「自由の砦」?:劇場チューリヒ・シャウシュピールハウスと難民
第11回	戦後のスイス:1968年学生運動/女性参政権
第12回	スイスの「過去の克服」:ベルジエ報告書
第13回	外国人問題とスイスの課題

### 授業方法

講義

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

各テーマに関して配布する資料を参照し、授業内容を補足・確認すること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

- ・授業への参加度:毎回提出してもらったリアクションペーパーによって授業の理解度・参加度を判断する。
- ・レポート:授業内容から各自でテーマを選び執筆する。たんなる参考文献のまとめではなく、授業内容を反映し考察が加えられていることを評価する。
- ・両者の評価点の総計で成績を決定する。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーの内容について、次回授業で補足説明する・または授業に反映させる。また必要に応じて追加の資料を配付する。

#### 参考文献コメント

授業内で適宜参考文献を紹介する。

講義コード	U350202103	科目ナンバリング	035A531	単位	2
講義名	現代地域事情 講義(3)				
副題	モノから学ぶドイツ近現代史				
英文科目名	Lecture on Contemporary Area Studies				
担当者名	柳原 伸洋				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第1学期 土曜日 2時限 西1-106				

## 授業概要

主に19世紀後半に成立する第二帝政ドイツ、ヴァイマル共和国、そしてナチ・ドイツに至るまでのドイツ史を、モノ(製品など)を通じて知り、考えていく対話型の講義です。本講義では皆さんの身の回りにある製品がどのようにドイツ・スイス・オーストリアなど関わっているかに焦点を当てます。例えば、鉄道、自動車、文房具、食品、お菓子、スポーツ、動物などを取り扱う予定です。これらを通じて、「日本における”ドイツ”」について知り、同時にドイツ近現代史について学ぶことになります。講義者の専攻は「歴史学」ですが、本講義は歴史学・文化学ということになります。また、「トレーサー」と呼ばれる短い宣伝動画を紹介し、視聴してもらいます(もちろん作品全体を観ていただければ嬉しいです)。ただし、映画はフィクションであり、映画の内容そのものを歴史として捉えるのではなく、あくまでドイツ現代の理解のための「入り口」として理解してください。また、近現代の歴史なので戦争や死を扱うこともあります。この点を了解したうえで参加を御願います。もちろん露悪的な見せ方をするのではなく、あくまで学問として扱います。講義はオンライン形式と一部学生の「共演」によって進んでいきます。やや複雑なので、形式については最初のガイダンスを訊いて理解したうえで参加してください。

## 到達目標

現代ドイツ地域を知るための基礎的な知識の習得と多角的な視座を手に入れること、そして何よりも「もっと知ってみたい」という好奇心が各個人のなかに生み出されること。これは講義者の手腕に依る部分も大きいですが、それだけではなく、参加者がドイツに関する知見を丁寧かつ着実に積み重ねていくことで生み出されていくものです。

## 授業内容

実施回	内容
第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ガイダンス</li> <li>・モノからの歴史学・文化学の研究について</li> <li>・歴史学の思考法について</li> <li>・レポートについて</li> </ul>
第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>■第二帝政期のモノとその背景①</li> <li>・製品文化史から考えるドイツ近代</li> <li>・テディベアのぬいぐるみ</li> <li>・パウムクーヘンと分権体制</li> <li>など</li> </ul>
第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>■第二帝政期のモノとその背景②</li> <li>・体操からサッカーへ</li> <li>・ベンツの発明</li> <li>・ジャーマン・シェパード</li> <li>など</li> </ul>
第4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>■発明と地域性</li> <li>・発明王国としてのザクセン</li> <li>・発明王国としてのバーデン=ヴュルテンバク</li> <li>など</li> </ul>
第5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>■第一次世界大戦とモノ</li> <li>・ナショナリズムと記念碑</li> <li>・近代兵器の登場と戦争観の変容</li> <li>・レイションと戦時下の食文化</li> <li>など</li> </ul>
第6回	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ヴァイマル共和国期の社会</li> <li>・近代化とアメリカ化</li> <li>・衛生用品の誕生</li> <li>・グミ菓子ハリボー</li> <li>など</li> </ul>
第7回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートそしてアイデアマップについての説明</li> <li>・これまでの振り返りとドイツ近代史に関するまとめ</li> </ul>
第8回	<ul style="list-style-type: none"> <li>■講義参加者の要望からのドイツ製品史の講義</li> </ul>
第9回	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ヴァイマル期からナチ期へ</li> <li>・ナチ政権成立</li> <li>・ナチズムと経済体制</li> <li>など</li> </ul>
第10回	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ナチ期の製品文化史</li> <li>・ナチ時代の発明品</li> <li>・ナチ社会とアメリカ、ディズニー</li> <li>など</li> </ul>
第11回	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ホロコーストへ至る道</li> <li>・強制収容所とは何か</li> <li>・様々な収容所</li> </ul>

・映像作品を用いつつ考えるホロコースト  
など

第12回 ・20世紀前半の講義の補足(参加者の希望から)  
・アイデアマップの講評

第13回 まとめ:ドイツ近現代史と製品文化史

## 授業方法

### 【注意】

- ・遠隔授業(オンライン)となります。同時配信とオンデマンドの両方となります。
- ・参加者の中から「共演者」を募ります。その学生たちとの対話によって講義が成り立ちます。
- ・「共演者」はゼミのような質疑応答の相手となります。
- ・「共演者」は講義参加度が高いので、その分は成績に加味されることとなります。奮ってご応募ください。

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

- ・講義時間内で数々の文献や映画を紹介しますので、それらをレポート作成のためにも読んだり、観たりしておいてください。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	レポート提出よりも前に「アイデアマップ」を提出することが求められる
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

レポートは4000字以上とする(脚注・参考文献をのぞく)。また、レポート作成前に事前に「アイデアマップ」を作成し提出していること。評価基準は、「①ドイツ近現代史を背景として、自分でテーマを設定できているか。②参考文献をもとに講義者を納得させる、あるいは驚かせてくれるような論理的なレポートが作成できているか」となる。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・アイデアマップについては講義期間の後半には提出をしよう。これについては、講義内やLMSを通じてコメントをする。
- ・アイデアマップとは何かについては講義時間内でレクチャーする。

## 教科書

教養のドイツ現代史, 田野大輔・柳原伸洋編, ミネルヴァ書房, 2016, 4623072703

## 教科書コメント

『教養のドイツ現代史』は、映画やマンガなどを入り口にドイツ現代史研究の最前線に触れてもらおうと思って作った書籍です。本講義の着想の一つになっています。ご関心があれば手に取ってみてください。

## 参考文献

第二帝国ドイツ(上)(下), 伸井太一ほか, パブリブ, 2017, 4908468176

超約 ドイツの歴史, ジェームズ・ホーズ, 東京書籍, 2024, 4487816971

## 参考文献コメント

参考文献は講義者がペンネームで執筆した一般向けの書籍です。本講義の「モノ」の部分の参考になります。こちらもレポートのヒントなどに。

## 履修上の注意

- ・履修上の注意としては、映像資料に「死」や「死体」に関するものが出てくることを了承したうえで履修してください。なお、これらは研究・学問上の必要性から使用するもので、露悪的に見せるわけではありません。

## その他

出演者を募集します。人数が多ければローテーションをさせます。なお、出演は、オンラインのパターンと、土曜2限に学習院大内の演習室での対面を配信するパターンなどがあります。適宜、相談しつつ決めていきます。関心のある方はメールをください。

yanagihara0701@gmail.com



講義コード	U350202104	科目ナンバリング	035A531	単位	2
講義名	現代地域事情 講義(4)				
副題	ドイツを通じて見る世界と日本				
英文科目名	Lecture on Contemporary Area Studies				
担当者名	岡村 りら				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第2学期 月曜日 4時限 西2-205				

### 授業概要

様々な角度からドイツ語圏を中心としたヨーロッパを概観し、歴史的、社会的背景を知ること、この地域の時事問題、現代事情への理解を深めていきます。  
 現在この地域で実際に何が起きているのか、何が問題となっているのかを知るために、最新ニュースも取り上げます。  
 講義の順番や内容は、多少変更する可能性があります、その場合は事前にお知らせします。

### 到達目標

ドイツを中心としたヨーロッパにおける現代社会の実情と文化に関する総合的な知識を養い、この地域に対する理解を深めます。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	ドイツ語圏、ヨーロッパ基本情報
第3回	政治システム/EUや世界との関係
第4回	若者/女性/家族
第5回	労働と休暇
第6回	宗教
第7回	食文化
第8回	権利(人権、動物の権利、知る権利)
第9回	移民と難民
第10回	環境① 廃棄物、ゴミ問題からみるドイツ
第11回	環境② エネルギー問題からみるドイツ
第12回	環境③ 資源問題からみるドイツとヨーロッパ
第13回	総括

### 授業計画コメント

講義の順番や内容は、多少変更する可能性があります、その場合は事前にお知らせします。

### 授業方法

基本的には講義形式の授業形態となりますが、レスポンス等のアンケート機能を利用して、学生の皆さんにも授業に参加していただきます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

次回授業の予備知識を得るために、教員の指示に従って情報収集等行ってください。  
 授業で学んだ知識を深めるために、各自授業後に資料収集、文献の読み込み等を行ってください。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	65 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	コメントペーパー等
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	5 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

授業への参加度、授業後のコメントペーパー、学期の最後に行うテストにより総合的に評価します。  
 単位の取得には3分の2以上の出席が必要です。正当な理由があり欠席する場合には、必ず事前に連絡をしてください。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎授業の最後に書いていただくコメントペーパーに関しては、授業内でコメントをします。  
適宜、次回授業で補足の説明も行います。

#### **教科書コメント**

適宜、授業内で指示します。

#### **参考文献コメント**

適宜、授業内で指示します。

#### **履修上の注意**

授業の進め方、成績評価に関する説明をしますので、第一回目の授業に必ず出席してください。

#### **その他**

連絡先: lilaokamura@senshu-u.jp

講義コード	U350210101	科目ナンバリング	035A611	単位	2
講義名	ジェンダーと言語				
英文科目名	Gender and Languages				
担当者名	白井 宏美				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
時間割	第2学期 火曜日 4時限 中央-507				

### 授業概要

ジェンダーと言語について、社会言語学、会話分析、談話分析、メディア分析などからアプローチする研究を扱います。その際、日独比較の観点が入っているのが特徴です。観察・分析対象は、広告、コマーシャル、マンガ、アニメ、流行歌、ドラマ、映画など広範囲に及びます。

### 到達目標

ジェンダーと言語に関する研究領域の基本概念を理解し、学術的に分析・考察する能力を身につける。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入:ジェンダーと言語の関係
第2回	言語からジェンダーを考える意義
第3回	CMのキャッチフレーズと性差別
第4回	「女ことば」とは
第5回	メタ言説の分析
第6回	「男ことば」とは
第7回	流行歌におけるジェンダー
第8回	標準語政策における性差の導入
第9回	性差の強調と地域のことば
第10回	外国映画の日本語翻訳における「社会方言」
第11回	ペアワーク:メディア(アニメ、ドラマ、映画など)がつくるジェンダーと社会方言
第12回	ドイツ映画(日本語字幕)『ラン・ローラ・ラン』鑑賞
第13回	映画『ラン・ローラ・ラン』におけるジェンダー役割の逆転

### 授業方法

講義(演習を含む)

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業中に学んだ概念や分析手法を復習し、疑問点をまとめておくこと(計1～2時間)。その他については、授業中に指示します。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中または Moodle を通じて対応します。

### 参考文献コメント

授業中に提示します。

### その他

ドイツ語の知識が全くなくても受講できます。

講義コード	U350211101	科目ナンバリング	035A621	単位	2
講義名	ジェンダーと表象文化				
副題	女性が描く女性たち				
英文科目名	Gender and Cultural Studies				
担当者名	小林 和貴子				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
時間割	第1学期 木曜日 4時限 南3-401				

### 授業概要

「女らしさ」や「男らしさ」は時代と文化とに深く結びついているという理解のもと、この講義では、これまで女性たちがどんな女性たちを描いてきたかに注目します。主に取り上げるのは恋愛をめぐる文学ですが、講義の後半には視覚芸術や映画も扱います。女性たちの描く女性たちを手掛かりに、社会で支配的な「女／男らしさ」規範と、それに対する戦略について考えていきます。

### 到達目標

ジェンダー規範(「女らしさ」「男らしさ」)が歴史的・文化的に作り上げられてきたものであることについて、立体的な理解を得る。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	ラファイエット夫人(1678)『クレヴの奥方』【フランス】
第3回	ジェイン・オースティン(1818)『説得』【イギリス】
第4回	シャーロット・ブロンテ(1847)『ジェーン・エア』【イギリス】
第5回	ガードルード・スタイン(1909)『三人の女』【アメリカ】
第6回	スヴェトラナ・アレクシエーヴィッチ(1985)『戦争は女の顔をしていない』【ベラルーシ】
第7回	エルフリーデ・イエリネク(1983)『ピアニスト』【オーストリア】
第8回	村田沙耶香(2014)『殺人出産』【日本】
第9回	チョ・ナムジュ(2016)『82年生まれ、キム・ジョン』【韓国】
第10回	現代美術における様々な実践
第11回	同性愛をどう描く？——パティ・ジェンキンス監督映画(2003)『モンスター』【アメリカ】
第12回	再現シーン無しの性犯罪追及映画——エメラルド・フェネル監督映画(2020)『プロミシング・ヤング・ウーマン』【アメリカ】
第13回	番外編:男性が描く男性たち(ラムシュタイン)【ドイツ】

### 授業方法

授業は対面で行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業で扱う作品を部分的に事前に読んできてもらいます(30分程度)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果		
その他(備考欄を参照)	50 %	小レポート

### 成績評価コメント

授業終了時に毎回理解度を確認する小レポートを提出してもらいます。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に随時小レポートへのコメントを行います。

### 教科書コメント

・授業時に資料を配布します。

### 参考文献コメント

- ・授業時に指示します。

### 履修上の注意

- ・副専攻プログラム「ジェンダー・スタディーズ」指定科目です。
- ・2年生が履修することを想定していますが、3年生以上の履修も歓迎します。

講義コード	U350212101	科目ナンバリング	035A631	単位	2
講義名	ジェンダーと現代社会				
副題	男女平等立法・LGBT法の現在(世界の中の日本)				
英文科目名	Gender and Modern Society				
担当者名	泉 眞樹子				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
時間割	第2学期 木曜日 5時限 西2-505				

### 授業概要

毎年、発表されるジェンダー・ギャップ指数において、他国の進展をよそに、日本は順位を落とし続け、多くの国の後塵を拝しています(2024年は146か国のうちの118位)。これは、男性を稼ぎ手、女性を家庭の守り手と考える性別役割分業意識が日本では根強く、女性の経済的・社会的な活動を抑制する傾向が長く続いてきたためです。特にその傾向は、政治・経済の面で顕著に現れており、これが少子化社会の一因とも指摘されています。一方で、このような風潮と戦い、抗う女性のムーブメントも途絶えることなく、国際社会の趨勢にも沿い、男女平等のための政策と法整備が一步一步進められてきました。この授業では、男女平等の理念の展開や日本の男女平等立法の歴史を、諸外国(特にドイツ)と比較しながら学び、併せてインターネットで公開されている国会・行政省庁の資料・統計等を利用しつつ、それらの調べ方を紹介します。

### 到達目標

- ・ジェンダー平等について考えるための知識と視座の獲得
- ・男女平等に関する国際潮流と日本の男女平等立法・LGBTQ法の知識
- ・日本の議会資料・行政資料を調べるスキル

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(ジェンダー・ギャップ指数、男女平等の歴史概観、国会と立法制度)
第2回	男女平等と日本国憲法制定、民法・戸籍法改正(イエから個人の尊重へ)
第3回	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)(1948年優生保護法と家族計画・人口問題)
第4回	女性労働と母性保護・家族責任(1965年ILO第123号勧告と1972年勤労婦人福祉法)
第5回	1979年国連「女子差別撤廃条約」と1984年国籍法改正、1985年男女雇用機会均等法
第6回	女性労働と少子化社会(1991年育児休業法、2012年子ども・子育て支援法、ドイツの育児休業制度と保育制度)
第7回	高齢化社会とケアワーク(1995年育児介護休業法、1997年介護保険法「介護の社会化」、ドイツ:1994年介護保険法 2008年介護時間法・2011年家族介護時間法)
第8回	税制における男女平等(男性稼ぎ主型の保護＝女性労働の障害? 2024年衆議院選挙「103万円の壁」)
第9回	社会保障(年金制度)における男女平等(男性稼ぎ主型の保護? 第3号被保険者制度、遺族年金)
第10回	社会をリードする女性(1999年男女共同参画社会基本法、2015年女性活躍推進法、2018年政治分野における男女共同参画の推進に関する法律 ドイツ:2015年指導的地位法、2021年第2次指導的地位法)
第11回	暴力に曝される女性(ストーカー行為、ドメスティック・バイオレンス、性犯罪)(2000年ストーカー規制法、2001年配偶者暴力防止法、2022年困難な問題を抱える女性への支援に関する法律、2022年AV出演被害防止・救済法、2023年刑法等改正法等etc. ドイツ:2001年暴力保護法、2007年つきまとい処罰法)
第12回	教育とジェンダー・ギャップ(高等教育進学率、STEM系進学、教員数とロールモデルの不在、リカレント教育・企業内研修) & LGBTQ・DEI
第13回	課題報告とグループ・ディスカッション

### 授業方法

講義

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

各テーマに関する参考資料や重要なキーワードを調べる。テーマに関する自分の意見・感想を言語化する。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	

授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	課題提出
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題については、授業で説明します。

### 参考文献

女性のいない民主主義:岩波新書,前田健太郎,岩波書店,2019

ジェンダー格差—実証経済学は何を語るか:中公新書,牧野百恵,中央公論新社,2023

なぜ東大は男だらけなのか:集英社新書,矢口祐人,集英社,2024

フェミニズムってなんですか?:文春新書,清水晶子,文藝春秋,2022

新書版 性差(ジェンダー)の日本史:インターナショナル新書,国立歴史民俗博物館監修、「性差の日本史」展示プロジェクト編,集英社インターナショナル,2021

### 参考文献コメント

参考文献はレポート課題図書の一部です。他の文献については、授業で説明します。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず参加すること。

インターネット情報を検索できる機器を持参してください。

講義コード	U350300101	科目ナンバリング	035B311	単位	2
講義名	言語・情報コース 専門演習(1)				
副題	現代ドイツ語の姿を知る				
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies				
担当者名	鯨岡 さつき				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 木曜日 1時限 北1-305				

### 授業概要

今現在のドイツ語がどのような姿をしているのかを知ることは、ドイツ語圏の社会や文化を理解するのに役に立ちます。この授業では、現代のドイツ語の姿を以下の4つのテーマに分けて学びます。1)ドイツ語は現在、世界の言語の中でどのような地位にあるのか(「ドイツ語の地位」)、2)ドイツ語圏は現在どのような方言分布になっていて、どのような地域的表現が見られるのか(「ドイツ語の方言」)、3)現代ドイツ語には英語をはじめ、どのような外来語が入っているのか(「ドイツ語における外来語」)、4)移民国家としてのドイツにおいて、移民の話すドイツ語はどのような観点で注目を集めているのか(「移民のドイツ語」)。

### 到達目標

- ・現代のドイツ語に関する基礎知識をつけることによって、ドイツ語およびドイツ語圏の社会・文化についての理解を深める。
- ・ドイツ語および日本語の学術的テキストを読む力を養成する。
- ・要点のまとまった分かりやすい発表をする力を養成する。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入:第1学期の授業についての説明、受講生による発表テーマの希望調査
第2回	ドイツ語の地位(1):テキスト講読
第3回	ドイツ語の地位(2):テキスト講読(続き)
第4回	ドイツ語の地位(3):受講生による発表とディスカッション
第5回	ドイツ語の方言(1):テキスト講読
第6回	ドイツ語の方言(2):テキスト講読(続き)
第7回	ドイツ語の方言(3):受講生による発表とディスカッション
第8回	ドイツ語における外来語(1):テキスト講読
第9回	ドイツ語における外来語(2):テキスト講読(続き)
第10回	ドイツ語における外来語(3):受講生による発表とディスカッション
第11回	移民のドイツ語(1):テキスト講読
第12回	移民のドイツ語(2):テキスト講読(続き)
第13回	移民のドイツ語(3):受講生による発表とディスカッション、第1学期のまとめ

### 授業計画コメント

- ・コメントペーパーなどによる受講生の希望に応じて、各テーマについて補足事項などを学習する可能性があります。
- ・講読では日本語のテキストでテーマの概要を学習したあと、ドイツ語で書かれたテキストを読みます。ドイツ語テキスト講読の際には、講読のヒントとして予習プリントを配布します。

### 授業方法

対面授業(演習)。各テーマに関して、まずテキスト講読を通じて理解を深めます。テキスト講読の際にはグループワークも適宜行います。その後、担当受講生がテーマに関係する内容について口頭発表し、受講生全員でディスカッションをします。なお担当テーマについては、初回の授業後に提出していただく希望調査を参考に割り当てます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

- ・毎回授業後にコメントペーパー記入を行っていただきます。コメントペーパーはLMS(Moodle)経由で提出していただきます。
- ・またテキスト講読の回の前には、予習(約1時間～2時間)も行っていただきます。予習プリントもLMS(Moodle)経由で提出していただきます。
- ・発表準備については担当教員が授業前後およびメールで相談に応じます。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	授業前に提出する予習プリント
小テスト		



## 小テスト

授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	口頭発表(20%)、ディスカッションへの参加度(20%)
その他(備考欄を参照)	30 %	授業後に提出するコメントペーパー

## 成績評価コメント

授業前に提出する予習プリント(30%)、口頭発表(20%)、授業・ディスカッションへの参加度(20%)、授業後に提出するコメントペーパー(30%)の4つによる総合点で評価します。  
継続的かつ意欲的な授業参加が成績に反映されます。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業後に提出するコメントペーパーに対するフィードバックは授業内で行います。  
また必要に応じてLMS(Moodle)経由で参考資料等も提示します。

## 教科書コメント

使用するテキストはLMS(Moodle)経由で適宜配布します。

## 参考文献

ドイツ方言学 ことばの日常に迫る,河崎靖,現代書館,2008,9784768469804

ドイツ語圏の言語政策 ヨーロッパの多言語主義と英語普及のはざままで,高橋秀彰,関西大学出版部,2010,9784873544946

現代ドイツ文法 新装版,ヘルビヒ、ゲルハルト/ブッシュヤ、ヨアヒム(在間進訳),三修社,2006,4384002580

ハンドブック 現代ドイツ文法の解説,ヘンチェル、エルケ/ヴァイト、ハラルト(西本美彦/高田博行/河崎靖訳),同学社,1994,4810200906

## 参考文献コメント

その他参考文献に関しては、授業で適宜紹介します。

## 履修上の注意

- ・履修者数制限あり。第1回目の授業には必ず出席してください。
- ・2025年度第2学期の言語・情報コース 専門演習(2)とあわせて履修することをおすすめします。

## その他

グループワークやディスカッションにはぜひ積極的に参加してください。

講義コード	U350300102	科目ナンバリング	035B311	単位	2
講義名	言語・情報コース 専門演習(2)				
副題	ドイツ語の歴史を知る				
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies				
担当者名	鯨岡 さつき				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 木曜日 1時限 北1-305				

### 授業概要

ドイツ語がたどってきた歴史を知ることが、ドイツ語圏の社会や文化をさらに深く理解するのに役立ちます。この授業では、近世・近代のドイツ語の歴史を中心に、以下の4つのテーマについて学びます。1)ドイツ語の歴史はいつ始まり、どのように時代区分がなされるのか、2)16世紀のルターの聖書翻訳は、ドイツ語の歴史においてどのような役割を演じたのか、3)17～19世紀の外来語が氾濫する当時のドイツ語圏で、ドイツ語の育成はどのように取り組まれたのか、4)19世紀にグリム兄弟が編集した『ドイツ語辞典』は、どのような影響力を同時代、そして後世に持ったのか。

### 到達目標

- ・近世・近代のドイツ語に関する基礎知識をつけることによって、ドイツ語およびドイツ語圏の社会・文化についての理解を深める。
- ・ドイツ語および日本語の学術的テキストを読む力を養成する。
- ・要点のまとまった分かりやすい発表をする力を養成する。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入:第2学期の授業についての説明、受講生による発表テーマの希望調査
第2回	ドイツ語史の全体像と時代区分(1):テキスト講読
第3回	ドイツ語史の全体像と時代区分(2):テキスト講読(続き)
第4回	ルターの聖書翻訳の意義(1):テキスト講読
第5回	ルターの聖書翻訳の意義(2):テキスト講読(続き)
第6回	ルターの聖書翻訳の意義(3):受講生による発表とディスカッション
第7回	国語浄化運動の変遷(1):テキスト講読
第8回	国語浄化運動の変遷(2):テキスト講読(続き)
第9回	国語浄化運動の変遷(3):受講生による発表とディスカッション
第10回	グリム兄弟の『ドイツ語辞典』の影響(1):テキスト講読
第11回	グリム兄弟の『ドイツ語辞典』の影響(2):テキスト講読(続き)
第12回	グリム兄弟の『ドイツ語辞典』の影響(3):受講生による発表とディスカッション
第13回	第2学期のまとめ

### 授業計画コメント

- ・コメントペーパーなどによる受講生の希望に応じて、各テーマについて補足事項などを学習する可能性があります。
- ・講読では日本語のテキストでテーマの概要を学習したあと、ドイツ語で書かれたテキストを読みます。ドイツ語テキスト講読の際には、講読のヒントとして予習プリントを配布します。

### 授業方法

対面授業(演習)。各テーマに関して、まずテキスト講読を通じて理解を深めます。テキスト講読の際にはグループワークも適宜行います。その後、担当受講生がテーマに関係する内容について口頭発表し、受講生全員でディスカッションをします。なお担当テーマについては、初回の授業後に提出していただく希望調査を参考に割り当てます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

- ・毎回授業後にコメントペーパー記入を行っていただきます。コメントペーパーはLMS(Moodle)経由で提出していただきます。
- ・またテキスト講読の回の前には、予習(約1時間～2時間)も行っていただきます。予習プリントもLMS(Moodle)経由で提出していただきます。
- ・発表準備については担当教員が授業前後およびメールで相談に応じます。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	授業前に提出する予習プリント
小テスト		

## 小テスト

授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	口頭発表(20%)、ディスカッションへの参加度(20%)
その他(備考欄を参照)	30 %	授業後に提出するコメントペーパー

## 成績評価コメント

授業前に提出する予習プリント(30%)、口頭発表(20%)、授業・ディスカッションへの参加度(20%)、授業後に提出するコメントペーパー(30%)の4つによる総合点で評価します。  
継続的かつ意欲的な授業参加が成績に反映されます。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業後に提出するコメントペーパーに対するフィードバックは授業内で行います。  
また必要に応じてLMS(Moodle)経由で参考資料等も提示します。

## 教科書コメント

使用するテキストはLMS(Moodle)経由で適宜配布します。

## 参考文献

歴史言語学とドイツ語史, 荻野蔵平・齋藤治之, 同学社, 2015, 9784810203172  
総論 ドイツ語の歴史, シュミット、ヴィルヘルム(西本美彦他訳), 朝日出版社, 2004, 425500269X  
ドイツ語史—社会・文化・メディアを背景として, 須澤通・井出万秀, 郁文堂, 2009, 9784261072907  
ドイツ語の歴史論, 高田博行／新田春夫編, ひつじ書房, 2013, 9784894765726  
ドイツの標準語 その生い立ちと辞典の個性, 根本道也, 同学社, 2008, 9784810204551

## 参考文献コメント

その他参考文献に関しては、授業で適宜紹介します。

## 履修上の注意

- ・履修者数制限あり。第1回目の授業には必ず出席してください。
- ・2025年度第1学期の言語・情報コース 専門演習(1)を履修済みであることが望ましい。

## その他

グループワークやディスカッションにはぜひ積極的に参加してください。

講義コード	U350300103	科目ナンバリング	035B311	単位	2
講義名	言語・情報コース 専門演習(3)				
副題	日本文学のドイツ語訳を精読する。				
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies				
担当者名	成田 節				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 木曜日 2時限 西1-214				

### 授業概要

日本語の小説とそのドイツ語訳を素材として、日本語とドイツ語の表現方法の違いを主に文法と語法の面から考察します。授業では(1)ドイツ語に訳された日本文学の作品の精読、(2)正確に理解したドイツ語と元の日本語の対照による表現方法(特に文法と語法)の違いの考察、(3)日独両語の表現方法の主な違いについての解説、を行います。  
1学期は主に基礎的な語彙と文法項目の確認をしながら(1)を行います。文法と語法を重視した読解の授業と考えてください。

### 到達目標

基礎的な語彙と文法事項を確実に定着させる。ドイツ語の文章を正確に読み、日本語と比べながらドイツ語の語彙、文法、表現構造についての認識を深める。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	基礎語彙・文法事項の確認, テキスト読解(1)
第3回	基礎語彙・文法事項の確認, テキスト読解(2)
第4回	基礎語彙・文法事項の確認, テキスト読解(3)
第5回	基礎語彙・文法事項の確認, テキスト読解(4)
第6回	基礎語彙・文法事項の確認, テキスト読解(5)
第7回	中間まとめ
第8回	基礎語彙・文法事項の確認, テキスト読解(6)
第9回	基礎語彙・文法事項の確認, テキスト読解(7)
第10回	基礎語彙・文法事項の確認, テキスト読解(8)
第11回	基礎語彙・文法事項の確認, テキスト読解(9)
第12回	基礎語彙・文法事項の確認, テキスト読解(10)
第13回	1学期のまとめ

### 授業方法

講義と演習をミックスした授業を行う。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

- ①基礎語彙・文法事項の定着のための聞き取り小テストを毎回実施する。例文と音声ファイルはMoodleで提供する。指定された範囲を繰り返し練習して授業に出席すること。
- ②テキストの指定箇所を十分に予習しておくこと。予習の仕方は授業で指示する。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果		
その他(備考欄を参照)	20 %	毎授業後にコメント・質問などを提出する。

### 成績評価コメント

基礎的な語彙と文法事項が実に定着しているか評価する。  
ドイツ語の文章を正確に読み、ドイツ語の語彙、文法、表現構造について正しく理解しているかを評価する。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎授業後に提出されたコメント・質問については次の授業でフィードバックする。

### 教科書コメント

読解テキストは電子ファイルとしてMoodleで配布する。

### 参考文献

キッチン, 吉本ばなな, 角川文庫

講義コード	U350300104	科目ナンバリング	035B311	単位	2
講義名	言語・情報コース 専門演習(4)				
副題	日本文学のドイツ語訳を精読する。				
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies				
担当者名	成田 節				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 木曜日 2時限 西1-214				

### 授業概要

日本語の小説とそのドイツ語訳を素材として、日本語とドイツ語の表現方法の違いを主に文法と語法の面から考察します。授業では(1)ドイツ語に訳された日本文学の作品の精読、(2)正確に理解したドイツ語と元の日本語の対照による表現方法(特に文法と語法)の違いの考察、(3)日独両語の表現方法の主な違いについての解説、を行います。2学期は精読を進めながら、あるいは既読部分を読み返しなが(2)と(3)を中心に進めます。

### 到達目標

ドイツ語の文章を正確に読み、日本語と比べながらドイツ語の語彙、文法、表現構造についての認識を深める。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	テキスト読解, 日本語との比較(1)
第3回	テキスト読解, 日本語との比較(2)
第4回	テキスト読解, 日本語との比較(3)
第5回	テキスト読解, 日本語との比較(4)
第6回	テキスト読解, 日本語との比較(5)
第7回	中間まとめ
第8回	テキスト読解, 日本語との比較(6)
第9回	テキスト読解, 日本語との比較(7)
第10回	テキスト読解, 日本語との比較(8)
第11回	テキスト読解, 日本語との比較(9)
第12回	テキスト読解, 日本語との比較(10)
第13回	2学期のまとめ

### 授業方法

講義と演習をミックスした授業を行う。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

テキストの指定箇所を十分に予習してくること。予習の仕方は授業で指示する。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果		
その他(備考欄を参照)	20 %	毎授業後にコメント・質問などを提出する。

### 成績評価コメント

ドイツ語の文章を正確に読み、ドイツ語の語彙、文法、表現構造について正しく理解しているかを評価する。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎授業後に提出されたコメント・質問については次の授業でフィードバックする。

### 教科書コメント

読解テキストは電子ファイルとしてMoodleで配布する。

## 参考文献

キッチン, 吉本ばなな, 角川文庫

講義コード	U350300105	科目ナンバリング	035B311	単位	2
講義名	言語・情報コース 専門演習(5)				
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies				
担当者名	保阪 靖人				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 金曜日 1時限 西5-301				

### 授業概要

ドイツ語の文法の説明をドイツ語で読んで理解して、練習問題にも対応出来るようにする。具体的な項目は、序数、冠詞、分離動詞、男性弱変化名詞、形容詞の格変化語尾、前置詞、与格と対格、過去形、現在完了形、副詞の語順、話法の助動詞、受動態の12項目である。

### 到達目標

ドイツ語の基本文法を理解し、それを作文などで使えるようになる。ドイツ語で書かれた語学論文や文法書が辞書無しでも自由読めるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、注意など) ドイツ語の序数
第2回	ドイツ語の冠詞(名詞の性)について
第3回	分離動詞について(非分離動詞について)
第4回	男性弱変化名詞について
第5回	形容詞の格変化について
第6回	前置詞について
第7回	与格と対格(文法用語に慣れてください)
第8回	過去形について
第9回	現在完了形について
第10回	複数の種類の副詞の語順を考える
第11回	話法の助動詞について
第12回	受動態について
第13回	到達度確認

### 授業方法

テキストを個別に音読していただきます。単語をあらかじめ調べておく必要はありません。こちらからいくつか文法事項を尋ねる演習形式となります。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

テキストを音読していただきますので、短いテキストですが、音読は出来るようにしておいてください。訳読の必要はありません。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	テキスト・ノートは持ち込み可能。辞書は不可。電子機器は不可。
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

授業ではテキストを読んでもらうことや、質問に答えてくれることなどで参加度を測ります。答えられないから零点ということはありません。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

フィードバックが必要な場合や、課題に答えてもらう場合には、Moodleを通して行います。



### 教科書コメント

授業で利用した文法の教科書などがあれば、持ってきてもらって補足で書き込んでもらうなどするとよいと思います。テキストはこちらで用意します。

### 履修上の注意

第2学期の「言語・情報コース 専門演習(6)」では、ドイツ語の語形成の勉強をドイツ語のテキストを使って行います。参考までに。

### その他

授業時にメールアドレスをお知らせしますので、連絡してください。また授業終了前に質問時間を設けます。

講義コード	U350300106	科目ナンバリング	035B311	単位	2
講義名	言語・情報コース 専門演習(6)				
副題	ドイツ語の語形成を研究する				
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies				
担当者名	保阪 靖人				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 金曜日 1時限 西5-301				

### 授業概要

ドイツ語の語の仕組みを学習する。いくつかの術語にも習熟し、自分でも新たに語を作り出したり、新しい語彙に出会っても、それを分析することができるようになることによって意味が分かるようになる。また、造語分析に必要な接頭辞、接尾辞、派生などの文法用語を使い、語の統語構造を理論的にも説明できるようになる。そのことを本格的なドイツ語の論文を読みながら、理解してもらいます。なお、ドイツ語のテキストは個別に音読していただきますが、訳や説明はこちらで行います。ただし、文法的な説明はこちらから尋ねます。

### 到達目標

ドイツ語には合成語や派生語が多く見られるが、それらの仕組みを理解することで、ドイツ語を読むための語彙を増やすことが出来る。また新たな表現を作ることができるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の進め方、注意など) 形態論の基礎を勉強します。形態素(自由形態素、拘束形態素)などの用語の学習
第2回	論文を読みながら: 文法形態素(派生形態素、屈折形態素)などの用語の学習
第3回	論文を読みながら: 語の派生について学習します。接辞(接尾辞、接頭辞、接中辞)などの概念の学習
第4回	論文を読みながら: 語を形態素に分解する表示の仕方の学習。樹形図や括弧による表示に慣れる。
第5回	論文を読みながら: 外来語とドイツ語固有の表現における派生の違いについての学習。
第6回	論文を読みながら: 合成語について、特にその生産性の学習。
第7回	論文を読みながら: 主要部、補部という生成文法で主に使われている理論的概念の理解を目指す。
第8回	論文を読みながら: 合成語のタイプについての学習。(その1)
第9回	論文を読みながら: 合成語のタイプについての学習。(その2)
第10回	論文を読みながら: 接合要素(Fugenelement)の学習をします。
第11回	論文を読みながら: 品詞転換(Konversion)についての学習。
第12回	論文を読みながら: 適用態(Applikativ)についての学習。
第13回	到達度確認

### 授業方法

テキストを個別に音読していただきます。単語をあらかじめ調べておく必要はありません。こちらからいくつか文法事項を尋ねる演習形式となります。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

テキストを個別に音読していただきます。単語をあらかじめ調べておく必要はありません。こちらからいくつか文法事項を尋ねる演習形式となります。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	テキスト・ノートは持ち込み可能。辞書は不可。電子機器は不可。
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

授業ではテキストを読んでもらうことや、質問に答えてくれることなどで参加度を測ります。答えられないから零点ということはありません。

ん。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

フィードバックが必要な場合や、課題に答えてもらう場合には、Moodleを通して行います。

### 教科書コメント

論文の一部のコピーを配布する。

### 参考文献

現代ドイツ言語学入門,野村泰幸他,大修館書店,1,2001,9784469212693

ドイツ語造語論入門,ベルント・ナウマン,三修社,1,2008,9784384011685

語の仕組みと語形成:英語学モノグラフシリーズ16,伊藤たかね、杉岡洋子,研究社,1,2002,9784327257163

### 履修上の注意

第1学期の「言語・情報コース 専門演習(5)」を履修しておくこと、ドイツ語のテキストを読むのは楽になっていると思います。参考までに。

### その他

授業時にメールアドレスをお知らせしますので、連絡してください。また授業終了前に質問時間を設けます。

講義コード	U3503001Z1	科目ナンバリング	035B311	単位	2
講義名	◇言語・情報コース 専門演習				
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies				
担当者名	MEYER, Thomas Horst				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 水曜日 3時限 西1-212				

### 授業概要

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrwerk Aspekte neu C1 (Klett Verlag), das eine Einarbeitung in themenbezogenen Wortschatz und Grammatik auf dem Niveau C1 bietet. Die Themen umfassen im Wesentlichen gesellschaftliche Felder wie Medien, Bildung, Beruf, Wirtschaft und Lifestyle in aktuellen Ausprägungen und Problemkonstellationen.

### 到達目標

Ausweitung des Wortschatzes auf C1-Niveau, Verbesserung des Lese- und Hörverständnisses sowie Übung des sprachlichen Ausdrucks anhand von aktuellen Themen.  
Deutschkenntnisse auf dem Niveau von C1 werden vorausgesetzt.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Vorstellung des Kurses / Einführung
第2回	Zeitgefühl I
第3回	Zeitgefühl II
第4回	Engagement in Vereinen
第5回	Handynutzung I
第6回	Handynutzung II
第7回	Probleme in Wohngemeinschaften
第8回	Porträt: Dinge des Alltags
第9回	Vor- und Nachteile moderner Medien
第10回	Schlagfertigkeit
第11回	Sprachen lernen
第12回	Dialekte I
第13回	Dialekte II

### 授業方法

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Je nach Größe des Kurses sollen die Teilnehmer in Einzel- oder Partnerarbeit Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später im Plenum oder in Gruppen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts können vereinzelt Hausaufgaben von geringem Umfang gestellt werden (Fertigstellung von Übungen, Materialauswahl für den folgenden Unterricht u.ä.)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	mündliche Prüfung
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback; persönliche Sprechstunde (falls erwünscht)

### 教科書

Aspekte neu C1: Mittelstufe Deutsch, Lehr- und Arbeitsbuch, Ute Koithan et al, Klett Verlag, 2016, 978-3126050371

### 教科書コメント

Teilband 1 (Lektion 1-5) ist ausreichend.

Das Arbeitsbuch braucht nicht angeschafft zu werden.

### 履修上の注意

教科書を郁文堂のサイト (<https://www.ikubundo.com/news/2023-02-10/>) より購入できます。履修を決定した時点で(遅くとも第1回目の授業後)速やかに注文してください。

講義コード	U3503001Z2	科目ナンバリング	035B311	単位	2
講義名	◇言語・情報コース 専門演習				
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies				
担当者名	MEYER, Thomas Horst				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 水曜日 3時限 西1-212				

### 授業概要

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrwerk Aspekte neu C1 (Klett Verlag), das eine Einarbeitung in themenbezogenen Wortschatz und Grammatik auf dem Niveau C1 bietet. Die Themen umfassen im Wesentlichen gesellschaftliche Felder wie Medien, Bildung, Beruf, Wirtschaft und Lifestyle in aktuellen Ausprägungen und Problemkonstellationen.

### 到達目標

Ausweitung des Wortschatzes auf C1-Niveau, Verbesserung des Lese- und Hörverständnisses sowie Übung des sprachlichen Ausdrucks anhand von aktuellen Themen.  
Deutschkenntnisse auf dem Niveau von C1 werden vorausgesetzt.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung/Stellenanzeigen
第2回	Ein "bunter" Lebenslauf
第3回	Studium oder Ausbildung I
第4回	Studium oder Ausbildung II
第5回	Multitasking
第6回	Soft Skills
第7回	Der Kohlenpott: Die Entwicklung des Ruhrgebiets
第8回	Gewissensfragen
第9回	Globalisierung I
第10回	Globalisierung II
第11回	Crowdfunding I
第12回	Crowdfunding II
第13回	Zusammenfassung

### 授業方法

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Je nach Größe des Kurses sollen die Teilnehmer in Einzel- oder Partnerarbeit Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später im Plenum oder in Gruppen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts können vereinzelt Hausaufgaben von geringem Umfang gestellt werden (Fertigstellung von Übungen, Materialauswahl für den folgenden Unterricht u.ä.)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	mündliche Prüfung
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback, persönliche Sprechstunde (falls erwünscht)

### 教科書

Aspekte neu C1: Mittelstufe Deutsch, Lehr- und Arbeitsbuch, Ute Koithan et al, Klett Verlag, 2016, 978-3126050371

### 教科書コメント

Teilband 1 (Lektion 1-5) ist ausreichend.

Das Arbeitsbuch braucht nicht angeschafft zu werden.

### 履修上の注意

教科書を郁文堂のサイト (<https://www.ikubundo.com/news/2023-02-10/>) より購入できます。履修を決定した時点で(遅くとも第1回目の授業後)速やかに注文してください。

講義コード	U3503001Z3	科目ナンバリング	035B311	単位	2
講義名	◇言語・情報コース 専門演習				
副題	中世ドイツ語学・文学入門				
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies				
担当者名	平井 敏雄				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 木曜日 4時限 西2-306				

### 授業概要

現代ドイツ文化の源流が形作られた中世という時代、ドイツ語圏では現代のドイツ語とは様々な点で異なる言語が話されていました。また、中世最盛期の12～13世紀ごろには、宮廷の騎士階級による詩の文学が大いに栄え、ドイツ文学史上最初の黄金時代と呼ばれています。本授業では、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。

### 到達目標

- ・中高ドイツ語を中心に、ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。
- ・中高ドイツ語の文法を学習し、辞書を頼りに原典購読に挑戦する。英雄叙事詩『ニーベルンゲンの歌』の一部を読むことを予定しています。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	序・中世とは
第2回	ドイツ語の歴史
第3回	続き
第4回	中高ドイツ語文法
第5回	続き
第6回	中世の社会・生活
第7回	続き
第8回	中世ドイツ文学
第9回	続き
第10回	英雄叙事詩
第11回	宮廷叙事詩
第12回	恋愛抒情詩
第13回	理解度の確認

### 授業計画コメント

上記内容は授業で扱うピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

### 授業方法

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、中高ドイツ語文法の学習および原典購読などを予定していますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		



### **成績評価コメント**

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。  
本授業は大学院・学部共通の授業ですが、学部生の成績評価は大学院生とは違う基準で行います。

### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

授業中に説明します。

### **教科書コメント**

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

### **履修上の注意**

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U3503001Z4	科目ナンバリング	035B311	単位	2
講義名	◇言語・情報コース 専門演習				
副題	中世ドイツ語学・文学入門				
英文科目名	Advanced Seminar: in Linguistics and Information Studies				
担当者名	平井 敏雄				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 木曜日 4時限 西2-306				

### 授業概要

第1学期に引き続き、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。なお、授業の内容上は第1学期の続きとなりますが、第2学期のみの受講も可能です。

### 到達目標

- ・中高ドイツ語を中心に、ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。
- ・辞書と文法書を頼りに、中高ドイツ語の原典購読に挑戦する。英雄叙事詩『ニーベルンゲンの歌』の一部を読むことを予定しています。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	中世ドイツの文化
第2回	続き
第3回	ドイツ語と周辺諸言語の関係・歴史
第4回	続き
第5回	歴史言語学的観点から見た現代ドイツ語
第6回	続き
第7回	中世ドイツ文学の詩人たち
第8回	小発表1
第9回	小発表2
第10回	『ニーベルンゲンの歌』講読
第11回	続き
第12回	続き
第13回	理解度の確認

### 授業計画コメント

上記内容は授業で扱うトピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

### 授業方法

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、中高ドイツ語原典購読、小発表およびディスカッションなどを予定していますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。  
本授業は大学院・学部共通の授業ですが、学部生の成績評価は大学院生とは違う基準で行います。

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

#### 教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

#### 履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U350301103	科目ナンバリング	035B321	単位	2
講義名	文学・文化コース 専門演習(3)				
副題	音楽と教養				
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies				
担当者名	杉山 真佑美				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 月曜日 1時限 西5-301				

### 授業概要

19世紀は市民階級の台頭によって、それ以前の生活様式とは大きく変化した時代であり、クラシック音楽文化もその例外ではない。音楽の大衆化に伴い、音楽を聴く人と弾く人の価値観は一変した。産業化によってピアノ楽器は製造技術の急速な発展を遂げ、楽譜出版業は栄え、演奏会の形態も変化した。市民階級の家の居間にはピアノが置かれ、女の子は教養としてピアノを習った。この授業では、市民階級のアイデンティティの象徴とされた「教養」に着目して、近代市民社会における音楽文化をみていく。前半は、市民階級の女の子の教養のひとつとされたピアノに焦点を当てて、19世紀の女子教育を社会文化的視点からみていく。一方、後半は、生涯、職業音楽家として活躍したクララ・ヴィーク＝シューマンと父フリードリヒ・ヴィークのピアノ教育論を取り上げる。相反する立場から女子教育論をみていくことで、19世紀ドイツ市民社会における音楽文化の多様性を考えていく。授業で扱うテキストは主に、書簡・日記・批評・新聞といった一次文献を扱う。訳語がないものにおいては、ドイツ語の原文を読む。

### 到達目標

・近代市民社会の時代背景を理解し、教養としてのピアノ文化をめぐる女子教育論を考察し、19世紀ドイツにおける音楽文化について考える力を身につける。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入(教養とは何か)
第2回	音楽の大衆化と演奏会
第3回	市民社会と音楽(1) 教養としてのピアノ文化
第4回	市民社会と音楽(2) 家庭音楽
第5回	市民社会と音楽(3) 女子教育論
第6回	市民社会と音楽(4) ピアノ教本と演奏美学
第7回	市民社会と音楽(5) 音楽学校の成立
第8回	ロベルト・シューマンの音楽評論
第9回	クララ・ヴィーク＝シューマンの場合(1) 父フリードリヒ・ヴィークとの関係性
第10回	クララ・ヴィーク＝シューマンの場合(2) 父フリードリヒ・ヴィークによる教育
第11回	クララ・ヴィーク＝シューマンの場合(3) レパートリーと演奏活動
第12回	クララ・ヴィーク＝シューマンの場合(4) 教育者としての活動
第13回	総括

### 授業方法

・対面による演習形式の授業です。  
・各テーマに関する共通テキストを読み、関連文献も参考にしながらグループ内で自分の考察を発表した上で議論し、最後に全体でディスカッションを行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回、共通テキストを配布します。与えられた課題にそってテキストを読み、重要事項をまとめ、グループで発表できるように準備しておくこと。(90分)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

- ・授業の準備を課題によって十分に行っていること。
- ・グループワークに積極的に参加していること。
- ・授業全体の趣旨を理解した上で、レポート作成上のルールに従ってレポートを書いていること。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・各回の課題は、授業時のグループワークの際に確認します。
- ・学期末レポートはコメントを付して返却します。

### 教科書コメント

授業で扱うテキストは、著作権を遵守した上で配布します。

### 参考文献コメント

参考文献は授業中に適宜指示します。

### 履修上の注意

第1回目の授業に出席すること。

### その他

授業に欠席する場合には、事前にメールで連絡をすること。

講義コード	U350301104	科目ナンバリング	035B321	単位	2
講義名	文学・文化コース 専門演習(4)				
副題	「記憶の場」としての音楽				
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies				
担当者名	杉山 真佑美				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 月曜日 1時限 西5-301				

### 授業概要

フリードリヒ・フォン・シラーの「歓喜に寄す」を用いた、ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェンの《交響曲第9番》(以下、《第九》)は、1824年のウィーンでの初演以来、様々な歴史的場面で演奏されてきた。日本でも年末の風物詩となるほど、今や西洋クラシック音楽の文化的象徴としてのイメージがある《第九》だが、ナチ政権下においては、1936年のベルリン・オリンピックの開会式や、アドルフ・ヒトラーの誕生祝賀会で演奏されるなど、政治的な道具として用いられていた時代がある。また、戦後、ベルリンの壁崩壊時にはドイツ統合の象徴として演奏されただけでなく、欧州連合の賛歌にも取り入れられ、ヨーロッパ統合の象徴としての機能をも果たしている。

授業では、19世紀から20世紀における《第九》とドイツ・ドイツ人のアイデンティティ意識の形成との関連性に着目しながら文献を読んでいく。「記憶の場」として人々の中に刻まれている《第九》の歴史的表象の変遷をたどることで、ドイツの音楽文化についての考えを深める。

### 到達目標

・19世紀から20世紀における、ベートーヴェンの《第九》を巡る文化的・社会的背景を理解し、歴史的表象の変遷を考察することで、現代にもつながる「記憶の場」としての音楽文化について考える力を身につける。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入(《第九》の歴史的表象)
第2回	芸術作品としての《第九》とルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン
第3回	フリードリヒ・フォン・シラー「歓喜に寄す」とベートーヴェン《第九》
第4回	リヒャルト・ヴァーグナーとベートーヴェン《第九》
第5回	リヒャルト・ヴァーグナーのベートーヴェン論(1)「ベートーヴェン詣で」
第6回	リヒャルト・ヴァーグナーのベートーヴェン論(2)『未来の芸術作品』
第7回	ウィーン分離派とベートーヴェン
第8回	グスタフ・クリムト《ベートーヴェン・フリーズ》とベートーヴェン《第九》
第9回	ナショナリズムと音楽(1) 第三帝国とベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
第10回	ナショナリズムと音楽(2) アドルフ・ヒトラーと《第九》
第11回	ナショナリズムと音楽(3) 戦後ドイツと《第九》
第12回	日本における《第九》の受容
第13回	総括

### 授業方法

・対面による演習形式の授業です。  
・各テーマに関する共通テキストを読み、関連文献も参考にしながらグループ内で自分の考察を発表した上で議論し、最後に全体でディスカッションを行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回、共通テキストを配布します。与えられた課題にそってテキストを読み、重要事項をまとめ、グループで発表できるように準備しておくこと。(90分)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

- ・授業の準備を課題によって十分に行っていること。
- ・グループワークに積極的に参加していること。
- ・授業全体の趣旨を理解した上で、レポート作成上のルールに従ってレポートを書いていること。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・各回の課題については、授業内でのグループワークの際に確認します。
- ・学期末レポートはコメントを付して返却します。

### 教科書コメント

授業で扱うテキストは、著作権を遵守した上で配布します。

### 参考文献コメント

参考文献は授業中に適宜指示します。

### 履修上の注意

第1回目の授業に出席すること。

### その他

授業に欠席する場合には、事前にメールで連絡をすること。

講義コード	U350301105	科目ナンバリング	035B321	単位	2
講義名	文学・文化コース 専門演習(5)				
副題	近現代ドイツ文学におけるギリシア神話の受容(アンティゴネー編)				
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies				
担当者名	金 志成				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 火曜日 3時限 西2-504				

### 授業概要

本演習では、近現代ドイツ文学におけるギリシア神話の受容、とりわけギリシア悲劇のヒロインの表象の系譜を辿ります。古典的な戯曲・抒情詩の朗読・分析、ドイツ語テキストの訳読、映像作品の分析などを通じて、「戦争と文学」「古典の受容」「国家と文学」「ジェンダーと文学」などの問題を考えてゆきます。第1学期ではオイディプスの娘アンティゴネーに焦点を当てます。

### 到達目標

ヨーロッパの古典文学について基礎的な知識を身につけた上で、系譜的・間テクスト的な視点から近現代ドイツ文学のテキストを読解し、論述・議論する能力を身につける。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	ソポクレス『アンティゴネー』(1)
第3回	ソポクレス『アンティゴネー』(2)
第4回	G. W. F. Hegel: Vorlesungen über die Ästhetik
第5回	J. P. Eckermann: Gespräche mit Goethe
第6回	Bertolt Brecht: Die Antigone des Sophokles
第7回	Bertolt Brecht: Die Antigone des Sophokles
第8回	ストローブ＝ユイレ『アンティゴネー』
第9回	アレクサンダー・クルーゲほか『秋のドイツ』
第10回	ジュディス・バトラー『アンティゴネーの主張』
第11回	Elfriede Jelinek: Epilog?
第12回	Elfriede Jelinek: Epilog?
第13回	まとめ

### 授業方法

対面による演習

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

ドイツ語文献訳読のための予習(毎週120分程度)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	70 %	
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポート提出後にメールで行います。

### 履修上の注意

- ・毎回必ず独和辞典を持参して参加すること(紙辞書・電子辞書のみ。アプリは不可)
- ・訳読の予習は授業内で指示したとおりに行うこと
- ・毎週劇の朗読や作品解釈についての議論を行うので、積極的な授業参加を求めます



講義コード	U350301106	科目ナンバリング	035B321	単位	2
講義名	文学・文化コース 専門演習(6)				
副題	近現代ドイツ文学におけるギリシア神話の受容(カッサンドラー編)				
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies				
担当者名	金 志成				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 火曜日 3時限 西2-504				

### 授業概要

本演習では、近現代ドイツ文学におけるギリシア神話の受容、とりわけギリシア悲劇のヒロインの表象の系譜を辿ります。古典的な戯曲・抒情詩の朗読・分析、ドイツ語テキストの訳読、映像作品の分析などを通じて、「戦争と文学」「古典の受容」「国家と文学」「ジェンダーと文学」などの問題を考えてゆきます。第1学期ではトロイアの女王カッサンドラーに焦点を当てます。

### 到達目標

ヨーロッパの古典文学について基礎的な知識を身につけた上で、系譜的・間テクスト的な視点から近現代ドイツ文学のテキストを読解し、論述・議論する能力を身につける。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	トロイア戦争についての概要(1)
第3回	トロイア戦争についての概要(2)
第4回	アイスキュロス『アガメムノン』
第5回	エウリピデス『トロイアの女』
第6回	Friedrich Schiller: Cassandra
第7回	Marie Luise Kaschnitz: Der Tag X
第8回	Ingeborg Bachmann: Die gestundete Zeit
第9回	Christa Wolf: Voraussetzung einer Erzählung
第10回	Christa Wolf: Cassandra
第11回	Christa Wolf: Cassandra
第12回	Hans Erich Nossack: Cassandra
第13回	まとめ

### 授業方法

対面による演習

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

ドイツ語文献訳読のための予習(毎週120分程度)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	70 %	
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポート提出後にメールで行います。

### 履修上の注意

- ・毎回必ず独和辞典を持参して参加すること(紙辞書・電子辞書のみ。アプリは不可)
- ・訳読の予習は授業内で指示したとおりに行うこと(AI・機械翻訳などの使用厳禁)
- ・毎週劇の朗読や作品解釈についての議論を行うので、積極的な授業参加を求めます

講義コード	U3503011Z1	科目ナンバリング	035B321	単位	2
講義名	◇文学・文化コース 専門演習				
副題	ヴァイマル共和国時代の小説を読む				
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies				
担当者名	田丸 理砂				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 火曜日 1時限 南1-306				

### 授業概要

ヴァイマル共和国時代にはMädchenを主人公とした数々の文学作品が書かれています。本授業ではマリールイーゼ・フライサーの作品を取り上げ精読し、フライサー作品におけるMädchen像について考えていきます。

### 到達目標

ジェンダーの視点から文学作品を捉える手法を身につけ、その方法を具体的に作品分析に応用することができるようになることを目標とします。なお大学院生はより高度な学修と成果が求められます。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	文献講読(1)
第3回	文献講読(2)
第4回	文献講読(3)
第5回	文献講読(4)
第6回	文献講読(5)
第7回	文献講読(6)
第8回	文献講読(7)
第9回	文献講読(8)
第10回	文献講読(9)
第11回	文献講読(10)
第12回	文献講読(11)
第13回	文献講読(12)／まとめ

### 授業計画コメント

大学院生の研究テーマによっては取り上げるテキストが変更する可能性があります。授業では精読を行います。必ず準備して授業に臨んでください。

### 授業方法

対面による演習方式で行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

あらかじめ指定した範囲のテキストの予習(課題も含む)。およそ2時間の予習を求めます。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	毎回課題を出します。

### 成績評価コメント

授業への出席態度及び課題提出、特に積極性を重視します。学部学生と大学院学生とは異なる基準により評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回指定するテキストの範囲については、授業内でコメントを行います。

### 教科書コメント

著作権を遵守した上で、コピーで配布します。

### 参考文献コメント

授業中に指示します。

### 履修上の注意

- ・大学院生の研究テーマによっては、講読テキストが変更する可能性もあります。履修を希望する学生は、初回の授業に必ず出席してください。
- ・欠席する場合には、事前に連絡をしてください。

講義コード	U3503011Z2	科目ナンバリング	035B321	単位	2
講義名	◇文学・文化コース 専門演習				
副題	「モノ」に関するエッセイを読む				
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies				
担当者名	田丸 理砂				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 火曜日 1時限 南1-306				

### 授業概要

さまざまな「モノ」の歴史について、ジェンダーの視点から考察したエッセイを読みます。

### 到達目標

日常的になじみの「モノ」について、ジェンダーの視点からとらえ直すことによって、これまでとは異なる見方を習得し、それを敷衍して思考する力をつけることを目指します。  
なお大学院生はより高度な学修と成果が求められます。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	文献講読(1)
第3回	文献講読(2)
第4回	文献講読(3)
第5回	文献講読(4)
第6回	文献講読(5)
第7回	文献講読(5)
第8回	文献講読(7)
第9回	文献講読(8)
第10回	文献講読(9)
第11回	文献講読(10)
第12回	文献講読(11)
第13回	文献講読(12)／まとめ

### 授業計画コメント

大学院生の研究テーマによっては取り上げるテキストが変更する可能性があります。授業では精読を行います。必ず準備して授業に臨んでください。

### 授業方法

対面による演習方式で行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

あらかじめ指定した範囲のテキストの予習(要約も含む)。およそ2時間の予習を求めます。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	毎回課題を出します。

### 成績評価コメント

授業への出席態度および課題提出、特に積極性を重視します。  
学部学生と大学院学生とは異なる基準により評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回指定するテキストの範囲については、授業内でコメントを行います。

### 教科書コメント

著作権を遵守した上で、コピーで配布します。

### 参考文献コメント

授業中に指示をします。

### 履修上の注意

- ・大学院生の研究テーマによっては扱うテキストが変更する場合もあるので、初回の授業には必ず出席してください。
- ・欠席する場合は、事前に連絡をしてください。

講義コード	U3503011Z3	科目ナンバリング	035B321	単位	2
講義名	◇文学・文化コース 専門演習				
副題	Fontanes Roman Effi Briest				
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies				
担当者名	PEKAR, Thomas				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 火曜日 3時限 北1-405				

### 授業概要

Theodor Fontanes Roman vom Ende des 19. Jahrhunderts über ein junges Mädchen, Effi Briest, die in eine unglückliche Ehe gezwungen wird, einen Geliebten findet und deshalb von ihrem Mann und ihrer Familie verstoßen wird, gilt als Höhepunkt des realistischen Romans. Man erfährt in diesem Roman nicht nur viel über Effis unglückliches Leben, sondern auch über die deutsche Gesellschaft der damaligen Zeit. Fontane gehört zu den Klassikern der deutschen Literatur, der in seinen Roman schon Formen des modernen Erzählens andeutet.

### 到達目標

Die Studierenden lernen eine wichtige Epoche der deutschen Literaturgeschichte (Realismus) anhand eines beispielhaften Vertreters dieser Zeit kennen. Sie werden methodisch an die Lektüre und Analyse eines umfangreiches Werkes herangeführt, welches in Auszügen gelesen wird. Sie erfahren weiter Grundlegendes über die Gründerzeit in Deutschland und erarbeiten sich ein erstes Verständnis von dem, was unter modernem Erzählen verstanden wird.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung: Fontane und seine Zeit
第2回	Kapitel 1: Das Matrosenkleid
第3回	Fortsetzung Kapitel 1
第4回	Kapitel 2: Einkaufen in Berlin
第5回	Fortsetzung Kapitel 2
第6回	Kapitel 3: Auf Hochzeitsreise
第7回	Fortsetzung Kapitel 3
第8回	Kapitel 4: Fahrt nach Kessin
第9回	Fortsetzung Kapitel 4
第10回	Kapitel 5: Effis neues Domizil
第11回	Fortsetzung Kapitel 5
第12回	Kapitel 6: Der erste Morgen
第13回	Fortsetzung Kapitel 6; Abschlussdiskussion

### 授業方法

Hören des Textes; gemeinsame Textlektüre, Gruppendiskussion, Einzelvorträge (Referate)

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

Lektüre der Texte zu Hause; Vorbereitung der Seminarpräsentation

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

Die Teilnehmer:innen sollen einen Vortrag (eine Präsentation) halten (ca. 15 Minuten), regelmäßig zum Unterricht kommen und sich an den Diskussionen im Unterricht beteiligen.  
Studierende im Masterstudiengang und Studierende im Doktoratsstudiengang werden nach unterschiedlichen Kriterien bewertet.

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter/Professor bespricht die Vorträge intensiv mit den Studierenden vor und nach der Präsentation. Über andere Fragen des Seminars (z.B. Verständnisprobleme etc.) kann jederzeit mit dem Seminarleiter gesprochen werden, z.B. nach dem Unterricht oder in den Sprechstunden.

#### 教科書コメント

Alle Texte werden als Kopien ausgegeben.

#### 参考文献コメント

Alle Texte werden als Kopien ausgegeben.

講義コード	U3503011Z4	科目ナンバリング	035B321	単位	2
講義名	◇文学・文化コース 専門演習				
副題	Fontanes Roman Effi Briest				
英文科目名	Advanced Seminar: in Literature and Cultural Studies				
担当者名	PEKAR, Thomas				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 火曜日 3時限 北1-405				

### 授業概要

Theodor Fontanes Roman vom Ende des 19. Jahrhunderts über ein junges Mädchen, Effi Briest, die in eine unglückliche Ehe gezwungen wird, einen Geliebten findet und deshalb von ihrem Mann und ihrer Familie verstoßen wird, gilt als Höhepunkt des realistischen Romans. Man erfährt in diesem Roman nicht nur viel über Effis unglückliches Leben, sondern auch über die deutsche Gesellschaft der damaligen Zeit. Fontane gehört zu den Klassikern der deutschen Literatur, der in seinen Roman schon Formen des modernen Erzählens andeutet.

### 到達目標

Die Studierenden lernen eine wichtige Epoche der deutschen Literaturgeschichte (Realismus) anhand eines beispielhaften Vertreters dieser Zeit kennen. Sie werden methodisch an die Lektüre und Analyse eines umfangreiches Werkes herangeführt, welches in Auszügen gelesen wird. Sie erfahren weiter Grundlegendes über die Gründerzeit in Deutschland und erarbeiten sich ein erstes Verständnis von dem, was unter modernem Erzählen verstanden wird.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Wiederholung; Kapitel 7: Führung durch das Haus
第2回	Fortsetzung Kapitel 7
第3回	Kapitel 8: Besuch von Gieshübler
第4回	Fortsetzung Kapitel 8
第5回	Kapitel 9: Einführung in die Gesellschaft
第6回	Fortsetzung Kapitel 9
第7回	Kapitel 10: Ein Abend allein
第8回	Fortsetzung Kapitel 10
第9回	Kapitel 11: Schlittenfahrt
第10回	Fortsetzung Kapitel 11
第11回	Kapitel 12: Brief an die Mutter
第12回	Fortsetzung Kapitel 12
第13回	Zusammenfassung des restlichen Romans; Abschlussdiskussion

### 授業方法

Hören des Textes; gemeinsame Textlektüre, Gruppendiskussion, Einzelvorträge (Referate)

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

Lektüre der Texte zu Hause; Vorbereitung der Seminarpräsentation

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

Die Teilnehmer:innen sollen einen Vortrag (eine Präsentation) halten (ca. 15 Minuten), regelmäßig zum Unterricht kommen und sich an den Diskussionen im Unterricht beteiligen.  
Studierende im Masterstudiengang und Studierende im Doktoratsstudiengang werden nach unterschiedlichen Kriterien bewertet.

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック



Der Seminarleiter/Professor bespricht die Vorträge intensiv mit den Studierenden vor und nach der Präsentation. Über andere Fragen des Seminars (z.B. Verständnisprobleme etc.) kann jederzeit mit dem Seminarleiter gesprochen werden, z.B. nach dem Unterricht oder in den Sprechstunden.

#### 教科書コメント

Alle Texte werden als Kopien ausgegeben.

#### 参考文献コメント

Alle Texte werden als Kopien ausgegeben.

講義コード	U350302101	科目ナンバリング	035B331	単位	2
講義名	現代地域事情コース 専門演習(1)				
副題	日独比較男女平等立法(1)				
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies				
担当者名	泉 眞樹子				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 木曜日 4時限 中央-402				

### 授業概要

第二次世界大戦後、日本とドイツ連邦共和国(当時の西ドイツ)は、新たに制定された憲法に男女平等を明記したものの、男性や父親を優位に置き、女性の経済的・社会的な活動を抑制する傾向が、両国とも長く続きました。しかし、このような風潮と戦い、抗う女性運動や国際社会の動きに沿って、男女平等のための政策と法整備が、一步一步進められてきました。この授業では、70年余のドイツ連邦共和国の男女平等立法の歴史とその立法過程、平等理念やその実現に向けた歴史を学び、併せて、連邦議会や連邦省の議会資料・行政資料・統計等、インターネット公開資料の具体的な調べ方を習得します。

### 到達目標

- ・平等について考えるための知識と視座の獲得
- ・ドイツ法の立法過程に関する知識、議会資料・行政資料を調べるスキルの獲得

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(男女平等の歴史概観、インターネット情報検索)
第2回	ドイツ連邦議会制度と連邦法の立法過程
第3回	1949年基本法(憲法)と民法改正(1957年男女同権法、1976年第1次婚姻家族法改革法)
第4回	墮胎罪(刑法典第218条)と妊娠中絶自由化運動(女性の自己決定権)
第5回	1979年国連「女子差別撤廃条約」と1980年代年職場における男女平等法制
第6回	1990年東西ドイツ統一条約と1994年基本法改正(「結果の平等」と「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(SRHR)」)
第7回	1994年第2次同権法と2001年連邦平等法
第8回	民法典家族法の変遷(婚姻と家族、夫婦別姓と親配慮)
第9回	東西統一後の家族政策(シュレーダー政権とメルケル政権)
第10回	2006年EU平等待遇指針実施法(EU法とドイツ法の関係)と民間企業の男女平等政策
第11回	女性クォータ法(2015年指導的地位法、2021年第2次指導的地位法)と2017年賃金透明法
第12回	政治における男女平等(議員クォータ制)
第13回	課題報告とグループ・ディスカッション

### 授業計画コメント

専門演習(1)、(2)を合わせて受講すること

### 授業方法

演習

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

法律の議会資料(法案提出～制定まで)を確認し、書式に沿って概要をまとめる。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	課題提出

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題について、授業で説明します。

### 教科書

ドイツ法入門:外国法入門双書,村上淳一,守矢健一, ハンス・ペーター・マルチュケ,有斐閣,改訂9,2018,9784641048225

ドイツ憲法集,高田敏・初宿正典,信山社出版,8,2020,9784797223705

#### **参考文献**

ドイツの憲法判例 IV: ,ドイツ憲法判例研究会,信山社出版,2018 ,9784797233506

#### **履修上の注意**

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず参加すること。現代地域事情コース 専門演習(1)、(2)を合わせて受講すること。インターネット情報を検索できる機器を持参してください。

講義コード	U350302102	科目ナンバリング	035B331	単位	2
講義名	現代地域事情コース 専門演習(2)				
副題	日独比較男女平等立法(2)				
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies				
担当者名	泉 眞樹子				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 木曜日 4時限 中央-402				

### 授業概要

ドイツと日本の両国は、家を守り、子どもを育てることを女性の本務とする母性信仰が強く、女性の社会活動・経済活動が抑制されてきました。両国とも、それが少子化の一因であるとも指摘されてきましたが、ある側面では日本が先を行き、ある側面ではドイツが急激に改革を進めています。ジェンダー・ギャップに関連して、日本の男女平等に関する法律とその制定過程を理解するとともに、同様のドイツの法律や制度と比較し、日本とドイツの相違点と変化を、両国の議会資料・行政資料に即して学びます。

### 到達目標

- ・男女平等立法についての日独比較(歴史、統計)
- ・日本の議会資料・行政資料を調べるスキルの獲得

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(ジェンダー・ギャップ指数、男女平等の歴史概観、国会と立法制度)
第2回	男女平等と日本国憲法制定、民法・戸籍法改正(イエから個人の尊重へ)
第3回	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)(1948年優生保護法と家族計画・人口問題)
第4回	女性労働と母性保護・家族責任(1965年ILO第123号勧告と1972年勤労婦人福祉法)
第5回	1979年国連「女子差別撤廃条約」と1984年国籍法改正、1985年男女雇用機会均等法
第6回	女性労働と少子化社会(1991年育児休業法、2012年子ども・子育て支援法、ドイツの育児休業制度と保育制度)
第7回	高齢化社会とケアワーク(1995年育児介護休業法、1997年介護保険法「介護の社会化」、ドイツ:1994年介護保険法 2008年介護時間法・2011年家族介護時間法)
第8回	税制における男女平等(男性稼ぎ主型の保護＝女性労働の障害? 2024年衆議院選挙「103万円の壁」)
第9回	社会保障(年金制度)における男女平等(男性稼ぎ主型の保護? 第3号被保険者制度、遺族年金)
第10回	社会をリードする女性(1999年男女共同参画社会基本法、2015年女性活躍推進法、2018年政治分野における男女共同参画の推進に関する法律 ドイツ:2015年指導的地位法、2021年第2次指導的地位法)
第11回	暴力に曝される女性(ストーカー行為、ドメスティック・バイオレンス、性犯罪)(2000年ストーカー規制法、2001年配偶者暴力防止法、2022年困難な問題を抱える女性への支援に関する法律、2022年AV出演被害防止・救済法、2023年刑法等改正法etc. ドイツ:2001年暴力保護法、2007年つきまとい処罰法)
第12回	教育とジェンダー・ギャップ(高等教育進学率、STEM系進学、教員数とロールモデルの不在、リカレント教育・企業内研修) & LGBTQ・DEI
第13回	課題報告とグループ・ディスカッション

### 授業方法

講義

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

各テーマに関する参考資料や重要なキーワードを調べる。テーマに関する自分の意見・感想を言語化する。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	課題提出

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題については、授業で説明します。

## 参考文献

女性のいない民主主義:岩波新書,前田健太郎,岩波書店,2019

ジェンダー格差—実証経済学は何を語るか:中公新書,牧野百恵,中央公論新社,2023

なぜ東大は男だらけなのか:集英社新書,矢口祐人,集英社,2024

フェミニズムってなんですか?:文春新書,清水晶子,文藝春秋,2022

新書版 性差(ジェンダー)の日本史:インターナショナル新書,国立歴史民俗博物館監修、「性差の日本史」展示プロジェクト編,集英社インターナショナル,2021

## 参考文献コメント

参考文献はレポート課題図書候補の一部です。他の文献については、授業で説明します。

## 履修上の注意

第1回目の授業に必ず参加すること。

インターネット情報を検索できる機器を持参してください。

講義コード	U350302104	科目ナンバリング	035B331	単位	2
講義名	現代地域事情コース 専門演習(4)				
副題	基礎的なドイツ語文献を用いた東西ドイツ史研究への橋渡し				
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies				
担当者名	柳原 伸洋				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 木曜日 2時限 西1-304				

### 授業概要

本演習では、「ドイツ連邦政治教育センター(Bundeszentrale für politische Bildung)」などのドイツ語サイトに掲載されているドイツ現代史の基礎的な記事を講読する。戦後ドイツ史、つまり東西ドイツ史について、参加者が自分の関心からテーマを決め、日本語文献を押さえつつドイツ語文献と照応させる。それによって、ドイツ現代史研究の基礎と最前線との両方を押さえることを目指す。これらを、履修者の卒業論文・研究のために活かすことを目指す。同時に戦後ドイツ史やドイツ語読解を多角的に知ることで、現代ドイツの状況を理解し、卒業後にも活かせるスキルを身につけてもらう。

### 到達目標

・ドイツ語説明文・論文の基礎的な読解能力の習得と、ドイツ現代史についての基礎的な研究視座の獲得。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス:演習の進め方とドイツ現代史研究の諸領域の説明
第2回	東西ドイツ史研究のための基本レクチャーおよび報告記事の相談(1)
第3回	東西ドイツ史研究のための基本レクチャーおよび報告記事の相談(2)
第4回	戦後ドイツ史のテーマ報告:およそ1945年から1950年代にかけて
第5回	戦後ドイツ史のテーマ報告:およそ1950年代の東ドイツの民衆蜂起など
第6回	戦後ドイツ史のテーマ報告:およそ1950年代の西ドイツと消費社会など
第7回	ここまでの総括と演習参加者の得た知見の確認
第8回	戦後ドイツ史のテーマ報告:およそ1960年代の東方外交とウルブリヒト体制の終焉など
第9回	戦後ドイツ史のテーマ報告:およそ1960年代の学生運動とテロリズムなど
第10回	戦後ドイツ史のテーマ報告:1970年代の東西ドイツ(ホーネッカー体制とシュミット体制)など
第11回	戦後ドイツ史のテーマ報告:およそ1980年代からベルリンの壁開放へ
第12回	戦後ドイツ史のテーマ報告:統一後の状況
第13回	全体的な総括と演習参加者の得た知見の確認

### 授業計画コメント

・参加者の関心によって、何を中心的なテーマとするかは変化する。

### 授業方法

・演習形式で参加者同士の対話を重視する。  
・複数人が同一テーマに関心がある場合には、共同で作業・報告をしてもらう。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

・日本語参考文献の基礎的な渉猟(図書館の蔵書状況および論文検索)  
・ドイツ語記事の検索と、ドイツ語翻訳(全文ではなく一部)  
(Bundeszentrale für politische Bildungのサイト: <https://www.bpb.de/themen/geschichte/>)を確認しておく。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	演習内のレジュメや論点の提出など
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	70 %	
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

・報告者への研究上のアドバイスをコメント  
・ドイツ語読解の確認

## 教科書コメント

・原則、連邦政治教育センターのサイトを利用する。

## 参考文献

教養のドイツ現代史, 田野大輔・柳原伸洋, ミネルヴァ書房, 2016, 9784623072705

これならわかるドイツ語文法 入門から上級まで, 鷺巣 由美子, NHK出版, 2016, 414035139X

超約 ドイツの歴史, ジェームズ・ホーズ (柳原伸洋ほか訳), 東京書籍, 2024, 4487816971

二つのドイツ: 1945-1990, メアリー・フルブルック, 岩波書店, 2009, 4000272071

## 参考文献コメント

「1」はドイツ現代史研究の基礎テーマが網羅されている。

「2」はドイツ語読解上で必要な文法知識を過不足なく、かつ簡明に説明されている。

「3」は2024年に出した翻訳書。戦後の東西ドイツについて刺激的なテーゼが開陳されているが、それはあくまで参考程度に。

「4」は戦後東西ドイツ史の基礎文献。これを底本として演習を進めていく予定。

## その他

連絡方法は、LMSおよびメールを用いる。

講義コード	U350302105	科目ナンバリング	035B331	単位	2
講義名	現代地域事情コース 専門演習(5)				
副題	地域環境問題				
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies				
担当者名	岡村 りら				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 月曜日 5時限 西2-205				

### 授業概要

環境問題は多角的かつ複合的です。人間が生活している所には必ず「環境問題」が存在し、人々のライフスタイルの違いによって環境に及ぼされる影響は変わってきます。したがって「比較環境問題」＝「比較文化」ということも出来ます。海外では「環境」が重要課題の一つとなっており、若い世代の共通テーマともなっています。「環境」は私たちの生活と密接にかかわりあっています。そして経済、産業、外交など様々な分野へとつながっていきます。

前期は地域環境問題、特に廃棄物問題に焦点をあてます。

「ごみ」というテーマだけで、衣(ファストファッション)食(食品ロス)住(分別/リサイクル)、プラスチック海洋汚染の観光・漁業への影響、リサイクル技術のビジネスチャンス、リユースシステムの構築とコミュニティの形成など様々な分野へ繋がってきます。ゴミ問題を通じて日独の歴史、社会や文化を理解します。

学期前半はレクチャーとディスカッションを中心に行い、学期の後半は、その知識を前提に、受講生はプレゼンテーション(日本語/ドイツ語どちらでも可)を行います。

### 到達目標

「環境」は、私たちの生活に密着したテーマです。「環境」を通じて日独比較考察をすることは、両国の社会・文化比較につながります。ドイツと日本の類似点・相違点を明らかにし、ドイツへの理解を深めると同時に、ドイツを知ることで日本についての理解も深めます。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス:授業の目標、進め方について説明
第2回	環境問題・環境政策の概要
第3回	各主体の役割(緑の党を中心に)
第4回	廃棄物・リサイクル(概説)
第5回	廃棄物・リサイクル(プラスチックごみ、DSD)
第6回	廃棄物・リサイクル(デポジット)
第7回	放射性廃棄物(原子力発電を廃棄物問題の側から考える)
第8回	高レベル放射性廃棄物の最終処分場問題
第9回	食と環境(食品ロス)
第10回	食と環境(有機農業とエコマーク)
第11回	理解度テスト/グループ/個人発表
第12回	グループ/個人発表
第13回	グループ/個人発表

### 授業計画コメント

履修者の人数により、発表の形態(グループ/個人)や回数に変更が生じる場合があります。

### 授業方法

1～10回までは、授業の前半は教員によるレクチャー、授業の後半はレクチャーの内容に関してディスカッションを行います。学期の後半は履修者が前期授業の内容に関するテーマを選び発表をします。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

次回授業の予備知識を得るために、教員の指示に従って情報収集等行ってください。

授業で学んだ知識を深めるために、各自授業後に資料収集、文献の読み込み等、学期後半の発表に備えて調査を行ってください。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		



## 中間テスト

レポート		
小テスト	40 %	
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	

### 成績評価コメント

発表、小テスト、平常点で総合的に判断します。履修者の人数により評価方法に多少変更が生じる場合があります。変更がある場合には授業内で必ずお知らせします。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎授業の最後に行うディスカッション内容、学期後半の発表に関しては、授業でコメントをします。  
適宜、次回授業で補足の説明も行います。

### 教科書コメント

適宜、授業内で指示します。

### 参考文献コメント

適宜、授業内で指示します。

### 履修上の注意

履修者数制限の可能性がります。履修者数により授業形態の変更も考えられますので、第一回目の授業に必ず出席してください。

### その他

前期、後期を合わせて受講することを推奨します。  
連絡先: lilaokamura@senshu-u.jp

講義コード	U350302106	科目ナンバリング	035B331	単位	2
講義名	現代地域事情コース 専門演習(6)				
副題	地球環境問題				
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies				
担当者名	岡村 りら				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 月曜日 5時限 西2-205				

### 授業概要

環境問題は多角的かつ複合的です。人間が生活している所には必ず「環境問題」が存在し、人々のライフスタイルの違いによって環境に及ぼされる影響は変わってきます。したがって「比較環境問題」＝「比較文化」ということも出来ます。海外では「環境」が重要課題の一つとなっており、若い世代の共通テーマともなっています。「環境」は私たちの生活と密接にかかわりあっています。そして経済、産業、外交など様々な分野へとつながっていきます。

後期は地球環境問題を扱います。気候変動問題を中心に置き、その中でも特に資源・エネルギー政策に焦点をあてます。資源とエネルギーは私たちの生活、そして産業活動には欠かせないものです。古代から文明の発展と衰退は資源やエネルギーと大きく関係してきました。生活と密接な関りをもつ資源やエネルギー問題の変遷をたどり、地域や国の歴史、文化を理解します。また現代のエネルギー政策は、環境のみならず外交・産業に係る重要なテーマであり、エネルギー問題を通じて国際関係を読み解きます。

学期前半はレクチャーとディスカッションを中心に行い、学期の後半は、その知識を前提に、受講生はプレゼンテーション(日本語/ドイツ語どちらでも可)を行います。

### 到達目標

「環境」は、私たちの生活に密着したテーマです。「環境」を通じて日独比較考察をすることは、両国の社会・文化比較につながります。ドイツと日本の類似点・相違点を明らかにし、ドイツへの理解を深めると同時に、ドイツを知ることで日本についての理解も深めます。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス:授業の目標、進め方について説明 地球環境問題概説
第2回	グローバル化と環境問題
第3回	国際交渉(京都議定書、パリ協定)
第4回	気候変動とエネルギー政策(化石燃料、原子力)
第5回	気候変動とエネルギー政策(再生可能エネルギー)
第6回	再生可能エネルギーとビジネスチャンス
第7回	気候変動と交通政策
第8回	環境と観光(イベントと環境、エコツーリズム)
第9回	ボトムアップを助けるしくみ(環境教育)
第10回	ボトムアップを助けるしくみ(環境意識、消費者行動)
第11回	理解度テスト/グループ/個人発表
第12回	グループ/個人発表
第13回	グループ/個人発表

### 授業計画コメント

履修者の人数により、発表の形態(グループ/個人)や回数に変更が生じる場合があります。

### 授業方法

1～10回までは、授業の前半は教員によるレクチャー、授業の後半はレクチャーの内容に関してディスカッションを行います。学期の後半は履修者が前期授業の内容に関するテーマを選び発表をします。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

次回授業の予備知識を得るために、教員の指示に従って情報収集等行ってください。

授業で学んだ知識を深めるために、各自授業後に資料収集、文献の読み込み等、学期後半の発表に備えて調査を行ってください。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		

## レポート

小テスト	40 %	
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	

### 成績評価コメント

発表、小テスト、平常点で総合的に判断します。履修者の人数により評価方法に多少変更が生じる場合があります。変更がある場合には授業内で必ずお知らせします。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎授業の最後に行うディスカッション内容、学期後半の発表に関しては、授業でコメントをします。  
適宜、次回授業で補足の説明も行います。

### 教科書コメント

適宜、授業内で指示します。

### 参考文献コメント

適宜、授業内で指示します。

### 履修上の注意

履修者数制限の可能性がります。履修者数により授業形態の変更も考えられますので、第一回目の授業に必ず出席してください。

### その他

前期、後期を合わせて受講することを推奨します。  
連絡先: lilaokamura@senshu-u.jp

講義コード	U350302108	科目ナンバリング	035B331	単位	2
講義名	現代地域事情コース 専門演習(8)				
副題	ヨーロッパのなかのドイツ				
英文科目名	Advanced Seminar in Contemporary Area Studies				
担当者名	小林 和貴子				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 木曜日 1時限 西2-306				

### 授業概要

第二次世界大戦後、ヨーロッパの一員として自らを位置付けてきたドイツ連邦共和国ですが、冷戦後のグローバル化の中でヨーロッパの状況が変わるにつれて、戦後以降の親ヨーロッパ思考も大きな揺らぎを見せるようになってきました。第二次世界大戦後のドイツは、どのような社会を目指して今日までの道のりを歩んできたのでしょうか？ この授業では、松尾秀哉著『ヨーロッパ現代史』(ちくま新書)を手掛かりに、やはりヨーロッパの大国であるイギリス、フランス、ソ連/ロシアと比べながら、ドイツの戦後現代史を辿ります。

### 到達目標

- ・戦後ドイツ史の流れを理解する。
- ・そのような歴史とヨーロッパの各国(とりわけイギリス、フランス、ソ連・ロシア)の状況との関連を理解する。
- ・テキストを分析的かつ批判的に読むことを学び、他の人と議論する経験を積む。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	第1章 戦後和解と冷戦の時代(1945～1950年代) イギリス、フランス
第3回	第1章 戦後和解と冷戦の時代(1945～1950年代) ドイツ、ソ連
第4回	第2章 繁栄から反乱の時代へ(1960年代) イギリス、フランス
第5回	第2章 繁栄から反乱の時代へ(1960年代) ドイツ、ソ連
第6回	第3章 石油危機と低成長の時代(1970年代) イギリス、フランス
第7回	第3章 石油危機と低成長の時代(1970年代) ドイツ、ソ連
第8回	第4章 新自由主義の時代(1980年代) イギリス、フランス
第9回	第4章 新自由主義の時代(1980年代) ドイツ、ソ連
第10回	第5章 冷戦後の世界(1990年代) イギリス、フランス
第11回	第5章 冷戦後の世界(1990年代) ドイツ、ロシア
第12回	第6章 グローバル化の時代(2000年代) イギリス、フランス、ドイツ、ロシア
第13回	第7章 現代のヨーロッパ(2010年代)

### 授業計画コメント

- ・一人1回、共通テキスト(日本語文献)を要約する形の発表(5～10分程度)をお願いする予定です。
- ・毎回、事前課題があります(共通テキストの内容を要約する)。

### 授業方法

対面で授業を行います。グループワーク主体の授業です。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

- ・共通テキストに事前に目を通し、要約する(60分)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	
その他(備考欄を参照)	20 %	口頭発表

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートはコメントを付けて返却します。

## 教科書

ヨーロッパ現代史,松尾秀哉,筑摩書房,2019,789-4-480-07222-1 C0222

## 教科書コメント

・第二回目の授業までに購入しておいてください。

講義コード	U350303101	科目ナンバリング	035B501	単位	2
講義名	通訳・翻訳者養成演習(基礎)(1)				
副題	Deutsch kommunikativ				
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Basic Class)				
担当者名	BEIER-TAGUCHI Diana				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第1学期 火曜日 2時限 南1-106				

### 授業概要

Im Mittelpunkt des Kurses stehen die Themen "Bildung", "Engagement - Ehrenamt - Vereine" und "Auswanderung und Leben im Ausland". Es wird geübt, sich zu diesen Themen/Themenschwerpunkten mündlich und schriftlich auszudrücken.

### 到達目標

Geübt wird der mündliche und schriftliche Ausdruck. Außerdem werden Texte gehört und gelesen. Nach Möglichkeit werden Vergleiche zwischen Japan und den deutschsprachigen Ländern gezogen. Weiterhin geht es darum zu lernen, wie man Lücken in einer Fremdsprache schließt.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung Themenkreis "Bildung (erleben)"
第2回	Fortführung Themenkreis "Bildung (erleben)"
第3回	Fortführung Themenkreis "Bildung (erleben)"
第4回	Fortführung Themenkreis "Bildung (erleben)"
第5回	Einführung Themenkreis "Miteinander - Füreinander"
第6回	Fortführung Themenkreis "Miteinander - Füreinander"
第7回	Einführung Themenkreis "Miteinander - Füreinander"
第8回	Fortführung Themenkreis "Miteinander - Füreinander"
第9回	Einführung Themenkreis "Hin und weg!"
第10回	Fortführung Themenkreis "Hin und weg!"
第11回	Einführung Themenkreis "Hin und weg!"
第12回	Fortführung Themenkreis "Hin und weg!"
第13回	Klausur (Summing up)

### 授業方法

Seminar im Klassenzimmer

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

Vokabeln müssen immer gelernt werden. Hausaufgaben.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	Klausur

### 成績評価コメント

Aktive Teilnahme, Hausaufgaben

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Bei der Rückgabe wird kommentiert.

### 教科書

Das Leben, Kurs- und Übungsbuch B1: Deutsch als Fremdsprache, Christina Kuhn/Herrmann Funk/Rita von Eggeling/Gunther Weilmann, Cornelsen, 2023, 978-3-06-122091-4

### 教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

### 履修上の注意

通訳・翻訳者養成演習(基礎)3とセットで履修すること。

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350303102	科目ナンバリング	035B501	単位	2
講義名	通訳・翻訳者養成演習(基礎)(2)				
副題	Deutsch kommunikativ				
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Basic Class)				
担当者名	BEIER-TAGUCHI Diana				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第2学期 火曜日 2時限 南1-106				

### 授業概要

Im Mittelpunkt des Kurses stehen die Themen "Stadtgeschichte", "Inklusion" und "Erfindungen". Es wird geübt, sich zu diesen Themen/Themenschwerpunkten mündlich und schriftlich auszudrücken.

### 到達目標

Geübt wird der mündliche und schriftliche Ausdruck. Außerdem werden Texte gehört und gelesen. Nach Möglichkeit werden Vergleiche zwischen Japan und den deutschsprachigen Ländern gezogen. Weiterhin geht es darum zu lernen, wie man Lücken in einer Fremdsprache schließt.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung Themenkreis "Worte und Orte"
第2回	Fortführung Themenkreis "Worte und Orte"
第3回	Fortführung Themenkreis "Worte und Orte"
第4回	Fortführung Themenkreis "Worte und Orte"
第5回	Einführung Themenkreis "Geht nicht? Gibt's nicht!"
第6回	Fortführung Themenkreis "Geht nicht? Gibt's nicht!"
第7回	Einführung Themenkreis "Geht nicht? Gibt's nicht!"
第8回	Fortführung Themenkreis "Geht nicht? Gibt's nicht!"
第9回	Einführung Themenkreis "Einfach genial!"
第10回	Fortführung Themenkreis "Einfach genial!"
第11回	Einführung Themenkreis "Einfach genial!"
第12回	Fortführung Themenkreis "Einfach genial!"
第13回	Klausur (Summing up)

### 授業方法

Seminar im Klassenzimmer

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

Vokabeln müssen immer gelernt werden. Hausaufgaben.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	Klausur

### 成績評価コメント

Aktive Teilnahme, Hausaufgaben

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Bei der Rückgabe wird kommentiert.

### 教科書

Das Leben, Kurs- und Übungsbuch B1: Deutsch als Fremdsprache, Christina Kuhn/Herrmann Funk/Rita von Eggeling/Gunther Weilmann, Cornelsen, 2023, 978-3-06-122091-4



### 教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

### 履修上の注意

通訳・翻訳者養成演習(基礎)4とセットで履修すること。

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350303103	科目ナンバリング	035B501	単位	2
講義名	通訳・翻訳者養成演習(基礎)(3)				
副題	Deutsch kommunikativ				
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Basic Class)				
担当者名	IHLOW, Uwe				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第1学期 木曜日 2時限 西1-211				

### 授業概要

Im Mittelpunkt des Kurses stehen die Themen "Theater", "Reise" und "Weihnachten". Es wird geübt, sich zu diesen Themen mündlich und schriftlich auszudrücken. LK-1 Ampelmännchen

### 到達目標

Geübt wird der mündliche und schriftliche Ausdruck. Außerdem werden Texte gehört und gelesen. Nach Möglichkeit werden Vergleiche zwischen Japan und den deutschsprachigen Ländern gezogen. Weiterhin geht es darum zu lernen, wie man Lücken in einer Fremdsprache schließt.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung Themenkreis "Vorhang auf!"
第2回	Fortführung Themenkreis "Vorhang auf!"
第3回	Fortführung Themenkreis "Vorhang auf!"
第4回	Fortführung Themenkreis "Vorhang auf!"
第5回	Einführung Themenkreis "Natur erleben"
第6回	Fortführung Themenkreis "Natur erleben"
第7回	Einführung Themenkreis "Natur erleben"
第8回	Fortführung Themenkreis "Natur erleben"
第9回	Einführung Themenkreis "Weihnachten"
第10回	Fortführung Themenkreis "Weihnachten"
第11回	Einführung Themenkreis "Weihnachten"
第12回	Fortführung Themenkreis "Weihnachten"
第13回	Klausur (Summing up)

### 授業方法

Seminar im Klassenzimmer

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

Vokabeln müssen immer gelernt werden. Hausaufgaben.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	Klausur

### 成績評価コメント

Aktive Teilnahme, Hausaufgaben

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Bei der Rückgabe wird kommentiert.

### 教科書

Das Leben, Kurs- und Übungsbuch B1: Deutsch als Fremdsprache, Christina Kuhn/Herrmann Funk/Rita von Eggeling/Gunther Weilmann, Cornelsen, 2023, 978-3-06-122091-4

### 教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

### 履修上の注意

通訳・翻訳者養成演習(基礎)1とセットで履修すること。

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350303104	科目ナンバリング	035B501	単位	2
講義名	通訳・翻訳者養成演習(基礎)(4)				
副題	Deutsch kommunikativ				
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Basic Class)				
担当者名	IHLOW, Uwe				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第2学期 木曜日 2時限 西1-211				

### 授業概要

Im Mittelpunkt des Kurses stehen die Themen "Beruf", "Kaffee und Café" und "Zukunft". Es wird geübt, sich zu diesen Texten mündlich und schriftlich auszudrücken.

### 到達目標

Geübt wird der mündliche und schriftliche Ausdruck. Außerdem werden Texte gehört und gelesen. Nach Möglichkeit werden Vergleiche zwischen Japan und den deutschsprachigen Ländern gezogen. Weiterhin geht es darum zu lernen, wie man Lücken in einer Fremdsprache schließt.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung Themenkreis "Talente geuscht!"
第2回	Fortführung Themenkreis "Talente geuscht!"
第3回	Fortführung Themenkreis "Talente geuscht!"
第4回	Fortführung Themenkreis "Talente geuscht!"
第5回	Einführung Themenkreis "Wir lieben Kaffee!"
第6回	Fortführung Themenkreis "Wir lieben Kaffee!"
第7回	Einführung Themenkreis "Wir lieben Kaffee!"
第8回	Fortführung Themenkreis "Wir lieben Kaffee!"
第9回	Einführung Themenkreis "Gestern - heute - morgen"
第10回	Fortführung Themenkreis "Gestern - heute - morgen"
第11回	Einführung Themenkreis "Gestern - heute - morgen"
第12回	Fortführung Themenkreis "Gestern - heute - morgen"
第13回	Klausur (Summing up)

### 授業方法

Seminar im Klassenzimmer

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

Vokabeln müssen immer gelernt werden. Hausaufgaben.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	40 %	
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	Klausur

### 成績評価コメント

Aktive Teilnahme, Hausaufgaben

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Bei der Rückgabe wird kommentiert.

### 教科書

Das Leben, Kurs- und Übungsbuch B1: Deutsch als Fremdsprache, Christina Kuhn/Herrmann Funk/Rita von Eggeling/Gunther Weilmann, Cornelsen, 2023, 978-3-06-122091-4

### 教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

### 履修上の注意

通訳・翻訳者養成演習(基礎)2とセットで履修すること。

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350304101	科目ナンバリング	035B502	単位	2
講義名	通訳・翻訳者養成演習(実践)(1)				
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Advanced Class)				
担当者名	WOELBLING, Eva				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第1学期 水曜日 1時限 北1-307				

### 授業概要

この授業はヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の評価基準B1の試験に合格している学生、あるいはそれと同程度のドイツ語力のいる学生を対象とします。通訳・翻訳者養成演習(実践)(3)の授業と連動して週2回の授業で共通のテキストを使用して進めていきますので、できるだけ通訳・翻訳者養成演習(実践)(3)の授業とセットで受講してください。通訳・翻訳者養成演習(実践)(1)では教科書の偶数課を、通訳・翻訳者養成演習(実践)(3)では奇数課を扱います。受講に関する注意事項については、2年生以上対象のガイダンスの際に説明を行いますので、必ずガイダンスに出席し、事前に申し込みを行ってください。

### 到達目標

ヨーロッパ言語共通参照枠(GER)の評価基準B2試験に合格できるドイツ語力の習得を目指します。B2レベルの試験で必要とされるドイツ語力(読解力、文法知識、文章表現力、ヒアリング力の4分野)を、各テーマごとに練習し、各課の最後には理解力のチェックを行います。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Lektion 2 : In der Firma (Lesen)
第2回	Lektion 2 : In der Firma (Grammatik)
第3回	Lektion 2 : In der Firma (Hören)
第4回	Lektion 2 : In der Firma (Schreiben)
第5回	Lektion 4 : Nach der Schule (Lesen)
第6回	Lektion 4 : Nach der Schule (Grammatik)
第7回	Lektion 4 : Nach der Schule (Hören)
第8回	Lektion 4 : Nach der Schule (Schreiben)
第9回	Lektion 6 : Städte erleben (Lesen)
第10回	Lektion 6 : Städte erleben (Grammatik)
第11回	Lektion 6 : Städte erleben (Hören)
第12回	Lektion 6 : Städte erleben (Schreiben)
第13回	Referate zu selbst gewählten Themen und Evaluation

### 授業方法

Seminar im Klassenzimmer

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

毎回の授業で課題を出しますので、それを次回の授業までに必ず準備しておいてください。(1～2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	aktive Teilnahme
その他(備考欄を参照)	50 %	Hausaufgaben

### 成績評価コメント

授業への積極的な参加、課題、および各課の最後の理解度チェック課題により評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題についてはチェックをし、コメントを付記して返却します。

### 教科書

### 教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350304102	科目ナンバリング	035B502	単位	2
講義名	通訳・翻訳者養成演習(実践)(2)				
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Advanced Class)				
担当者名	WOELBLING, Eva				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第2学期 水曜日 1時限 北1-307				

### 授業概要

この授業はヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の評価基準B1の試験に合格している学生、あるいはそれと同程度のドイツ語力のある学生を対象とします。通訳・翻訳者養成演習(実践)(4)の授業と連動して週2回の授業で共通のテキストを使用して進めていきますので、できるだけ通訳・翻訳者養成演習(実践)(4)の授業とセットで受講してください。通訳・翻訳者養成演習(実践)(2)では教科書の偶数課を、通訳・翻訳者養成演習(実践)(4)では奇数課を扱います。受講に関する注意事項については、2年生以上対象のガイダンスの際に説明を行いますので、必ずガイダンスに出席し、事前に申し込みを行ってください。

### 到達目標

ヨーロッパ言語共通参照枠(GER)の評価基準B2試験に合格できるドイツ語力の習得を目指します。B2レベルの試験で必要とされるドイツ語力(読解力、文法知識、文章表現力、ヒアリング力の4分野)を、各テーマごとに練習し、各課の最後には理解力のチェックを行います。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Lektion 8 : Ernährung (Lesen)
第2回	Lektion 8 : Ernährung (Grammatik)
第3回	Lektion 8 : Ernährung (Hören)
第4回	Lektion 8 : Ernährung (Schreiben)
第5回	Lektion 10 : Service (Lesen)
第6回	Lektion 10 : Service (Grammatik)
第7回	Lektion 10 : Service (Hören)
第8回	Lektion 10 : Service (Schreiben)
第9回	Lektion 12 : Sprache und Regionen (Lesen)
第10回	Lektion 12 : Sprache und Regionen (Grammatik)
第11回	Lektion 12 : Sprache und Regionen (Hören)
第12回	Lektion 12 : Sprache und Regionen (Schreiben)
第13回	Referate zu selbst gewählten Themen und Evaluation

### 授業方法

Seminar im Klassenzimmer

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

毎回の授業で課題を出しますので、それを次回の授業までに必ず準備しておいてください。(1～2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	aktive Teilnahme
その他(備考欄を参照)	50 %	Hausaufgaben

### 成績評価コメント

授業への積極的な参加、課題、および各課最後の理解度チェック課題により評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題についてはチェックをし、コメントを付記して返却します。

### 教科書



### 教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350304103	科目ナンバリング	035B502	単位	2
講義名	通訳・翻訳者養成演習(実践)(3)				
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Advanced Class)				
担当者名	清野 智昭				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第1学期 火曜日 1時限 西2-505				

### 授業概要

この授業はヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の評価基準B1の試験に合格している学生、あるいはそれと同程度のドイツ語力のある学生を対象とします。通訳・翻訳者養成演習(実践)(1)の授業と連動して週2回の授業で共通のテキストを使用して進めていきますので、できるだけ通訳・翻訳者養成演習(実践)(1)の授業とセットで受講してください。通訳・翻訳者養成演習(実践)(1)では教科書の偶数課を、通訳・翻訳者養成演習(実践)(3)では奇数課を扱います。受講に関する注意事項については、2年生以上対象のガイダンスの際に説明を行いますので、必ずガイダンスに出席し、事前に申し込みを行ってください。

### 到達目標

ヨーロッパ言語共通参照枠(GER)の評価基準B2試験に合格できるドイツ語力の習得を目指します。B2レベルの試験で必要とされるドイツ語力(読解力、文法知識、文章表現力、ヒアリング力の4分野)を、各テーマごとに練習し、各課の最後には理解力のチェックを行います。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Lektion 1 : Freunde (Lesen)
第2回	Lektion 1 : Freunde (Grammatik)
第3回	Lektion 1 : Freunde (Hören)
第4回	Lektion 1 : Freunde (Schreiben)
第5回	Lektion 3 : Medien (Lesen)
第6回	Lektion 3 : Medien (Grammatik)
第7回	Lektion 3 : Medien (Hören)
第8回	Lektion 3 : Medien (Schreiben)
第9回	Lektion 5 : Körperbewusstsein (Lesen)
第10回	Lektion 5 : Körperbewusstsein (Grammatik)
第11回	Lektion 5 : Körperbewusstsein (Hören)
第12回	Lektion 5 : Körperbewusstsein (Schreiben)
第13回	Referate zu selbst gewählten Themen und Evaluation

### 授業方法

Seminar im Klassenzimmer

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

毎回の授業で課題を出しますので、それを次回の授業までに必ず準備しておいてください。(1～2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	aktive Teilnahme
その他(備考欄を参照)	50 %	Hausaufgaben

### 成績評価コメント

授業への積極的な参加、課題、および各課の最後の理解度チェック課題により評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題についてはチェックをし、コメントを付記して返却します。

### 教科書

### 教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350304104	科目ナンバリング	035B502	単位	2
講義名	通訳・翻訳者養成演習(実践)(4)				
英文科目名	Training Seminar: for Interpreter and Translator (Advanced Class)				
担当者名	清野 智昭				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	第2学期 火曜日 1時限 西2-505				

### 授業概要

この授業はヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の評価基準B1の試験に合格している学生、あるいはそれと同程度のドイツ語力のある学生を対象とします。通訳・翻訳者養成演習(実践)(2)の授業と連動して週2回の授業で共通のテキストを使用して進めていきますので、できるだけ通訳・翻訳者養成演習(実践)(2)の授業とセットで受講してください。通訳・翻訳者養成演習(実践)(2)では教科書の偶数課を、通訳・翻訳者養成演習(実践)(4)では奇数課を扱います。受講に関する注意事項については、2年生以上対象のガイダンスの際に説明を行いますので、必ずガイダンスに出席し、事前に申し込みを行ってください。

### 到達目標

ヨーロッパ言語共通参照枠(GER)の評価基準B2試験に合格できるドイツ語力の習得を目指します。B2レベルの試験で必要とされるドイツ語力(読解力、文法知識、文章表現力、ヒアリング力の4分野)を、各テーマごとに練習し、各課の最後には理解力のチェックを行います。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Lektion 7 : Beziehungen (Lesen)
第2回	Lektion 7 : Beziehungen (Grammatik)
第3回	Lektion 7 : Beziehungen (Hören)
第4回	Lektion 7 : Beziehungen (Schreiben)
第5回	Lektion 9 : An der Uni (Lesen)
第6回	Lektion 9 : An der Uni (Grammatik)
第7回	Lektion 9 : An der Uni (Hören)
第8回	Lektion 9 : An der Uni (Schreiben)
第9回	Lektion 11 : Gesundheit (Lesen)
第10回	Lektion 11 : Gesundheit (Grammatik)
第11回	Lektion 11 : Gesundheit (Hören)
第12回	Lektion 11 : Gesundheit (Schreiben)
第13回	Referate zu selbst gewählten Themen und Evaluation

### 授業方法

Seminar im Klassenzimmer

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

毎回の授業で課題を出しますので、それを次回の授業までに必ず準備しておいてください。(1～2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	aktive Teilnahme
その他(備考欄を参照)	50 %	Hausaufgaben

### 成績評価コメント

授業への積極的な参加、課題、および各課の最後の理解度チェック課題により評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題についてはチェックをし、コメントを付記して返却します。

### 教科書

### 教科書コメント

教科書は、学年始めのガイダンスでの学科の指示に従って購入してください。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

受講条件を満たさない場合には、受講できません。ガイダンスの際に行う説明に従って、必ず指定期日までに申込みを行ってください。

講義コード	U350305101	科目ナンバリング	035A301	単位	2
講義名	コミュニケーション演習(上級)(1)				
英文科目名	German Communication (Advanced Class)				
担当者名	櫻井 麻美				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 金曜日 5時限 西1-108				

### 授業概要

この授業では、初級文法を復習しつつ、状況ごとに適切な語彙・表現を用いて自ら発信する訓練をします。その際、正しい文構造だけでなく、適切な語感が身につくような練習をしていきます。

### 到達目標

- ・語彙を増やし、単に通じるというだけでなく、シチュエーションに適切な表現を用いて自然なドイツ語で発信ができるようになる。
- ・正しい文構造に基づいた表現ができるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス(授業の進め方、一般的な注意)、自己紹介の表現
第2回	Lektion 1 話法の助動詞の使い方
第3回	Lektion 1 勧める表現
第4回	Lektion 2 申し込み・登録する際の表現
第5回	Lektion 2 聞き返しの表現
第6回	Lektion 3 学生寮で使う表現
第7回	Lektion 3 語彙の増やし方: 合成語
第8回	Lektion 4 提案する
第9回	Lektion 4 提案して計画する
第10回	Lektion 5 接続語句の用法
第11回	Lektion 5 日本の行事について説明する
第12回	Lektion 6 語彙の増やし方: 前つづりと後つづり
第13回	Lektion 6 飲食店で使う表現

### 授業方法

この授業は対面で行う演習です。課題の説明は最小限にとどめ、グループやペアでの練習を多く行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

- ・予習: 次回の授業で扱う箇所の発音練習を付属の音源を聴きながら行い、単語の意味を調べる。(30～60分程度)
- ・復習: 授業で新たに学習した語彙、フレーズを整理し、語彙を増やすことを目標に音読・暗記をする。また、扱った文法項目について、練習問題に繰り返し取り組み、自分の表現に取り入れられるようにする。(60～90分程度)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	60 %	各課ごとに行う小テストを評価
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	積極的な授業参加、課題提出、出席などを評価
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

各課ごとに行う小テストでは、自分で表現・発信する際に、学習したことを応用・運用できるかという点を中心に評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テスト、課題は、添削後返却し、授業内でフィードバックします。

### 教科書

モデル3 問題発見のドイツ語, 平高、リースラント、藁谷、木村, 三修社, 2006, 978-4-384-13077-5

### 教科書コメント

第2学期の「コミュニケーション演習(上級)(2)」では、同じ教科書の後半部分を扱います。

### 参考文献コメント

参考文献は、必要に応じて授業内で紹介します。

### 履修上の注意

第2学期に開講される「コミュニケーション演習(上級)(2)」と合わせて履修することが望ましい。  
人数制限は設けないが、第1回の授業に必ず参加すること(参加しなかった場合は参加を断ることがある)。

### その他

自分のドイツ語力を積極的に伸ばしたい学生を歓迎します。授業での練習・課題をきちんとこなすだけでなく、その一歩先まで自分で調べて・学ぶ姿勢を求めます。

講義コード	U350305102	科目ナンバリング	035A301	単位	2
講義名	コミュニケーション演習(上級)(2)				
英文科目名	German Communication (Advanced Class)				
担当者名	櫻井 麻美				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 金曜日 5時限 西1-108				

### 授業概要

この授業では、初級文法を復習しつつ、状況ごとに適切な語彙・表現を用いて自ら発信する訓練をします。その際、正しい文構造だけでなく、適切な語感が身につくような練習をしていきます。

### 到達目標

- ・語彙を増やし、単に通じるというだけでなく、シチュエーションに適切な表現を用いて自然なドイツ語で発信ができるようになる。
- ・正しい文構造に基づいた表現ができるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	第1学期の復習、休暇について報告する
第2回	Lektion 7 比較表現、ドイツの公共交通機関
第3回	Lektion 7 手順・使い方の説明
第4回	Lektion 8 werdenのいろいろな用法、問題を伝える
第5回	Lektion 8 体験を伝える
第6回	Lektion 9 受動態の使い方
第7回	Lektion 9 不定関係代名詞was、好みや印象を伝える
第8回	Lektion 10 関節話法(接続法第1式)と直接話法
第9回	Lektion 10 過去完了、sagen/sprechenと似た意味の表現
第10回	Lektion 11 心態詞
第11回	Lektion 11 議論・ディスカッションで使う表現
第12回	Lektion 12 さまざまな受動表現
第13回	Lektion 12 数字を用いた表現

### 授業方法

この授業は対面で行う演習です。課題の説明は最小限にとどめ、グループやペアでの練習を多く行います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

- ・予習: 次回の授業で扱う箇所の発音練習を付属の音源を聴きながら行い、単語の意味を調べる。(30～60分程度)
- ・復習: 授業で新たに学習した語彙、フレーズを整理し、語彙を増やすことを目標に音読・暗記をする。また、扱った文法項目について、練習問題に繰り返し取り組み、自分の表現に取り入れられるようにする。(60～90分程度)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	60 %	各課ごとに行う小テストを評価
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	積極的な授業参加、課題提出、出席などを評価
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

各課ごとに行う小テストでは、自分で表現・発信する際に、学習したことを応用・運用できるかという点を中心に評価します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テスト、課題は、添削後返却し、授業内でフィードバックします。

### 教科書

モデル3 問題発見のドイツ語、平高、リースラント、藁谷、木村、三修社、2006、978-4-384-13077-5

### 教科書コメント



第1学期の「コミュニケーション演習(上級)(1)」で使用した教科書の後半部分を扱います。

### **参考文献コメント**

参考文献は、必要に応じて授業内で紹介します。

### **履修上の注意**

第1学期に開講される「コミュニケーション演習(上級)(1)」と合わせて履修することが望ましい。  
人数制限は設けないが、第1回の授業に必ず参加すること(参加しなかった場合は参加を断ることがある)。

### **その他**

自分のドイツ語力を積極的に伸ばしたい学生を歓迎します。授業での練習・課題をきちんとこなすだけでなく、その一歩先まで自分で調べて・学ぶ姿勢を求めます。

講義コード	U350305103	科目ナンバリング	035A301	単位	2
講義名	コミュニケーション演習(上級)(3)				
英文科目名	German Communication (Advanced Class)				
担当者名	MEYER, Thomas Horst				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 月曜日 3時限 西1-206				

### 授業概要

Der Kurs richtet sich an Studierende mit fortgeschrittenen Kenntnissen der deutschen Sprache und bietet ihnen die Möglichkeit, ihre Sprechfähigkeiten zu konsolidieren und zu erweitern. Der Unterricht wird auf Deutsch abgehalten, kurze Interventionen auf Japanisch sind jedoch möglich.

### 到達目標

Die Teilnehmer sollen in Partner- und Gruppenarbeit Funktion und Einsatz von Redemitteln erlernen und ihre variablen Anwendungsmöglichkeiten ausprobieren können. Die Studenten erhalten jeweils ausreichend Zeit, das Erlernete praktisch anzuwenden und je nach Leistungsstärke und Eigeninteresse in Partner- und Gruppenarbeit zu variieren. Ziel ist es, die allgemeine Sprech- und Kommunikationsfähigkeit der Teilnehmer zu verbessern.

Die Beherrschung des Grundwortschatzes wird vorausgesetzt!

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung/Bildbeschreibung I
第2回	Bildbeschreibung II
第3回	Wegbeschreibung und Orientierung
第4回	Personenbeschreibung I
第5回	Personenbeschreibung II + Hypothesen
第6回	Sachbeschreibung (Formen, Farben, Materialien)
第7回	Abstrakte Bilder (Vergleiche, Konjunktiv)
第8回	Schaubilder - Diagramme - Statistiken I
第9回	Schaubilder - Diagramme - Statistiken II
第10回	TestDAF Mündliche Prüfung I
第11回	TestDAF Mündliche Prüfung II
第12回	Diskussion und Fragen I
第13回	Diskussion und Fragen II

### 授業方法

Die Arbeitsmaterialien und Aufgaben werden vom Kursleiter bereitgestellt und erläutert. Häufig gibt es eine kleinere Vorübungen oder schriftliche Aufgaben, die in Einzel- oder Partnerarbeit erledigt werden, bevor die Teilnehmer dann in Partner- oder Gruppenarbeit den Einsatz bestimmter Redemittel jeweils bezogen auf konkrete Aufgabenstellungen (etwa Bildbeschreibung oder Erläuterung einer Statistik) einüben können. Das Einüben der Redemittel wird gelegentlich mit wechselnden Sprechpartnern wiederholt.

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts werden die Teilnehmer gelegentlich dazu angehalten, eigenständig Übungsmaterial für die nächste Sitzung zu beschaffen.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	mündliche Prüfung
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback, persönliche Sprechstunde (falls erwünscht)



講義コード	U350305104	科目ナンバリング	035A301	単位	2
講義名	コミュニケーション演習(上級)(4)				
英文科目名	German Communication (Advanced Class)				
担当者名	MEYER, Thomas Horst				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 月曜日 3時限 西1-206				

### 授業概要

Der Kurs richtet sich an Studierende mit fortgeschrittenen Kenntnissen der deutschen Sprache und bietet ihnen die Möglichkeit, ihre Sprechfähigkeiten zu konsolidieren und zu erweitern.

Während im Sommersemester eher bestimmte Strukturen und Aufgabentypen im Vordergrund stehen, die Bestandteil von üblichen Deutschprüfungen sind (TestDAF, 独検 etc.), liegt der Fokus im Wintersemester auf diversen Themenfeldern, die teilweise von der Teilnehmern selbst bestimmt werden können.

Der Unterricht wird auf Deutsch abgehalten, kurze Interventionen auf Japanisch sind jedoch möglich.

### 到達目標

Die Teilnehmer sollen in Partner- und Gruppenarbeit Funktion und Einsatz von Redemitteln erlernen und ihre variablen Anwendungsmöglichkeiten ausprobieren können. Die Studenten erhalten jeweils ausreichend Zeit, das Erlernete praktisch anzuwenden und je nach Leistungsstärke und Eigeninteresse in Partner- und Gruppenarbeit zu variieren. Ziel ist es, die allgemeine Sprech- und Kommunikationsfähigkeit der Teilnehmer zu verbessern.

Die Beherrschung des Grundwortschatzes wird vorausgesetzt!

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung / Semesterferien
第2回	Familie
第3回	(Lieblings-)Gegenstände
第4回	Hobbys / Talente
第5回	Musik
第6回	Träume ↔ Trauma
第7回	Medien
第8回	Erziehung
第9回	Gesundheit
第10回	Geld / Wirtschaft
第11回	Themen und Materialien der Kursteilnehmer I
第12回	Themen und Materialien der Kursteilnehmer II
第13回	Themen und Materialien der Kursteilnehmer III

### 授業方法

Die Arbeitsmaterialien und Aufgaben werden in den Stunden 1-10 vom Kursleiter bereitgestellt und erläutert. Die Teilnehmer sind jedoch an der Vorbereitung beteiligt, indem sie eigenständig oder in Partnerarbeit Fragen, Redemittel und themenbezogenes Vokabular erarbeiten, die sie später im Unterricht einsetzen.

Die Gesprächsübungen teilen sich im Wesentlichen in Partnerinterviews und Gruppendiskussionen auf. Dies überlässt den Teilnehmern ein hohes Maß an Selbststeuerung (auch in Bezug auf Korrektur und Feedback des Kursleiters). Die Teilnehmer wählen selbst die Themen der Stunde 11-14 und bereiten entsprechende Arbeitsmaterialien vor.

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts werden die Teilnehmer gelegentlich dazu angehalten, eigenständig Übungsmaterial für die nächste Sitzung zu beschaffen.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	mündliche Prüfung
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	

授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果

%

その他(備考欄を参照)

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

mündliches Feedback, persönliche Sprechstunde (falls erwünscht)

講義コード	U350305105	科目ナンバリング	035A301	単位	2
講義名	コミュニケーション演習(上級)(5)				
英文科目名	German Communication (Advanced Class)				
担当者名	IHLOW, Uwe				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 木曜日 3時限 西1-304				

### 授業概要

In diesem Kurs ist das Leben der Menschen in deutschsprachigen Ländern das Thema. Mit Texten von unterschiedlichen Textsorten (lesen, hören, sehen) werden verschiedene Aspekte des Lebens vorgestellt. Das können persönliche, alltägliche Themen wie Familie oder Feste sein, aber auch gesellschaftliche Themen wie Migration oder die Wiedervereinigung.

### 到達目標

Nachdem die Studierenden mit Hilfe von Texten (lesen, hören, sehen) Informationen zu einem Thema verstanden haben, tauschen sie eigene Ideen, Gedanken, Meinungen usw. miteinander aus. Dies kann mündlich (sprechen) oder schriftlich (schreiben) geschehen.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Orientierung
第2回	Thema 1 nach dem Unterricht Thema 1
第3回	Thema 1
第4回	Thema 1
第5回	Thema 2
第6回	Thema 2
第7回	Thema 2
第8回	Thema 3
第9回	Thema 3
第10回	Thema 3
第11回	Thema 4
第12回	Thema 4
第13回	Zusammenfassung

### 授業計画コメント

Die Themenvorschläge sind zwischen 2-4 Unterrichtstage. Die Reihenfolge ist nicht festgelegt. Außerdem sind andere Themen möglich.

- Frau und Herr Müller - die Durchschnittsdeutschen
- Die Mauer: kleine deutsche Geschichte
- Meine Zukunft, unsere Zukunft
- Isst du gern Gemüse?: Ernährung und Essen
- Meine Familie und andere Beziehungen

### 授業方法

Die Studierenden bearbeiten die Aufgaben vor allem in Paar- und Gruppenarbeit im Präsenzunterricht. Das Schreiben eigener Texte - meistens als Hausaufgabe - ist ein wichtiger Teil des Kurses.

### 使用言語

英語

### 準備学習(予習・復習)

- Vorbereitung der Lesetexte
- Schreiben eigener Texte

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	50 %	

小テスト

%

授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果

50 %

その他(備考欄を参照)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

per Mail: [uweihlowshindo@gmail.com](mailto:uweihlowshindo@gmail.com)

nach dem Unterricht

講義コード	U350305106	科目ナンバリング	035A301	単位	2
講義名	コミュニケーション演習(上級)(6)				
英文科目名	German Communication (Advanced Class)				
担当者名	IHLOW, Uwe				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 木曜日 3時限 西1-304				

### 授業概要

In diesem Kurs ist das Leben der Menschen in deutschsprachigen Ländern das Thema. Mit Texten von unterschiedlichen Textsorten (lesen, hören, sehen) werden verschiedene Aspekte des Lebens vorgestellt. Das können persönliche, alltägliche Themen wie Familie oder Feste sein, aber auch gesellschaftliche Themen wie Migration oder die Wiedervereinigung.

### 到達目標

Nachdem die Studierenden mit Hilfe von Texten (lesen, hören, sehen) Informationen zu einem Thema verstanden haben, tauschen sie eigene Ideen, Gedanken, Meinungen usw. miteinander aus. Dies kann mündlich (sprechen) oder schriftlich (schreiben) geschehen.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Orientierung
第2回	Thema 1
第3回	Thema 1
第4回	Thema 1
第5回	Thema 2
第6回	Thema 2
第7回	Thema 2
第8回	Thema 3
第9回	Thema 3
第10回	Thema 3
第11回	Thema 4
第12回	Thema 4
第13回	Zusammenfassung

### 授業計画コメント

Die Themenvorschläge sind von 2-4 Unterrichtstage. Die Reihenfolge ist nicht festgelegt. Außerdem sind andere Themen möglich.

- Digital oder analog? Was magst du?
- Wohin reist du? In die Alpen oder an die Nordsee?
- Jeder ist Ausländerin, fast überall! Migration in der Welt
- Was ist gutes Benehmen?
- Kennen Sie Margarete Steiff? Biografien bekannter Menschen

-

### 授業方法

Die Studierenden bearbeiten die Aufgaben vor allem in Paar- und Gruppenarbeit im Präsenzunterricht. Das Schreiben eigener Texte - meistens als Hausaufgabe - ist ein wichtiger Teil des Kurses.

### 使用言語

英語

### 準備学習(予習・復習)

- Vorbereitung der Lesetexte
- Schreiben eigener Texte

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	50 %	



小テスト

%

授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

per Mail: [uweihlowshindo@gmail.com](mailto:uweihlowshindo@gmail.com)

nach dem Unterricht

講義コード	U350306101	科目ナンバリング	035B302	単位	2
講義名	アカデミック・ライティング演習(1)				
英文科目名	Seminar of Academic Writing				
担当者名	PEKAR, Thomas				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 水曜日 3時限 北1-402				

### 授業概要

Dieser Kurs gibt den Studierenden, die eine Abschlussarbeit schreiben, eine Einführung sowohl in das akademische bzw. wissenschaftliche als auch das dafür grundlegende kreative Schreiben. Es werden weiter Grundlagen des wissenschaftlichen Arbeitens, der Seminarpräsentation und der Rhetorik vermittelt sowie Diskussions- und Argumentationstechniken erarbeitet. Die Studierenden haben später Gelegenheit, die Arbeitsprojekte ihrer Abschlussarbeiten ausführlich darzustellen und mit den anderen Studierenden und dem Seminarleiter zu diskutieren.

### 到達目標

Der Kurs vermittelt Grundlagen des wissenschaftlichen Arbeitens und Schreibens unter Berücksichtigung kreativer Schreibprozesse. Es werden grundlegend Diskussions- und Präsentationstechniken vermittelt. Zudem sollen Reflexionsprozesse über die eigene wissenschaftliche Arbeit ausgelöst werden.

### 授業内容

#### 実施回 内容

第1回	Vorstellung und Einführung in die Thematik
第2回	Wissenschaftliches und kreatives Schreiben I
第3回	Wissenschaftliches und kreatives Schreiben II
第4回	Was ist ein Interpretationscluster?
第5回	Übungen zum Interpretationscluster
第6回	Grundlagen des wissenschaftlichen Arbeitens
第7回	Wissenschaftliches Arbeiten: Bibliografie, Recherche, Titel
第8回	Wissenschaftliches Arbeiten: Datenbanken
第9回	Argumentation
第10回	Grundlagen der Rhetorik I
第11回	Grundlagen der Rhetorik II
第12回	Abschlussprüfung (Test)
第13回	Rückgabe des Tests, Abschlussdiskussion

### 授業方法

Gruppendiskussion, Gruppenarbeit, Impulsanregungen durch die Teilnehmer/Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter, Mediennutzung

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüren, Vorbereitungen und Erledigungen von Arbeitsaufträgen sind im Umfang von ca. 60 Minuten wöchentlich zur Seminarvorbereitung notwendig. Bei einem Referat/Vortrag erhöht sich die Vorbereitungszeit.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

Jeder Teilnehmer/jede Teilnehmerin soll seine/ihre Abschlussarbeit in einer Seminarsitzung vorstellen. Mit der Diskussionszeit beträgt die Dauer dieser Vorstellung ca. 45 Minuten. Weiter ist die regelmäßige Seminarteilnahme und die Beteiligung an den Diskussionen Voraussetzung.

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter spricht mit jedem Teilnehmer/jeder Teilnehmerin über sein/ihr Referat vor und nach der Präsentation. Weiter kann jederzeit über den Unterricht gesprochen werden, z.B. über Verständnisprobleme. Dies kann nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

#### 教科書コメント

Alle Texte werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

#### 参考文献コメント

Alle Texte werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

講義コード	U350306102	科目ナンバリング	035B302	単位	2
講義名	アカデミック・ライティング演習(2)				
英文科目名	Seminar of Academic Writing				
担当者名	PEKAR, Thomas				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 水曜日 3時限 北1-402				

### 授業概要

Dieser Kurs gibt den Studierenden, die eine Abschlussarbeit schreiben, eine Einführung sowohl in das akademische bzw. wissenschaftliche als auch das dafür grundlegende kreative Schreiben. Es werden weiter Grundlagen des wissenschaftlichen Arbeitens, der Seminarpräsentation und der Rhetorik vermittelt sowie Diskussions- und Argumentationstechniken erarbeitet. Die Studierenden haben später Gelegenheit, die Arbeitsprojekte ihrer Abschlussarbeiten ausführlich darzustellen und mit den anderen Studierenden und dem Seminarleiter zu diskutieren.

### 到達目標

Der Kurs vermittelt Grundlagen des wissenschaftlichen Arbeitens und Schreibens unter Berücksichtigung kreativer Schreibprozesse. Es werden grundlegend Diskussions- und Präsentationstechniken vermittelt. Zudem sollen Reflexionsprozesse über die eigene wissenschaftliche Arbeit ausgelöst werden.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Wiederholung und Einführung
第2回	Grundlagen der Seminarpräsentation I
第3回	Grundlagen der Seminarpräsentation II
第4回	Vorträge der Studierenden und Diskussion
第5回	Vorträge der Studierenden und Diskussion
第6回	Vorträge der Studierenden und Diskussion
第7回	Vorträge der Studierenden und Diskussion
第8回	Vorträge der Studierenden und Diskussion
第9回	Vorträge der Studierenden und Diskussion
第10回	Vorträge der Studierenden und Diskussion
第11回	Vorträge der Studierenden und Diskussion
第12回	Vorträge der Studierenden und Diskussion
第13回	Abschlussdiskussion

### 授業方法

Gruppendiskussion, Gruppenarbeit, Impulsanregungen durch die Teilnehmer/Teilnehmerinnen (Referate) und den Seminarleiter, Mediennutzung

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüren, Vorbereitungen und Erledigungen von Arbeitsaufträgen sind im Umfang von ca. 60 Minuten wöchentlich zur Seminarvorbereitung notwendig. Bei einem Referat/Vortrag erhöht sich die Vorbereitungszeit.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

Jeder Teilnehmer/jede Teilnehmerin soll seine/ihre Abschlussarbeit in einer Seminarsitzung vorstellen. Mit der Diskussionszeit beträgt die Dauer dieser Vorstellung ca. 45 Minuten. Weiter ist die regelmäßige Seminarteilnahme und die Beteiligung an den Diskussionen Voraussetzung.

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Der Seminarleiter spricht mit jedem Teilnehmer/jeder Teilnehmerin über sein/ihr Referat vor und nach der Präsentation. Weiter kann jederzeit über den Unterricht gesprochen werden, z.B. über Verständnisprobleme. Dies kann nach den Unterrichtsstunden oder in der Sprechstunde geschehen.

#### 教科書コメント

Alle Texte werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

#### 参考文献コメント

Alle Texte werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

講義コード	U350308101	科目ナンバリング	035B504	単位	2
講義名	海外ドイツ語・文化研修				
英文科目名	Language and Culture Program in German speaking Countries				
担当者名	小林 和貴子				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	集中(通年) その他 集中講義				

### 授業概要

ライプツィヒ大学が提供する1ヶ月のドイツ語研修に参加する。

### 到達目標

- ・ドイツ語の高いコミュニケーション能力を獲得する。
- ・ドイツ語圏の社会において、実際にドイツ語を使って意思疎通ができるようになる。
- ・ドイツ語圏の大学で授業を受けられる程度のドイツ語能力を獲得する。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	現地での語学・文化研修
第3回	現地での語学・文化研修
第4回	現地での語学・文化研修
第5回	現地での語学・文化研修
第6回	現地での語学・文化研修
第7回	現地での語学・文化研修
第8回	現地での語学・文化研修
第9回	現地での語学・文化研修
第10回	現地での語学・文化研修
第11回	現地での語学・文化研修
第12回	現地での語学・文化研修
第13回	中間報告
第14回	現地での語学・文化研修
第15回	現地での語学・文化研修
第16回	現地での語学・文化研修
第17回	現地での語学・文化研修
第18回	現地での語学・文化研修
第19回	現地での語学・文化研修
第20回	現地での語学・文化研修
第21回	現地での語学・文化研修
第22回	現地での語学・文化研修
第23回	現地での語学・文化研修
第24回	現地での語学・文化研修
第25回	現地での語学・文化研修
第26回	総括

### 授業計画コメント

現地の授業では、ドイツ語の授業の他に、プロジェクトワークや遠足など多彩なプログラムが用意されている。

### 授業方法

現地で実践的に行われる。

### 使用言語

日本語・英語

### 準備学習(予習・復習)

現地での授業についていくためには、毎日、3時間程度の予習・復習が必要である。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		

学期末試験(第1学期)

学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	100%	
その他(備考欄を参照)		

#### 成績評価コメント

授業評価は現地の語学学校でCEFRに基づいた試験および平常点によって算出された評点に基づき、授業内容やクラスのレベル等を考慮して総合的に判断する。

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

実際に語学・文化研修に参加するにあたり生じた疑問に関して、その都度フィードバックを行う。

#### 履修上の注意

- ・受講希望者は、学科の指定するガイダンスに必ず出席し、受講登録をする前に必ず相談をすること。
- ・ライプツィヒ大学のコースに参加するためには、A2レベルかそれ以上のドイツ語力が必要とされる。

講義コード	U350310101	科目ナンバリング	035G651	単位	2
講義名	ジェンダー・スタディーズ演習(基礎)(1)				
英文科目名	Seminar on Gender Studies(Basic Class)				
担当者名	本山 央子				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第1学期 金曜日 4時限 南1-104				

### 授業概要

この演習では、ジェンダー研究を深めていくうえで基盤となる中核的な概念や考え方について、主に文献の講読(または映像資料の鑑賞)とディスカッションを通して習得します。前期は特にジェンダーの社会的構築、権力構造とアイデンティティに焦点をあてます。

### 到達目標

ジェンダーに関する社会構築主義的な理解、ポジショナリティと社会規範、権力関係に関する考え方について習得し、具体的な文脈にもとづいて説明し議論することができる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業方針、テキスト、分担の確認など)
第2回	文献講読とディスカッション
第3回	文献講読とディスカッション
第4回	文献講読/映像鑑賞とディスカッション
第5回	文献講読/映像鑑賞とディスカッション
第6回	文献講読/映像鑑賞とディスカッション
第7回	文献講読/映像鑑賞とディスカッション
第8回	文献講読/映像鑑賞とディスカッション
第9回	文献講読/映像鑑賞とディスカッション
第10回	文献講読/映像鑑賞とディスカッション
第11回	文献講読/受講生の発表とディスカッション
第12回	文献講読/受講生の発表とディスカッション
第13回	文献講読/受講生の発表とディスカッション

### 授業方法

演習(文献の講読、資料映像の鑑賞、ディスカッション)

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

テキストの指定範囲やその他資料は必ず事前に目を通し、わからないところ、議論したい点などをメモしておくこと。また日常生活で気になることなど積極的な提起を歓迎します。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートはコメントを付与の上返却する。

### 教科書

ジェンダーの考え方 権力とポジショナリティから考える入門書,池田緑,青弓社,1,2024,978-4-7872-3549-7 C0036

### 参考文献

『ジェンダー事典』,丸善出版,2024

『LGBTを読みとく』,森山至高,筑摩書房,2017



『トランスジェンダー入門』,周司あきら・高井ゆとり

『ジェンダーの神話: 性差の科学の偏見とトリック』,アン ファウスト・スターリング,工作舎,1990

『ジェンダー秩序 新装版』,江原由美子,勁草書房,2001

#### 参考文献コメント

主なものを挙げましたが副専攻の参考図書棚も見てください

講義コード	U350310102	科目ナンバリング	035G651	単位	2
講義名	ジェンダー・スタディーズ演習(基礎)(2)				
英文科目名	Seminar on Gender Studies(Basic Class)				
担当者名	本山 央子				
開設部門	ドイツ語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	第2学期 金曜日 4時限 南1-104				

### 授業概要

この演習では、ジェンダー研究を深めていくうえで基盤となる中核的な概念や考え方について、主に文献の講読(または映像資料の鑑賞)とディスカッションを通して習得します。後期では受講生の関心も反映しながら、ジェンダーに関わる幅広い問題について取り上げる予定です。

### 到達目標

ジェンダーやセクシュアリティに関する基本的概念と考え方を習得し、多様な問題領域や具体的問題について議論したり、自身の問題関心について深め発展させることができる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業方針、テキスト、分担の確認など)
第2回	文献講読/映像鑑賞とディスカッション
第3回	文献講読/映像鑑賞とディスカッション
第4回	文献講読/映像鑑賞とディスカッション
第5回	文献講読/映像鑑賞とディスカッション
第6回	文献講読/映像鑑賞とディスカッション
第7回	文献講読/映像鑑賞とディスカッション
第8回	文献講読/映像鑑賞とディスカッション
第9回	文献講読/映像鑑賞とディスカッション
第10回	文献講読/映像鑑賞とディスカッション
第11回	文献講読/受講生の発表とディスカッション
第12回	文献講読/受講生の発表とディスカッション
第13回	文献講読/受講生の発表とディスカッション

### 授業方法

演習(文献の講読、資料映像の鑑賞、ディスカッション)

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

テキストの指定範囲やその他資料は必ず事前に目を通し、わからないところ、議論したい点などをメモしておくこと。また日常生活で気になることなど積極的な提起を歓迎します。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートはコメントを付与の上返却する。

### 教科書

『ジェンダーの考え方 権力とポジショナリティから考える入門書』,池田緑,青弓社,2024

### 参考文献

『フェミニズム大図鑑』,ハンナ・マッケンほか,三省堂,2020

『フェミニズムってなんですか』,清水晶子,文春新書,2022

『近代家族の成立と終焉』,上野千鶴子,岩波書店,2020

『フェミニスト経済学』,長田・金井・古沢,有斐閣,2024

『ケアの倫理』,岡野八代,岩波書店,2024

#### 参考文献コメント

主なものを挙げましたが副専攻の参考図書棚も見てみてください